

ВОЗДЕЙСТВИЕ  
 ИННОВАЦИИ  
 ВЛИЯНИЕ  
 ДЕМОНСТРАЦИЯ  
 IMPACTO  
 INNOVACIÓN  
 INFLUENCIA  
 DEMOSTRACIÓN  
 الأثر الإيجابي  
 الابتكار  
 التأثير  
 الإيضاح والبرهان  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DÉMONSTRATION  
 效益  
 创新  
 影响  
 示范  
 インパクト  
 イノベーション  
 影響力  
 デモンストレーション  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 IMPACTO  
 INOVAÇÃO  
 INFLUÊNCIA  
 DEMONSTRAÇÃO  
 ВОЗДЕЙСТВИЕ  
 ИННОВАЦИИ  
 ВЛИЯНИЕ  
 ДЕМОНСТРАЦИЯ  
 IMPACTO  
 INNOVACIÓN  
 INFLUENCIA  
 DEMOSTRACIÓN  
 الأثر الإيجابي  
 الابتكار  
 التأثير  
 الإيضاح والبرهان  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DÉMONSTRATION  
 效益  
 创新  
 影响  
 示范  
 インパクト  
 イノベーション  
 影響力  
 デモンストレーション  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 IMPACTO  
 INOVAÇÃO  
 INFLUÊNCIA  
 DEMONSTRAÇÃO  
 ВОЗДЕЙСТВИЕ  
 ИННОВАЦИИ  
 ВЛИЯНИЕ  
 ДЕМОНСТРАЦИЯ  
 IMPACTO  
 INNOVACIÓN  
 INFLUENCIA  
 DEMOSTRACIÓN  
 الأثر الإيجابي  
 الابتكار  
 التأثير  
 الإيضاح والبرهان  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DÉMONSTRATION  
 效益  
 创新  
 影响  
 示范  
 インパクト  
 イノベーション  
 影響力  
 デモンストレーション  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 IMPACTO  
 INOVAÇÃO  
 INFLUÊNCIA  
 DEMONSTRAÇÃO

# インパクト



2-5

リーダーの視点

6-23

IFC は、およそ 60 年にわたり  
貧困層のための機会創出に邁  
進してきました。そこには、イ  
ノベーションと、重大なインパ  
クトを与えた発展の歴史が刻ま  
れています。



2121 PENNSYLVANIA AVENUE, NW  
WASHINGTON, DC 20433 USA  
202 473 3800

WWW.IFC.ORG

インパクト

24-31

IFC の世界的な結果

25 財務結果の要約  
25 業務結果の要約  
26 IFC の世界的な結果  
30 IFC の運営チーム

32-65

私たちのストーリー

32 民間セクター開発におけるリーダー  
40 IFC の優先的なセクター  
50 フロンティア市場  
58 最大の成果をあげるための資金動員

目次 本報告書は、IFC の革新性と民間セクターにお  
ける主導的役割をまとめたものです。その内容は、  
IFC の役割（民間セクター開発におけるリーダー、  
32 ～ 39 ページ）、IFC の業務（IFC の優先的セク  
ター、40 ～ 49 ページ）、IFC の業務分野（フロンテ  
ィア市場、50 ～ 57 ページ）、IFC 業務の進め方（最  
大の成果をあげるための資金動員、58 ～ 65 ページ）  
をはじめとする IFC の戦略に主眼がおかれています。  
この戦略は、機会創出や生活向上など多くの人々に  
とって重要な結果（インパクト）を達成するための  
ものです。



# IFC について

世界銀行グループの一員であるIFCは、民間セクター開発に専念する国際開発機関としては最大の規模を誇っています。

IFCは、民間セクター投資のための資金供与、国際金融市場での資本動員、企業と政府に対するアドバイザー・サービスを通じて、途上国が持続可能な成長を実現できるよう支援しています。新興市場では投資の収益性を示して他者を鼓舞する、いわゆる触媒としての役割を果たしています。

1956年に設立されたIFCは加盟国184カ国によって保有されており、その方針は、加盟国によって集合的に決定されます。IFCの活動は100カ国を超え、それにより新興国の企業と金融機関による雇用創出、税収確保、コーポレート・ガバナンスと環境パフォーマンスの向上、地元コミュニティへの貢献が可能となっています。

「貧困から脱出し、生活の向上を図る機会を、誰にも与えられるべきである」というのが、IFCのビジョンです。



## 2 ロバート・B・ゼーリック 世界銀行グループ総裁(2007~2012年)からのメッセージ



過去5年間は、世銀グループとIFCの顧客のニーズへの対応能力が試された期間でした。食糧危機、燃料危機、金融危機という3つの脅威が先進国と途上国を襲ったからです。

これらの国では、飢餓、貧困、失業、債務問題に直面し、政治的にも重大な意味を含んだ経済的、社会的、人道的危機へと発展しました。こうした困難な時期に、世銀グループは、柔軟性、即応性、革新性、結果重視の姿勢を以って顧客支援の強化に臨みました。この難しい取り組みの中で、機会と希望を見出そうとしたのです。

世銀グループの出資国からは、世銀の優先課題の実施に向け、万全な財政支援を賜りました。2007年と2010年のIDA増資では、これまでで最高の900億ドル以上の拠出を受けました。また2010年には、出資国の後押しのおかげでIBRDの増資が20余年ぶりに実現しました。今日、世銀は、十分な資金を備えたトリプルAの格付けを有しています。

世界経済で成長の多極化が進む中、世銀は、国際的協調の刷新を図る一方、開放性、説明責任、知識と情報のさらなる共有を通じて開発の民主化も進めてきました。社会的責任の追求、腐敗の取締り、ガバナンス向上のための基礎を築いているのです。また、アフリカを中心とする全ての地域で、貧困削減に続けて注力し、最も弱い立場にある人々の保護に向け、財政責任をわきまえた人間のためのセーフティネットが必要であると強調してきました。同時に、成長の重要な原動力となりつつある中所得国を対象に、新商品のカスタマイズも進めました。世銀のアジェンダには、ジェンダー平等、食糧安全保障、気候変動・生物多様性、インフラ投資、災害予防、金融におけるイノベーション、貧困層への配慮といった課題が含まれています。

世銀グループは、途上国の民間セクターで中心的役割を果たすことに特に注目してきました。その支援としては、投資と民間セクターの活動に適した環境づくり、中小企業やマイクロファイナンス機関向け資金供与、貿易金融支援、官民パートナーシップ促進、そして紛争の影響下にある脆弱国を始めとする援助を最も必要とする国々での投資奨励が挙げられます。

IFCはこうした取組みの中心にあります。生産的な民間セクターの構築を通じて、成長促進、雇用創出、そして貧困国・中所得国での問題解決に努めています。IFCの役割は、起業家の夢を適え、コミュニティを豊かにする際の助力となることです。また、IFCの業務は、危機に見舞われたときにビジネスや政府の対応力を高めることにより、気候変動、食糧安全保障、富と所得の創出といった最も困難な開発課題に対処できるようにすることです。

IFCは、2012年度に200億ドル以上の資金を供与しました。そのうち50億ドル近くはパートナー機関から動員したものです。ラース・チュネル長官の指導下で、IFCは、最貧国・地域をその戦略の中核に据えました。本年度の新規プロジェクトのほぼ半数は、IFCが最大の効果をあげることのできるIDAの融資適格国を対象としたものでした。本年度には、IDA適格国58カ国で283件のプロジェクトに合計60億ドル近くの投融資を行いました。

混乱をきたした経済移行中の中東・北アフリカでは、小企業への金融アクセスを拡大する傍ら、市場の要求に見合った仕事のスキルを若者の間で育成し、長年疎かにされていたインフラに資金を提供しました。2011年にアラブ諸国で変革が始まって以来、IFCは総額20億ドル以上を同地域に投じました。

IFCはまた、各国間の貿易フローの円滑化と重要な一次産品価格の堅持に不可欠となる短期融資の業務の拡充も図りました。この業務により、比較的低リスクで開発促進と市場開放が大幅に進んでいます。

IFCアセット・マネジメント社(AMC)は、革新的な発想によって、途上国に素早く恩恵をもたらせることを実証しました。同社は、新たな資金動員の道を発掘しています。その運用資産は現在45億ドルに達し、そのうち30億ドル弱は、それまで新興市場とほとんど関わりのなかった外部投資家から調達したものです。

ラース・チュネル長官は、私と同様に、本年度末に退任されます。IFCの近年の成功はひとえに、チュネル長官のビジョン、創造性、そして民間セクター開発への意気込みを反映したものです。同氏はまた、世銀グループの運営陣にとっても貴重な協力者であり助言者でもありました。

ロバート・B・ゼーリック  
世界銀行グループ総裁  
2012年6月30日





# 繁栄する 社会の構築、 貧困の撲滅

IFC の 2012 年度の年次報告書をここに提出することを喜ばしく思います。本報告書には、多難な世界経済情勢で達成された IFC の業績と有効性についての要約が掲載されています。

本書はまた、繁栄する社会の構築と貧困撲滅という共通の目標を前進させるには、世銀グループの諸機関全体で連携を深め、外部のパートナーと協働することが極めて重要であることを強調しています。

今日、世銀グループは、貧困層を配慮した持続可能な成長と社会的進展を加速的に進める上で、またとない機会に恵まれています。途上国が直近の圧力に対応する中で、IFC は、特に費用対効果の高い社会セーフティネットの育成を支援することにより、これらの国々を続けて支援しています。一方、長期的な開発戦略の立案と実施においても、貸付、知識、経験を駆使して途上国を支援できる適切な立場にあります。

私は、世銀理事会、パートナー、顧客、そして世銀本部と世界各地で活躍する献身的な世銀グループの職員と力を合わせて業務に邁進していく所存です。途上国による直下の圧力への対応と将来の機会創出を支援するという私どもの使命はかつてない重要性をもっています。この重大な課題に取り組めますことを誠に光栄に思います。

A handwritten signature in black ink, likely belonging to Jim Yong Kim. The signature is stylized and fluid, with a large, sweeping initial 'J' and 'Y'.

ジム・ヨン・キム  
世界銀行グループ総裁  
2012 年 7 月 1 日



IFC は変革する世界に適応しています。かつて世界経済のわずかな部分しか占めていなかった途上国は今や、世界の成長の主要な推進力となっています。

これらの国では、消費者層がしだいに拡大する一方、1 日 1.25 ドル未満でかろうじて暮らす人々も 10 億人を超えています。金融危機により早急な雇用対策の必要性が浮き彫りになりました。またソーシャル・メディアの浸透で、政府や公的機関の透明性と説明責任が国民の間で声高に叫ばれています。

新しい市場  
参加者の  
増大に伴い、  
開発の進め  
方にも変化が  
起きています。

こうした状況を受け、IFC は、開発金融の在り方と業務の推進方法を定義し直しました。資金動員においては革新的な手段を設定し、世界の最貧地域と脆弱な地域で業務を拡大しました。アフリカでは、ここ 5 年ほどで投融資が 2 倍以上に増大し、エクイティ投資や短期融資も増えたほか、世界貿易と小企業にとって不可欠な流動性も促されました。さらに、開発のための重要なグローバル・パートナーシップの形成に貢献し、民間セクター開発の抱える課題の分析や発想でも主導的存在となってきました。

IFC の成功を通じて、民間セクターが果たすことのできる重要な開発上の役割を、政府や関係者に認識してもらうことにも役立ちました。一方、貧困国では、起業精神や雇用のための種をまき、長年の紛争から脱却して政府の税収を増やすには、機能的な民間セクターが不可欠となります。

また、今後 10 年間に失業率の削減をはかるには何百万もの雇用を新たに創出しなければなりません。さらに、今後 20 年間に気候変動の影響を緩和し適応するには年間最高 3,000 億ドルもの投資が必要となります。民間セクターなくしてこれを達成することは不可能です。民間セクター開発に専念する世界最大の機関である IFC の役割は明らかです。

新しい市場参加者の増大に伴い、開発の進め方にも変化が起きています。そのためには、20 カ国・地域グループ (G20)、財団、様々な資金動員のパートナー、そして世銀グループの諸機関との協調や連携を通じて、さらに多くの機会を作り出す必要があります。金融アクセスとインクルーシブなビジネスに関する G20 との協働、現地通貨建て融資拡大への取組み、利用可能な水資源の確保に向けた「水資源グループ (WRG)」と民間セクターとの協力、そして企業や開発機関による IFC の環境・社会基準の導入促進などは全てこの精神に則したものです。

近年の経済・金融危機が引金となって新しい問題も発生しました。先行きが不透明な時期には、銀行は往々にして自己資金を保護し、新興市場も含めこれまで高リスクとみなされてきた分野での貸付を渋りがちです。その結果が深刻な場合もあります。IFC は、新たな資金源の探求と確保、短期的融資活動の拡充、女性のための機会創出を特に強調することで、この問題に対応しています。途上国では女性による小企業の所有率が 3 分の 1 以上を占めています。

世銀グループは、欧州危機の影響を受けた国々に対し 270 億ドルの資金拠出をコミットしました。この取組みの重要な一環として IFC は、利用可能な資金の増強と東欧・南欧の脆弱な市場への支援に向けた一連の斬新なイニシアティブを立ち上げました。

2009 年に設立された IFC アセット・マネジメント社 (AMC) を通じて、途上国は長期的な株式資本を新たな資金源として利用できるようになりました。2012 年度末の同社の運用資産は 45 億ドルに達し、有望な将来が期待されています。IFC は、貿易金融と一次産品向け金融が途上国で途絶えることがないように尽力しました。この資金がなければ国際貿易は行き詰まってしまいます。貿易金融は、低リスクで開発効果を拡大する一つの手段であるため、これに向けた IFC の投融資は増加し続けています。

また、職員と意思決定の権限を顧客に近い場所に移動する努力の一環として、IFC の内部でも業務の進め方を改善しています。今や、職員の半数以上は途上国の現地事務所で活躍しています。多数の国での事務所の開設に加え、取引処理の加速化のためイスタンブールに業務センターを設置しました。こうした変更により、IFC のグローバルな知識と現地知識を最大限に活かすことが可能になります。さらに、結果重視への取組みも拡充し、IFC の戦略と意思決定の推進力となる「IFC 開発目標」を導入しました。

## IFC は、開発金融の在り方と業務の推進方法を定義し直しました。

私が IFC で在任している間、公私ともに充実した時を過ごすことができ、IFC のチーム全員に深い謝意を表します。機会創出と人々の生活の向上に向け、常に献身的に取り組んでいただいた職員の皆様のおかげで、IFC は目覚ましい成功を収めました。

過去 6 年にわたり、この活動の一部となれましたことを誠に光栄に思います。IFC の業務は大きなインパクトを与えます。貧しい人々の暮らしをよくするだけでなく、かつてない形で民間セクターの対応力も築いているのです。

私は、IFC が、途上国の現下の課題に取り組み、今後そのビジョンを達成するにあたり、新たな機会に創造力を働かせて機敏に対応できる立場にあると確信しております。



ラース・H・チュネル

IFC 長官

2012 年 6 月 30 日



本書には、急速に  
変化する世界で、  
IFCが達成した  
成果についての  
ストーリーが掲載  
されています。



5年前、IFCは、業務の大半をワシントン DC 外で進めるプロジェクト・ファイナンスの専門機関に過ぎませんでした。

---

しかし今は違います。それ以来、革新的な金融商品とアドバイザリー・サービスを立案し、顧客重視、成果の最大化に力を注ぐことで、開発金融の在り方を考え直してきました。今日、IFCは、世界 100 カ国以上に現地事務所を設け、民間セクターに専念する世界でも傑出した開発機関となっています。

この変容のカギとなったのは、民間セクター開発の主導者としての力量を結集させた戦略を終始貫いてきたことと、最も効果の上がる領域に努力を集中させてきたことです。



助言

# インパクト

ブランド

戦略

成長





パートナー

アフリカ

顧客

AMC

IDA


短期  
融資

## IFC の成功を築いた要因

IFC の過去 5 年間の業績

IFC の成功の秘訣は、一貫性と創造力にあります。堅実な戦略を導入することで、成長、イノベーション、そして開発成果の向上を 5 年にわたり達成してきたのです。今日、IFC は民間セクターに的を絞る開発機関としては世界最大の規模を誇っています。

10 ビジネスの成長	12 フロンティア市場と IDA 適格国の重視	12 アフリカにおける IFC 業務の拡大	14 アドバイザー・ サービス	16 短期融資
18 AMC の設立	20 思考のリーダーと重要な パートナーの組合せ	20 顧客に近い現場 への移動	22 IFC という ブランド名の構築	22 戦略の実施



倍増した IFC の  
プロジェクト数

576

件

倍増した IFC の  
投融資契約の  
ポートフォリオ残高

450

億ドル以上

IFC の投融資プロジェク  
トのほぼ半数は  
IDA 適格国を対象

283

件のプロジェクト

IFC の顧客であるインドの Magma Fincorp Private Limited からの融資でバスを購入した小事業主モハメド・ナシム・アハメド。



## ビジネスの成長

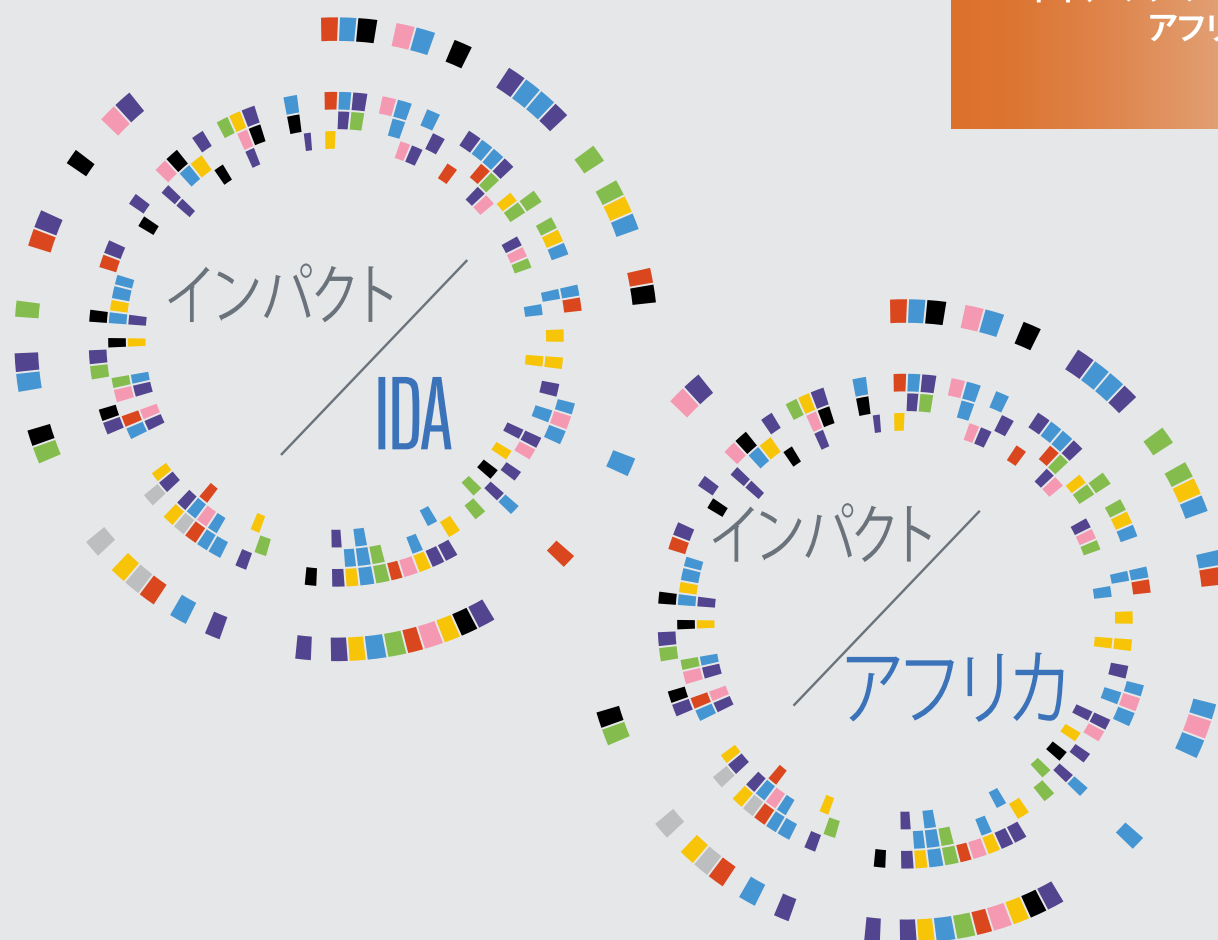
IFC は、雇用創出、イノベーション促進、そして世界でも喫緊の開発課題への対応において民間セクターの力を活用することで、途上国の民間企業向け投融資を 200 億ドル以上に倍増させました。経済危機からの影響緩和に向けた画期的なイニシアティブも立ち上げ、それまで 66 カ国だった業務範囲は 100 カ国以上に広がりました。



## フロンティア市場と IDA 適格国の重視

IFC は、世界の最貧国、紛争の影響下にある脆弱な状況、中所得国のフロンティア地域に業務の的を一段と絞り込みました。その結果、6 年前には想像もつかなかった幅広い地域の人々に支援を行えるようになりました。2005 年度以来、IDA 適格国向け投融資は 6 倍に増え、ほぼ 60 億ドルに達しています。現在、IFC の投融資プロジェクトのほぼ半数は最貧国を対象とし、アドバイザー・サービス・プログラムの支出の約 3 分の 2 は IDA 適格国に向けられています。また、紛争の影響下にある脆弱国では、活発な投融資を 19 カ国で、またアドバイザー・サービスは 32 カ国で展開しました。

IFC の顧客は  
昨年、サブサハラ・  
アフリカで



## アフリカにおける業務の拡大

人口のほぼ半数が1日1.25ドル未満で暮らすサブサハラ・アフリカで開発を促進することは IFC の優先課題となっています。この地域での投融資はここ 5 年間で 2 倍以上に増大し、動員した資金を含め、約 40 億ドルに達しました。同地域は毎年、IFC 投融資の世界合計の約 5 分の 1 を占めています。サブサハラ・アフリカでは、昨年、IFC の顧客が 25 万人以上の雇用を生みました。この地域では、IFC のアドバイザー・サービスも最も活発に進められ、プログラムの支出の 30% 近くを占めています。

A man in a green jumpsuit stands in a greenhouse, holding a large bouquet of roses. The greenhouse has a wooden frame and a translucent covering. The plants are lush green with some red leaves.

# 25万人以上

の雇用を  
生み出しました

ルワンダでは、投資  
環境整備のための  
IFC 業務により、1 万  
6,000 人の雇用創出と  
新企業 8,000 社の設  
立につながりました。



A woman with long brown hair tied in a ponytail with a red and black hair tie is working on a bicycle wheel. She is wearing a light blue long-sleeved shirt with a floral pattern on the sleeves and dark pants. She is wearing a grey glove on her right hand and is using a tool to adjust the spokes of a white bicycle wheel. The background shows a tiled wall and other bicycle wheels hanging from the ceiling.

# 3兆ドル

IFC の「中国安全取引プロジェクト (CSTP)」は同国の  
小企業向け資金の大幅な確保に役立ちました





# インパクト 助言

## アドバイザリー・サービス

アドバイザリー・サービスは IFC の主要業務へと発展し、民間セクターの開発促進を目指す業務全体に浸透しています。IFC の助言業務は、金融アクセス拡充、投資環境整備、官民パートナーシップ支援、持続可能なビジネス促進を中心としたものです。2007 年以來、IFC のプログラムへの支出はほぼ 50% 増大し、約 2 億ドルに達しました。さらに、こうしたビジネスや政府への助言業務を 105 カ国で展開しています。




IFCの「世界貿易流動性プログラム (GTFP)」

は 2009 年の設立  
以来、210 億ドル  
以上を貿易支援  
に投じました

## 短期融資

IFC は、短期融資の活動を拡充して、国際貿易と中小企業に不可欠な流動性を確保しました。「グローバル・トレード・ファイナンス・プログラム (GTFP)」では、2005 年以来、1 万 2,000 件以上の保証が行われました。さらに、「グローバル・トレード・サプライヤー・プログラム」や「グローバル・ウェアハウス・ファイナンス・プログラム」といった革新的な短期融資商品も続けて開拓しています。





グローバル・トレード・ファイナンス・  
プログラムの下で発行された保証は

12,000 件

以上に上ります

IFC のグローバル・ウェア  
ハウス・ファイナンス・プ  
ログラムは、このパラグァ  
イの Pindo Cooperative の  
ような小規模農家に対する  
支払いを早めるのに役立っ  
ています。



## AMC の設立

IFC アセット・マネージメント社は、貧しい人々に資金調達の活路を開き、56年に及ぶ IFC の途上国での経験を投資家にもたらす有力な方法を提供しています。同社は、途上国への長期株式資本の供給量を拡大し、IFC の開発成果を高めるために 2009 年に設立されました。今日、AMC の運用資産は 45 億ドルに上ります。AMC の各ファンドは 2009 年以来、33 の投資案件に 17 億ドル以上を投入しました。その半分近くは世界の最貧国を対象としたものです。





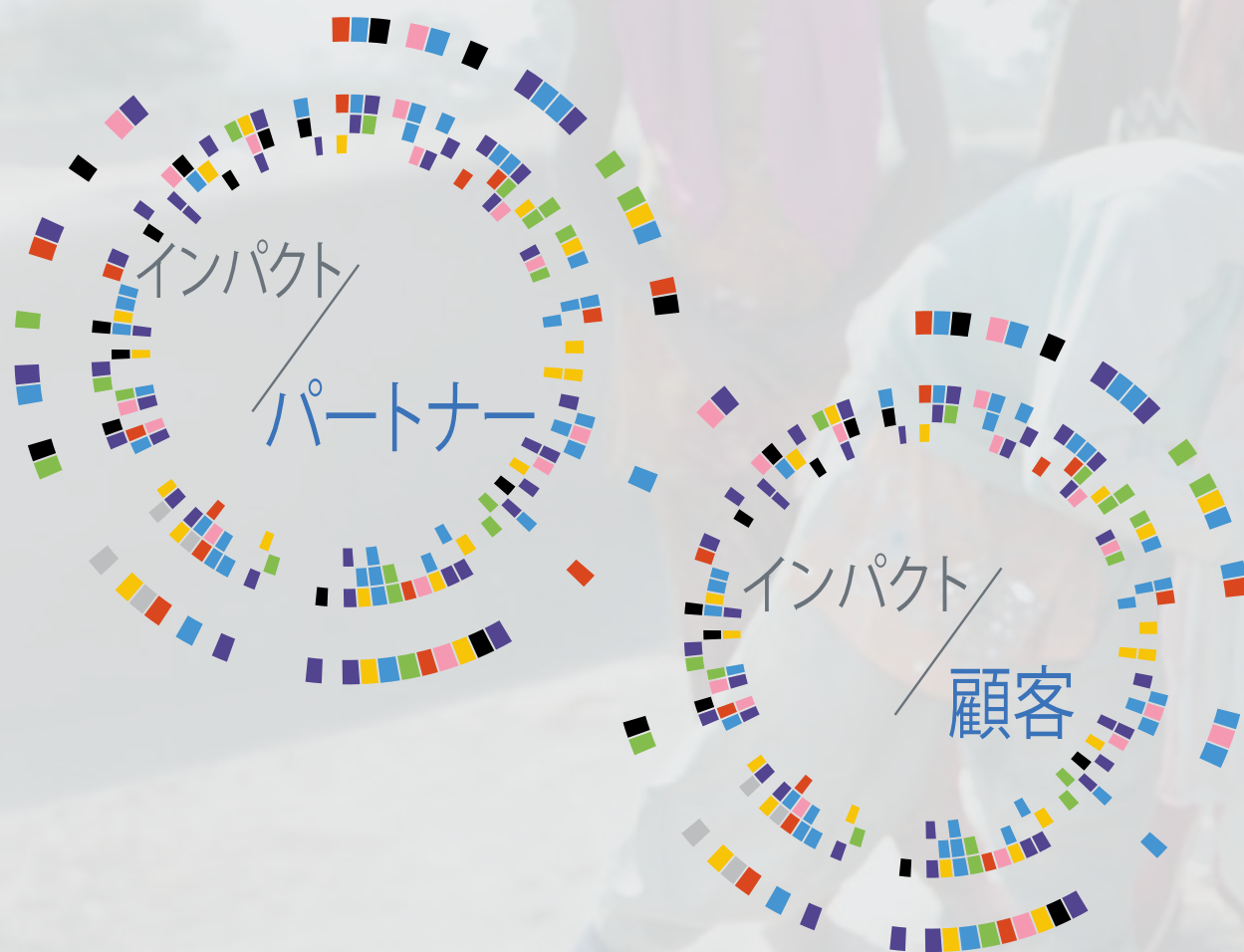
AMC の投資  
の半分近くは最貧国が  
対象となっています

IFC と AMC の支援を受け、  
Bank South Pacific はパプアニ  
ューギニアの過疎地の農夫にモ  
バイル・バンキングを提供して  
います。



## 思考のリーダーと 重要なパートナーの組合せ

持続可能な民間セクター開発に関する IFC の知識は、G20 をはじめ各界で広く認識されています。G20 は、中小企業の金融へのアクセスを改善するために IFC の支援を求めました。顧客やパートナーもまた、発想の源泉であり、他者を招集する力をもち、開発成果の確かな実例を示すことのできる IFC に協力を求めています。IFC の業務は環境、社会、ガバナンスの基準の向上にも貢献しています。加えて、IFC はポートフォリオ全体の開発結果の報告を行った初の多国間開発銀行でもあります。



## 顧客に近い現場への移動

経済と技術の急速な変化を受け、IFC は、顧客の変容するニーズに素早く対応するため、顧客に近い現場に事務所を設けました。今や、途上国の現地事務所業務を展開する職員は、2007 年度以来、全体の半数以上に上ります。それにより顧客との対応が円滑になり、投融資とアドバイザー・サービスの併用と開発効果の拡大が可能になりました。また、途上国で機会創出と人々の生活向上に励む 1,700 以上の顧客を支援しています。




A photograph showing a group of women in a rural, arid environment. In the foreground, a woman wearing a white headscarf with orange polka dots and a green top is drinking water from a yellow plastic pitcher. Behind her, several other women are visible, some holding similar pitchers, suggesting a communal water source. The background shows dry trees and a clear sky.

50+

IFC は 50 を超える現地通貨建てで資金を提供しています

IFC は、水不足を改善するために民間セクターの企業との協力を図る「2030 水資源グループ」の主要支援者です。





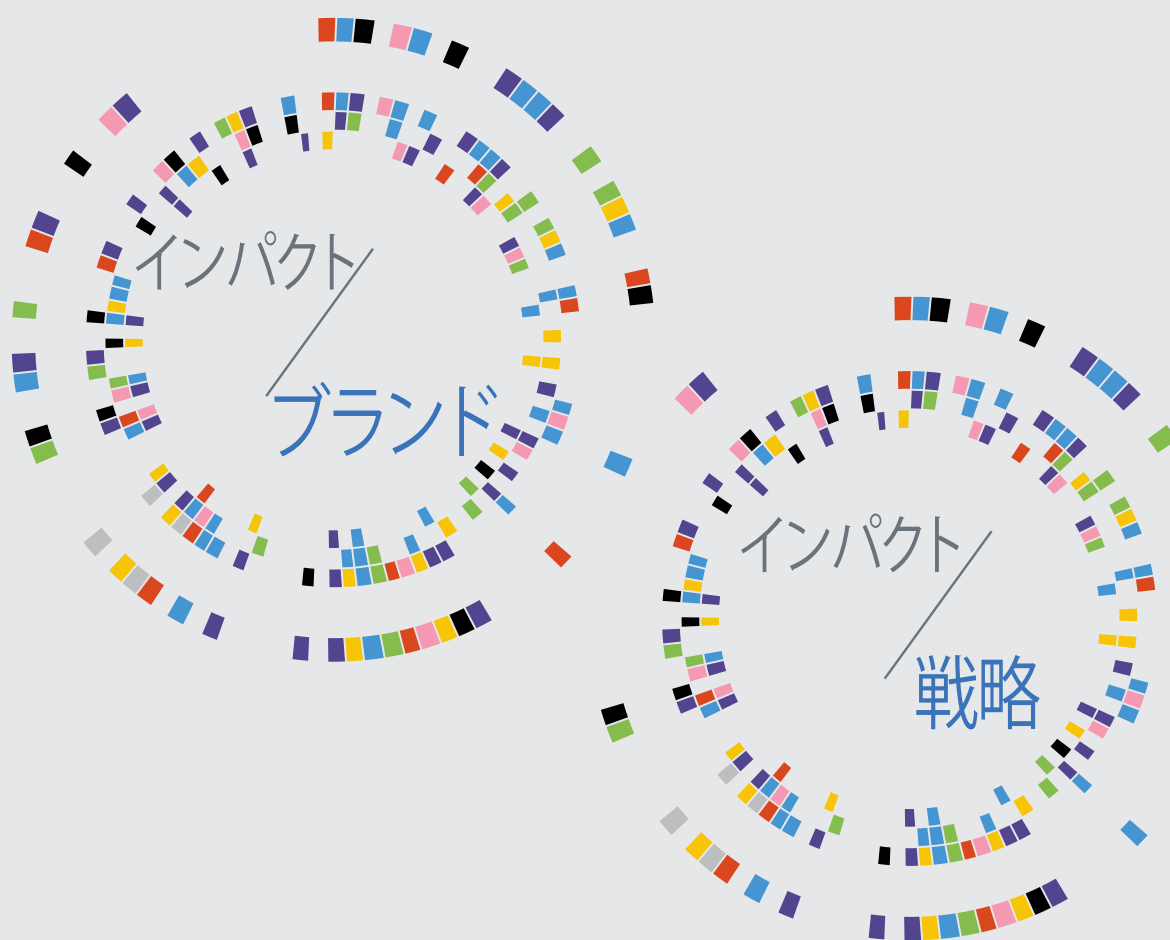
開発における民間セクターの役割という課題  
のソーシャル・メディア・キャンペーンでは

100万人

以上の人々が参加しました

## IFC というブランド名の構築


IFC は、国際金融機関の主導者としての役割を確固たるものとしました。その実現に当たり、イノベーションの実績、困難な市場への進出に伴う利点のデモンストレーション能力、基準向上と政策立案への影響力、そして、これまでに達成した開発の成果という、IFC の「ブランドがもつ価値観」を活用しました。開発における民間セクターの役割という課題のソーシャル・メディアのキャンペーンでは、100 万人以上が参加しました。



## 戦略実施のための 運営構造の設定

IFC は、戦略の立案にあたり厳密で組織的なアプローチを用いました。その際、開発成果の最大化と顧客ニーズの対応に的を絞る傍ら、IFC の資源が効果的に活用されるよう経験豊かな運営チームを各所に配備しました。そして、あらゆるレベルで、予算資源とパフォーマンス目標を戦略的優先項目の達成と結びつけました。





IFC の投融資と助言業務は 2012 年度に、企業の成長を阻んでいる障害を除去したほか、民間セクターによる雇用創出、インフラ整備、食糧安全保障の確保、気候変動への対応、その他、新興市場が直面している様々な開発課題への取組みを支援しました。

## IFC財務結果の要約

各年6月30日に終了した年度\* (百万ドル)

	2012	2011	2010	2009	2008
純利益 (損失)	1,328	1,579	1,746	(151)	1,547
IDA抛出品	330	600	200	450	500
IDA抛出自前利益	1,658	2,179	1,946	299	2,047
資産合計	75,761	68,490	61,075	51,483	49,471
融資、エクイティ投資、および債務証券投資 (純額)	31,438	29,934	25,944	22,214	23,319
エクイティ投資の推定公正価額	11,977	13,126	10,146	7,932	10,979
<b>主要比率</b>					
平均資産利益率 (GAAPベース)	1.8%	2.4%	3.1%	-0.3%	3.4%
平均自己資本利益率 (GAAPベース)	6.5%	8.2%	10.1%	-0.9%	9.6%
翌3年間の純現金推定所要額に対する現金および短期投資の比率	77%	83%	71%	75%	62%
負債比率	2.7:1	2.6:1	2.2:1	2.1:1	1.6:1
所要額合計 (十億ドル)	15.5	14.4	12.8	10.9	10.4
利用可能額合計 (十億ドル)	19.2	17.9	16.8	14.8	15.0
実行済み貸出金残高合計に対する貸倒引当金比率	6.60%	6.6%	7.4%	7.4%	5.5%

\*上記数値の詳しい算出方法については、連結財務諸表および運営陣による考察・分析をご覧ください (http://www.ifc.org/FinancialReporting)。

## IFC業務結果の要約

各年6月30日に終了した年度 (百万ドル)

	2012	2011	2010	2009	2008
<b>新規投資契約</b>					
プロジェクト数	576	518	528	447	372
対象国数	103	102	103	103	85
IFC自己勘定分	\$15,462	\$12,186	\$12,664	\$10,547	\$11,399
<b>中心的な資金動員*</b>					
協調融資 <sup>1</sup>	\$2,691	\$4,680	\$1,986	\$1,858	\$3,250
ストラクチャード・ファイナンス	-	-	\$797	\$169	\$1,403
IFCイニシアティブ、その他	\$1,727	\$1,340	\$2,358	\$1,927	-
アセット・マネージメント社	\$437	\$454	\$236	\$8	-
官民パートナーシップを通じた資金動員 <sup>2</sup>	\$41	-	-	-	-
中心的な資金動員合計	\$4,896	\$6,474	\$5,377	\$3,962	\$4,653
<b>投融資実行</b>					
IFC自己勘定分	\$7,981	\$6,715	\$6,793	\$5,640	\$7,539
協調融資 <sup>3</sup>	\$2,587	\$2,029	\$2,855	\$1,958	\$2,382
<b>契約済みポートフォリオ</b>					
企業数	1,825	1,737	1,656	1,579	1,490
IFC自己勘定分	\$45,279	\$42,828	\$38,864	\$34,502	\$32,366
協調融資 <sup>4</sup>	\$11,166	\$12,387	\$9,302	\$8,299	\$7,525
<b>アドバイザリー・サービス</b>					
アドバイザリー・サービス・プログラム支出	\$197.0	\$181.7	\$166.4	\$157.8	\$130.8
IDA融資適格国におけるプログラムの割合 <sup>5</sup>	65%	64%	62%	52%	49%

\*IFCが資金調達に直接関与した結果、IFC以外の主体から、顧客への利用可能資金として供与された投融資。

<sup>1</sup> Bローン、並行融資、Aローンの参加権売却 (ALPS) を含む。<sup>2</sup> 国家、地方、その他の政府主体に対し、IFCが、マンドート下で主幹アドバイザーを務めたことにより、官民パートナーシップ・プロジェクトに供与された第三者からの投融資。<sup>3</sup> Bローンおよび代理並行融資を含む。<sup>4</sup> Bローン、Aローン参加権売却 (ALPS)、代理並行融資、無財源のリスク参加 (URP) を含む。<sup>5</sup> 本書中の、IDA融資適格国および紛争の影響下にある脆弱な地域向けのアドバイザリー・プログラムが占める支出の割合 (%) には、いずれもグローバル・プロジェクトは含まれていない。

# IFC の世界的な 結果

2012 年度の IFC 投融資は、途上国 103 カ国を対象に、過去 5 年間の年間契約額の 2 倍に当たる、これまでで最高の 204 億ドルを記録しました。これには他の投資家から動員した 50 億ドル弱が含まれます。サブサハラ・アフリカでの投融資は、5 年前の 2 倍近くに相当する合計 27 億ドルに達しました。IFC のアドバイザリー・サービス・プログラムへの支出は、ここ 5 年間に 50% 以上伸び、1 億 9,700 万ドルへと飛躍しました。

IFC の顧客は本年度も、投融資や助言を十分に活用して、貧困層のために確かな成果をあげました。投融資先の顧客は、2011 年に 250 万人の雇用創出を助けたほか、零細・中小企業に合計 2,300 万件、総額 2,000 億ドルを超える貸付を行いました。IFC のアドバイザリー・サービスにより、33 カ国の政府が 56 件の投資環境改革を導入し、1,600 万人以上に基本的サービスを提供する官民パートナーシップを完了しました。

これは、非常に大きな開発の成果です。IFC はこれを採算を上げながら達成しました。IFC の純利益の中から、最貧国を対象とする世銀の基金、国際開発協会 (IDA) に移転した金額（贈与差引き前）は合計 16.6 億ドルに達しました。2007 年度以来、IFC の利益から IDA に移転した金額は 20 億ドル以上に上ります。加えて、IDA 適格国向け投融資は 230 億ドルを超え、2012 年度だけで 60 億ドル近くに達しました。

37 億ドル  
ラテンアメリカ・  
カリブ海地域

29 億ドル  
ヨーロッパ・  
中央アジア地域

22 億ドル  
中東・  
北アフリカ地域

27 億ドル  
サブサハラ・  
アフリカ地域

25 億ドル  
東アジア・  
太平洋地域

13 億ドル  
南アジア





# 204 億ドル

自己勘定による投融資契約  
155 億ドルを含む投融資合計

65% アドバイザリー・サービス・プロジェクトへの  
支出全体に対する IDA 融資適格国向けプロジ  
ェクトの支出の割合



2012年度の投融資契約

百万ドル

合計	\$15,461.76 (100.00%)	
産業別		
貿易金融	\$6,003.67 (38.83%)	
金融市場	\$3,371.33 (21.80%)	
インフラストラクチャー	\$1,447.43 (9.36%)	
消費者・社会サービス	\$1,374.82 (8.89%)	
製造	\$1,021.30 (6.61%)	
アグリビジネス・林業	\$1,020.92 (6.60%)	
石油・ガス・鉱業	\$490.55 (3.17%)	
ファンド	\$484.28 (3.13%)	
通信・情報技術	\$247.45 (1.60%)	

商品別

融資 <sup>1</sup>	\$6,667.88 (43.13%)	
保証 <sup>2</sup>	\$6,401.66 (41.40%)	
出資 <sup>3</sup>	\$2,281.91 (14.76%)	
リスク管理商品	\$110.30 (0.71%)	

1 融資タイプの準株式商品を含む。  
2 貿易金融を含む。  
3 出資タイプの準株式商品を含む。

地域別

ラテンアメリカ・カリブ海	\$3,679.79 (23.80%)	
ヨーロッパ・中央アジア	\$2,915.37 (18.86%)	
サブサハラ・アフリカ	\$2,733.25 (17.68%)	
東アジア・太平洋	\$2,548.15 (16.48%)	
中東・北アフリカ	\$2,209.71 (14.29%)	
南アジア	\$1,312.16 (8.49%)	
グローバル	\$63.31 (0.41%)	

グローバル・プロジェクトとして正式に分類された投融資の地域シェアを含む場合がある。

契約済みポートフォリオ

2012年6月30日現在のIFC自己勘定分

合計	\$45,279 (100%)	
産業別		
金融市場	\$13,881 (31%)	
インフラストラクチャー	\$8,608 (19%)	
製造	\$5,578 (12%)	
消費者・社会サービス	\$3,826 (8%)	
アグリビジネス・林業	\$3,556 (8%)	
貿易金融	\$2,961 (7%)	
ファンド	\$2,952 (7%)	
石油・ガス・鉱業	\$2,392 (5%)	
通信・情報技術	\$1,520 (3%)	
その他	\$5 (0%)	

地域別

ヨーロッパ・中央アジア	\$10,503 (23%)	
ラテンアメリカ・カリブ海	\$10,371 (23%)	
東アジア・太平洋	\$7,216 (16%)	
サブサハラ・アフリカ	\$6,461 (14%)	
中東・北アフリカ	\$5,585 (12%)	
南アジア	\$4,697 (10%)	
グローバル	\$445 (1%)	

グローバル・プロジェクトとして正式に分類された投融資の地域シェアを含む場合がある。

環境・社会カテゴリ別にみた  
2012年度の投融資契約

カテゴリ <sup>1</sup>	契約額 (百万ドル)	プロジェクト数
A	931	17
B	3,629	153
C	6,975	267
FI	3,340	120
FI-1	140	2
FI-2	37	11
FI-3	37	6
合計	15,462	576

1 各カテゴリの説明については本書37ページの内側を参照。

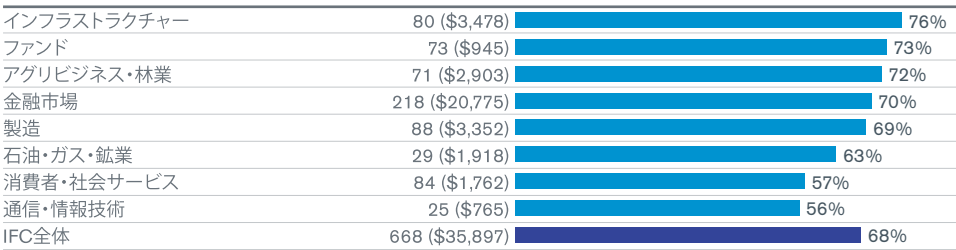
2012年度の契約残高上位国<sup>1</sup>

2012年6月30日現在 (IFC自己勘定分)

国名 (順位)	契約残高 (百万ドル)	世界合計 に占める 割合 (%)
インド (1)	3,965	9%
ブラジル (2)	2,572	6%
中国 (3)	2,429	5%
トルコ (4)	2,329	5%
ロシア連邦 (5)	2,263	5%
メキシコ (6)	1,188	3%
エジプト (7)	1,153	3%
ナイジェリア (8)	1,106	2%
フィリピン (9)	1,055	2%
ベトナム (10)	1,025	2%

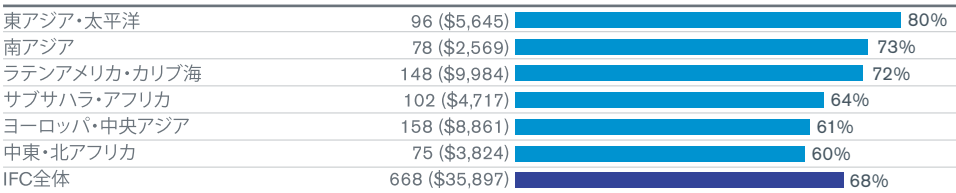
1 地域プロジェクトやグローバル・プロジェクトに含まれる国別シェアは除外。

2012年度の投融資サービスの産業別DOTSスコア



バーグラフの左側の数値は評価を受けた企業数の合計を、また括弧内は、これらプロジェクトへのIFC投融資合計(百万ドル)を示す。

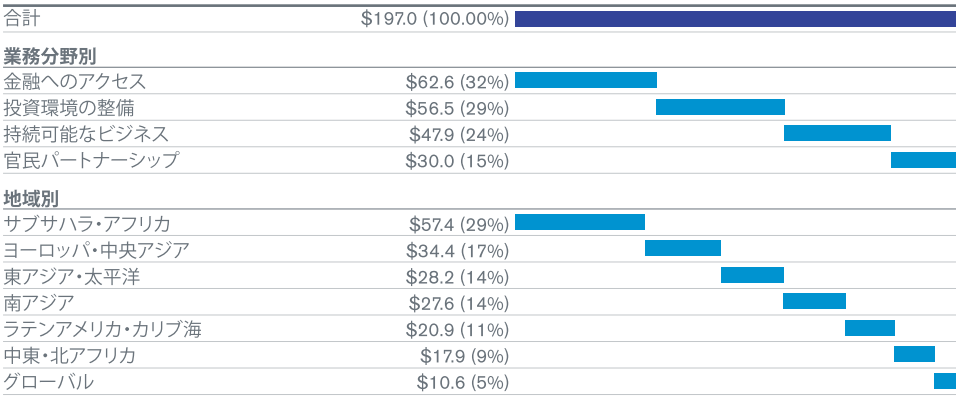
2012年度の投融資サービスの地域別DOTSスコア



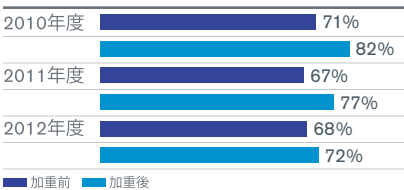
バーグラフの左側の数値は評価を受けた企業数の合計を、また括弧内は、これらプロジェクトへのIFC投融資合計(百万ドル)を示す。

2012年度のアドバイザリー・サービス・プログラムの支出

百万ドル



加重後および加重前の投融資サービス全体のDOTSスコア



IFCのクライアント・リーダーシップ賞

IFCのクライアント・リーダーシップ賞は、イノベーション、優れた運営、堅実なガバナンスにおいて最良の模範を示した企業に授与されるものです。それは、IFCの価値観を共有し、持続可能なベストプラクティスに専念し、開発効果の達成に邁進する企業を認識する IFC ならではの方法だといえましょう。

今年は、中東のジェネリック医薬品(後発医薬品)の有力メーカー Hikma Pharmaceuticals (本社：ヨルダン)がこの賞を受けました。Hikma 社は、現代的な医療を受けることのできない中東の多くの人々に経済的で質の高い医薬品を提供しています。米国食品医薬品局 (FDA) の認可を中東・北アフリカ地域で初めて受けた同社は、輸出基準を満たす医薬品を現地市場のために生産している企業として模範を示しています。

2009 年、同社は、注射用抗ガン剤を当時の流通価格の 80%以下で販売しました。これは、以前の高額な癌治療薬に手の届かなかった患者に大きな恩恵をもたらしました。同社はまた、堅実な企業社会責任プログラムを実施し、職業訓練や、環境への意識高揚と開発に関連した教育キャンペーンを、社員だけでなく幅広いコミュニティで進めました。



Hikma 社の医薬品を用いてガン患者の治療にあたるヨルダン大学病院の医師アブダラ・アウィディ。

IFCの経験豊かな運営チームは、開発成果の最大化と顧客ニーズへの対応に力を絞って、IFCの資源が効果的に配分されるよう万全を期しています。長年にわたる経験、多彩な知識、固有な文化的視点など、IFCの独自性を高める特徴は、運営チームにも利益となります。また、運営チームはIFCの戦略や方針も形成します。これらは、途上国の多数の人々の生活向上を助けるための支えとなります。IFCの運営陣は、パフォーマンス、説明責任、活発な関与というIFCの風土を保つのに重要な役割を果たしています。



## IFCの 運営チーム

**Janamitra Devan**  
金融・民間セ  
クター開発担当  
副総裁

**Jingdong Hua**  
財務・協調融資・  
情報技術担当  
副総裁

**Rachel Robbins**  
一般法務担当  
副総裁

**Dimitris Tsitsiragos**  
東欧・南欧・  
中央アジア・中東・  
北アフリカ担当  
副総裁

**Karin Finkelston**  
アジア・太平洋  
担当副総裁

**Thierry Tanoh**  
サブサハラ・アフ  
リカ・ラテンアメ  
リカ・カリブ海・  
西ヨーロッパ  
担当副総裁





**Nena Stoilkjovic**  
ビジネス・アドバイザリー・サービス担当副総裁

**Rashad Kaldany**  
世界産業担当副総裁

**Dorothy Berry**  
人事・コミュニケーション・総務担当副総裁

**Lars H. Thunell**  
IFC 長官

**Gavin Wilson**  
IFC アセット・マネジメント社最高経営責任者 (CEO)

**Saadia Khairi**  
リスク管理・財務報告・コーポレート戦略担当副総裁

**Jorge Familiar Calderon**  
副総裁兼書記  
写真なし

# 民間セクター開発 におけるリーダー

34

IFC と  
民間セクター  
の活用

36

雇用創出に対する  
IFC の総括的  
アプローチ

38

金融アクセス拡充  
における IFC の  
世界的な役割



世界でも喫緊の開発課題に取り組むには躍動する民間セクターが不可欠です。しかし、民間セクターの成長から得られた恩恵を、援助を最も必要としている貧困層の人々に浸透させるためには、優れたリーダーシップが必要になります。民間セクター開発における第一人者である IFC は、このリーダーシップをとることに最善を尽くしています。

IFC は、人々が貧困から脱却し生活向上を図るための機会の創出を目指しています。この目的の達成に当たり、世界各地の現地事務所と専門知識を利用しながら、途上国が長期的で持続可能な成長を達成できるような投融資と助言を行っています。さらに、IFC がもつ独自の優位性も活用しています。例えば、民間セクターの強化の際にはイノベーションを発揮し、基準向上と政策立案においては影響力を行使し、また困難な市場への進出の利点を示す際はデモンストレーション能力を利用し、さらに測定可能な開発の結果を達成しています。





# 1/3

国際金融機関が提供する民間  
セクター開発向けの資金全体に  
対する IFC のシェア

# IFC と民間セクター の活用

雇用。イノベーション。機会創出。民間セクターはこれらの全てを推進します。

途上国においては、民間セクターは、生活水準向上とより良い暮らしの追求を可能にする経済発展と起業精神の源泉となります。政府にとっては医療、教育、インフラ整備に必要な大切な税収源となります。また、先行きが不確実で、しかも新興市場での経済成長に期待が寄せられるような状況では、民間セクターはことさら重要となります。

IFC は、貧困層に資する成長を民間セクターの力で実現するための触媒となれる独自の地位にあります。IFC は、国際金融機関が提供する民間セクター向け開発資金全体の約 3 分の 1 を占めています。さらに、投資環境の整備、ビジネスの持続可能性向上においては画期的なアドバイザー・サービスを提供しています。環境・社会・ガバナンス基準の促進をはじめ、市場の強化、透明性向上、そして投資家を一段と惹きつける市場とするためのリスク管理慣行の奨励においては顧客や政策担当者と協働しています。

民間セクターを活用して強固で持続的な成長を図るという世銀グループの取組みの中心的存在として、IFC は、効果を上げられそうな領域、すなわち、公的資金だけでは膨大なニーズを賄いきれない数々の分野を特定しました。

通信、港湾、発電、陸上輸送、給水・衛生といった方面の改善では、インフラの官民パートナーシップを支援しました。民間セクターなしでは、重要なインフラ・プ

左：  
グリーンな建物を奨励する IFC の業務のおかげで、インドネシアの「将来が明るくなる」と期待する、ジャカルタの建設会社の経営者アントン・スパルラン。



1.1 兆ドル  
途上国のインフラ  
整備に必要な年間資金

ロジェクトの資金を調達することはできません。途上国でインフラ・サービスに対する需要を満たすには年間推定 1.1 兆ドルもの支出を行う必要があります。そして、その資金の大部分は民間セクターによって賄われることになるでしょう。

IFC は、途上国で投資環境の向上も進めています。官僚主義や不必要な規制が起業家の行く手を阻むようでは、企業の繁栄も雇用創出も不可能です。世銀グループの他の機関との協働作業により、IFC は、雇用創出と成長につながる立法、規制、制度環境を政府が整備する際に役立っています。

金融セクターでの IFC プロジェクトは、中小企業の金融サービスへのアクセスを向上することと、現地通貨建て債券市場を強化することを目指しています。IFC の業務は、貿易のアクセス拡充にもつながっています。貿易は世界経済の生産高の半分を占め、経済危機に対する大切な防波堤となります。新興市場では、IFC の貿易およびサプライチェーン向け金融プログラムが、企業にとって不可欠な資金の提供と、成長・雇用の確保に貢献しています。

世界の有力な政策策定機関でも、民間セクター開発に関する IFC の幅広い経験を求めています。斬新なインクルーシブ・ビジネスモデルの構築においては G20 と協働しています。2012 年度に IFC が運用を担当した「G20 インクルーシブ・ビジネス・イノベーション・コンテスト」では、経済ピラミッドの底辺で暮らす多数の人々の生活向上に革新的な方法で取り組んでいる 15 社が選ばれました。



# 雇用創出に対する IFC の総括的アプローチ

貧しい人々にとって、生活向上のための一番確実な道は仕事をもつことです。仕事がないければ自分と家族の生計が困難になったり、時には不可能になります。それに伴い、社会不安や経済不安が発生し、悪循環に陥ります。その結果、貧困が猛威をふるいます。

失業が現代最大の緊急課題であるのは、まさにこれが理由です。この状況が最も深刻なのは、世界の失業者の3分の2（約1億5,000万人）を占める途上国です。

人口増加のペースに追いつき、世界の失業率をわずかに下げただけでも何億もの仕事が必要になります。途上国では民間セクターが雇用の90%を占めているため、同セクターを含めずに雇用を創出することは不可能です。ただし、民間セクターが単に雇用数を増すのではなく、安全な労働条件、適切な福利厚生、多くの昇進の機会を伴う良い雇用を創出するよう、IFCは、顧客やパートナーと力を合わせています。

中東・北アフリカ地域の状況は極めて深刻です。ことに若年層は、現在の労働市場が求めているような適切な訓練も教育も受けていません。この不整合に対応するため、IFCは、ドナー・パートナーを総動員し、顧客の強力なネットワークを活用して、「アラブの若者向け e4e（雇用のための教育）イニシアティブ」の下で良質な教育に投資しています。

雇用を生み出す重要なプロジェクトにも投融資を行っています。エジプトの Orascom Construction Industries 社に対する2億5,000万ドルの投融資は、2,500人以上の雇用を生み、農業生産の活性化に役立つ見通しです。

ラテンアメリカ・カリブ海地域では、ペルーの化粧品会社 Belcorp への1億3,000万ドルの投融資が9,000人近くを雇用（その4分の3は女性）するものと見込まれています。

IFCは、投融資と助言業務が常に直接的な恩恵をもたらさないことを熟知しています。しかし、間接的な恩恵である場合は、それを測定するのは複雑な作業です。例えば、金融へのアクセス促進、投資環境の整備といった業務は、それまで存在しなかった雇用につながりますが、その効果を捉えるのは容易ではありません。

この雇用に及ぼす間接的な効果を把握するため、雇用創出へのIFCの貢献度に関する公開調査を実施しました。これは、民間セクターと雇用についての理解を深め、IFCの意思決定に役立てるための、この種の試みとしては初めてのものです。当初に判明した結果から、経済成長、生産性、雇用創出の連関性に関する重要な知見を得ることができました。

この情報と、顧客から学んだ教訓は、IFCの業務だけに利用されるものではありません。それらは、政策担当者や他の開発金融機関だけでなく、起業精神や、競争力、そして究極的には雇用創出を促進する民間企業にも役に立つでしょう。



1億  
5,000万人  
途上国における失業者数

IFCは、民間セクターが、安全な労働条件、適切な福利厚生、多くの昇進の機会を伴う良い雇用を創出するよう万全を期しています。



# 90%

途上国の雇用全体  
のうち、民間セクターが  
占める割合





# 4億社

成長していくための  
資金を調達できない  
企業数



# 金融アクセス拡充 における IFC の 世界的な役割

金融にアクセスできることは繁栄のための基本条件です。しかし途上国民の 2 人に  
つき 1 人は (25 億人以上) は銀行口座をも  
っていません。成長のための資金を受けら  
れない企業はほぼ 4 億社に上ります。こう  
した企業に不足している与信は推計で最高  
2 兆ドルに達します。

先進・途上国 20 カ国グループ (G20) は、  
この不足が開発の元凶になっていることを  
認識しました。そこで、援助を最も必要と  
しているビジネスや個人の金融アクセス拡  
充を目指す新設の「インクルーシブな金融  
に関するグローバル・パートナーシップ」  
の業務推進を支援してほしいと IFC に求め  
ました。

IFC は重大な役割を果たしました。こ  
れほど大規模な課題に取り組むには、政府、  
開発機関、民間セクターを交えた幅広い  
パートナーシップとスキルが必要となりま  
す。この分野は IFC の強みでもあります。  
途上国での金融アクセス拡充においては、  
顧客がもつ 800 行以上の金融機関網と協働  
してきた数十年もの経験があります。

2012 年度には、G20 との関連業務の一  
環として、成長、雇用、貧困削減における

中小企業の役割を強化するための新たな知  
識共有イニシアティブ「グローバル SME  
金融フォーラム」を立ち上げました。また、  
政府と規制当局の参考となる「SME 金融政  
策ガイド」など、中小企業への金融促進の  
ためのベストプラクティスに関する研究報  
告書も発表しました。

中国で進められた助言プロジェクトの  
一例が示すように、IFC の業務は大きな触  
媒の効果を発揮することができます。同国  
の多数の小企業にとって、地元の金融機関  
が受け入れるような担保物件がないため、  
資金調達は深刻な問題です。

2005 年、中国当局は、特に在庫や売掛  
金といった価値の高い流動資産など、幅広  
い担保物件を受け入れる融資の奨励策を実  
施しました。IFC はその活発なパートナー  
でした。IFC の「中国安全取引」プロジェ  
クトは、同国の重要な優先課題である中小  
企業の育成促進に役立ちました。

このプロジェクトの外部評価によると、  
中国の企業は、2011 年 6 月現在で、貸付  
件数にして 38 万 5,000 件以上、合計 3 兆  
ドル余りの与信を受けたことが判明して  
います。この恩恵を受けたのは、在庫や売  
掛金が資産の大半を占める多数の小企業で  
した。

世界各地で IFC と  
協働作業を展開する  
金融機関の数

## 800 機関

以上



エチオピアでは、コーヒー豆の品質  
と生産量を高めることで所得向上を  
はかるコーヒーの栽培農家を支援し  
ました。

IFC の支援を受けたマイクロファ  
イナンス会社 Bancamia からの借  
入で、ビジネスを盛り上げたコロ  
ンビアの小型材木商、ミラー・ラ  
ンディ・マテウス・キンロガ。



途上国の貧困率はここ 20 年に半減しました。それでも世界には 1 日 1.25 ドル未満で暮らす人々が 13 億人います。これらの国では、今後数十年のうちに、インフラに負担をかけ、食糧安全保障を危うくし、環境を汚染する、農村から都市への人口移動といった、繁栄を阻害する大きな脅威に直面する可能性が高まっています。

こうした危険への対応は IFC の優先課題です。IFC の業務は、民間セクターとの協力により、特にアフリカを中心に、重要なインフラの近代化を支援し、多数の人々が良い教育や医療を受けられるようにするものです。食糧の不足している地域では、供給量と食種の拡大を図っています。現地の金融市場では強靱な対応力の育成を助けています。さらに、途上国のビジネスに対しては、気候変動の影響緩和と適応に一段と積極的に対応できるよう力添えをしています。



# IFCの優先的 セクター

42

気候変動への  
対応：喫緊の  
優先課題

44

アフリカの  
インフラ  
近代化による  
好循環の促進

46

途上国  
における  
食糧安全保障  
の強化

47

貧困層の  
教育・医療の  
改善のための  
支援

48

現地通貨建て  
融資の  
パイオニア

# 80%

気候変動対策に必要な資金のうち民間セクターによって賄われる割合



## 16億ドル

気候に関連した  
投融資契約額





# 気候変動への対応： 喫緊の優先課題

途上国では、食糧、水、土地などの基本的資源が、都市化や人口増加の圧迫を受けています。それに気候変動が重なって、最貧困層に一段と大きな重圧がのしかかっています。

こうした課題の対応には民間セクターが不可欠です。気候変動を安定化するだけでも投資の推定 80% を民間セクターが担う必要があるからです。これほどの規模の投資を行うには、政府、シビルソサイエティ、国際金融機関とのパートナーシップ形成が必須です。さらに民間セクターは、イノベーションを駆使して緩和と適応のコスト低減を行えます。

IFC は、業務のほぼ全域に気候変動対策を組み入れています。投融資においては、合併会社設立やブレンド型融資など、またアドバイザリー・サービスでは、基準設定や、変化に伴うビジネス・リスクの一次調査への組み入れなどで革新性を発揮しています。ここ数年には、気候関連の官民パートナーシップが関与するプロジェクトも力強い実績を上げました。

IFC の気候関連の投融資は、2012 年度に、投融資契約全体の 10% 以上に相当する 16 億ドルに達しました。2015 年度の目標は、長期投融資契約の 20% を達成することです。電力セクター向け投融資では、ブルガリアでの画期的な太陽光発電所 Karadzhalovo (60 メガワット) など、省エネと再生可能エネルギーに関するものが約 70% を占めました。また、民間セクターによる気候関連の投資を支援するため、合計 3,500 万ドルの助言プログラムを世界各地で実施しました。新規マン

デートの下で進められた官民パートナーシップの約 30% は気候に関連したものでした。

オフィスや住宅などの建物の省エネを進めることは大きな効果をもたらす可能性があります。建物に関連した温室効果ガスの排出量は 2030 年までに倍増するかもしれない、その大部分は途上国で発生すると見られています。IFC は、投融資を増やす一方、運営コストの低減、二酸化炭素の排出量削減、異常気象に対する脆弱性緩和を可能にする建築法規を策定するなどして、持続可能性と省エネを世界各地の建設業者に徹底させる手助けも行っています。

コロンビアでは、政府と全国建設会議所との共同で、同国初の「グリーン建築基準」を策定中です。この新基準は、2020 年までに新規建設数の 72% に当たる最高 70 万戸の低所得者用住宅の建設に適用される予定です。さらに、バングラデシュ、インドネシア、メキシコ、フィリピン、ベトナムでも同様の作業が進められています。

現地の金融機関もまた気候関連の金融で中核的な役割を果たします。IFC は、中国の政策担当者や銀行に対し指導や資源を提供することで、同国の金融セクターの変革を支援しています。画期的な「グリーン・クレジット政策」は、エネルギー効率が高く持続可能な企業への投融資を増やすよう中国の銀行に奨励するものです。このプロジェクトは、温室効果ガスの排出量が世界で最も多い同国では大きな重要性をもちます。世界に強力な模範を示すことになるからです。

ロシアでは、IFC の支援により、EnergoStroy の蒸気発電所の修復と近代化が可能になりました。





# 16 億ドル

アフリカの  
インフラ向け  
投融資





# アフリカのインフラ近代化 による好循環の促進

アフリカ各地で新しい道路や港湾、発電所が次々と建設されても、この地域に住む人々と経済発展から生じる需要には追いつきません。

近年のアフリカの発展は、積年の構造問題を浮き彫りにし、深刻化すらさせており、インフラ整備が発展のペースに追いつかない状態です。その結果、アフリカの多くの都市では、交通渋滞、清潔な水の不足、頻繁な停電という現実と直面しています。アフリカの国民の大部分は電気が全くない生活を送っています。

これを受け、IFC は 2012 年にそれまでにない規模で対応しました。アフリカの民間インフラ全体で、IFC の投融資と協調融資の合計が初めて 16 億ドルに近づきました。これは 2011 年の水準の 2 倍以上に当たります。

IFC の主眼は、近代的経済を構成する港湾、鉄道、通信、そして再生可能エネルギーを含めた発電に置かれています。

最近成功を収めたプロジェクトは、IFC が様々な形でアフリカのインフラ構築を支援できることを示しています。セネガルでは、民間セクターが「ダカール有料道路」に関わる際の支援を行い、同国の首都とその周辺の輸送と交易を大幅に改善しました。またトーゴでは、IFC の投融資と助言を通じた支援が、同国の電力会社 ContourGlobal Togo S.A. による、首都ロメ

一番左：

IFC とのパートナーシップにより、リベリアの大手発電所は、モンロビアで新たに 3 万 3,600 人に電力を供給しています。

左：

Zorlu Energy Group は、パキスタンの慢性的な電力不足を緩和するため、有望な風力発電に力を入れています。

一段と優れた  
サービスを受け  
られるようになる人々

50 万人

での 100 メガワットの地熱発電所の開発、建設、運営に貢献しています。

こうした例や他の数々のプロジェクトは、アフリカが遂げている進展を色濃く示しています。しかし、この地にインフラの強固な土台を築くには時間と持続的な投資が必要となるでしょう。

IFC はまた、官民の利益を適切に均衡させ、環境・社会リスクを管理できる形で、インフラ・プロジェクトの開発と指導を進めるためのノウハウをアフリカで強化することでも先駆的な存在となっています。

IFC は、基本的な公共サービスの提供面で民間セクターと関わる方法や、国営企業の改革についての助言を、地元自治体をはじめとするアフリカ各地の政府に行い、成功を収めてきました。2008 ～ 2012 年度にかけての官民パートナーシップ向け支援は、インフラと保健方面で 1 億 7,500 万ドル以上の民間資金を動員し、50 万人に一段と優れたサービスを提供できる見通しです。

また、政治的リスク、腐敗、規制面の干渉は今後も大きな障害となるでしょう。しかし、エコノミストやアナリストらは、アフリカの発展に伴い、それに魅了された投資や知識が一段と多く流入し、将来の成長の牽引力となるという、好循環の見通しを立てています。



# 途上国における 食糧安全保障の強化

世界の食糧生産量は、大人も子供も含め世界中の人々にゆきわたる量を超えるだけあります。それでも途上国を中心に 10 億人近くが毎日飢えに苦しんでいます。

この矛盾は、貧困と飢えが複雑に絡み合っている事実を反映しています。貧しい人々は、わずかな収入の大半を食物に費やすため、食糧価格の高騰の影響を大きく受けます。短期的な高騰ですら、健康で生産的な人生を送るうえで不可欠な栄養を子供たちが受けられなくなるなど、長期的な悪影響を及ぼしかねません。

食糧価格はここ数年に急騰し、火急の開発課題に発展しました。これを受け、IFC は強力な対策を講じています。食糧安全保障を戦略的優先課題に盛り込んで、食糧を最も必要としている人々が安価に手に入れられるよう各種の斬新なイニシアティブを立ち上げました。

そのアプローチは総括的で、農家やアグリビジネスによる金融アクセス拡充、適切な投資環境の整備、知識と技術の移転、環境・社会の持続可能性、官民パートナーシップ、土地・水・エネルギーの効率的利用を強調しています。

2012 年度に設立された「クリティカル・コモディティ・ファイナンス・プログラム」は、最貧国のエネルギー・ニーズに取り組みつつ、全ての途上国で農産品の貿易金融の拡大を図るものです。このプログラムにより、今後 3 年間で最高 180 億ドルの貿易支援が可能になる見込みです。

IFC の新規の「グローバル・ウェアハウス・ファイナンス・プログラム」は農家の収入安定化に貢献しています。このプログラムの下で、農家は倉庫に作物を納入したあと直ちに現金支払いを受けられるようになります。これまで農家は、作物が倉庫から発送されるまで数週間も待たねばならないこともありました。それが、同プログラムのおかげで、作物納入後に受け取った現金をもとに直ちに借入が可能になります。

加えて、IFC の「農産物価格リスク管理」プログラムをアフリカと中東地域に拡大して、この重要な地域で輸出入業者による資金へのアクセスとリスク管理が可能になりました。

IFC はまた、途上国の食糧安全保障プログラム向けの資金拡大を目指す、世銀グループの「世界農業・食糧安全保障プログラム (GAFSP)」の民間セクター部門を担当しています。この部門では、食糧安全保障の強化に向けた民間セクターの活動を支援する貸付、信用保証、エクイティ投資が行われます。

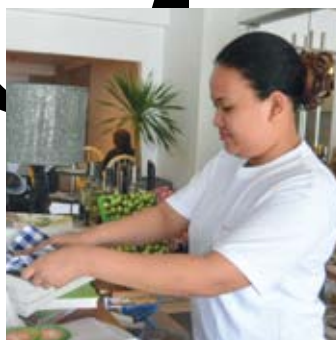
IFC は、食糧安全保障が単独で対応できる課題ではないことを熟知しています。今後 40 年間に世界人口が一段と増すにつれ、70% もの食糧の生産拡大が必要です。また、途上国では年間平均 830 億ドルもの純投資が必要になります。これを達成するには、イノベーションと世界規模の協調が肝要です。IFC はこの重要な役割を果たすための理想的な地位にあります。

IFC は食糧価格の高騰に際し、食物を最も必要としている人々が安価に入手できるように強固な対策で臨んでいます。



30

教育と医療を対象にする IFC のプロジェクトは 30 カ国に恩恵をもたらしています。



## 貧困層の教育・医療の改善のための支援

今日のように目まぐるしく変わる世界経済では、教育のない労働者は非常に不利な立場に置かれています。専門的な訓練を受けていなければ、経済的安定と社会的な地位向上が可能になる有意義な仕事を見つけることはとうてい不可能です。

これは、途上国の低・中所得層の人々にとっては紛れもない現実です。さらに無教育な世代が何代も続けば、貧困が定着することは免れられません。

IFC は、教育に資金を投ずることで、この傾向を覆そうとしています。良質な教育へのアクセス拡充を図るプロジェクトでは、世界市場のニーズに見合ったスキルを提供しています。さらに、教育に携わる企業への資金の直接供与、教育ローンの支援、政府への政策助言、そして IFC がこの業界で学んだ知識の共有も行っています。

新興国では、ここ 10 年間に、医療・教育分野の企業に対する投融資が 22 億ドルを超え、30 カ国以上でプロジェクトが進められています。最近、IFC の活動がしだいに活発化している技術教育と職業訓練の分野では、その業務が大きな成果を上げる可能性を秘めています。こうしたプログラムの対象となっているのは、家族で初めて高等教育を受ける人など、これまで支援が及ばなかった人々です。

IFC は、ホスピタリティ産業に特化した学校チェーンを経営するフィリピンの TCG Holdings 社に 2,400 万ドルの融資を

# 22 億ドル

新興市場の医療と  
教育に携わる企業への  
投融資額

中央上：  
フィリピンでは、専門的な職業訓練に対する IFC の支援により、ホベリン・マナマツがホスピタリティ産業の仕事に就ける可能性が高まりました。

行いました。この融資により、Asian School of Hospitality Arts の 2 つの既存キャンパスの拡張と 4 校の新設が可能になり、学生の受入れ能力が 5,000 人追加されます。

その結果、フィリピンの低・中所得層の学生（その多くは不利な立場にある女性）にとり、専門的な訓練を受ける機会が増え、将来、良い仕事に就く希望が高まりました。

教育と医療は IFC の最優先課題です。IFC は、新興国の民間医療・教育には、他のどの多国籍機関よりも多くの投融資を行っています。さらに、質の高い医療や教育サービスを国民全体に支給できるだけの資源のない国では、戦略の立案において世銀と密接に連携しています。

IFC は、斬新なビジネスモデルに投融資を行うことにより、良質な医療へのアクセス拡充を図っています。過去 10 年間の医療向け投融資は 16 億ドルに達します。

Archimedes Global 社との業務では、これまで行き届いていなかった人々に大切な医療サービスを新たな形で提供しています。IFC は、医療保険セクターへの初の直接投資として、グルジアとカザフスタンで医療保険と医療サービスを提供する Archimedes Health Developments 社に 300 万ドルの出資を行いました。この出資のおかげで、同社は 2018 年までに 24 カ所の診療所の開設と 67 万人に医療保険を提供できるようになります。





現地通貨建て  
融資の発行通貨数



# 現地通貨建て融資の パイオニア

大半の途上国では、事業拡張を目指す企業にとっての間近な障害は、現地通貨建ての資金調達が限られていることです。

現地通貨建て債券市場は往々にして小型で洗練されておりません。銀行も、確立された大企業であれば気軽に融資を行ってくれる場合が多いようです。このことは、中小企業が現地通貨建ての長期資金を容易に利用できないことを意味しており、事業の発展のためには外貨建てで借入を行わなければならない。

先進・途上 20 カ国グループ (G20) の財務相・中央銀行総裁らは、こうした借入のリスクを認識し、途上国での現地通貨建て債券市場を支援するよう各国に協力を求めました。彼らは昨年の会合で、この市場があれば、金融危機の際にも現地投資家からの資金調達が可能になり、強力な代替資金源、すなわち「スベア・タイヤ」の役割を果たすと主張したのです。

これは IFC の周知の課題です。今年は、ガーナと西アフリカ通貨同盟の加盟 8 カ国から、各国内の資本市場の強化と、援助を最も必要としている国での民間セクター開発が可能となる現地通貨建て債券プログラムを設立する承認を取り付けました。IFC は、主要な「汎アフリカ国内中期債プログラム」を通じて、今後 10 年間に、ガーナセディ建ておよびセファーフラン建て債券を 10 億ドル以上発行することが可能になります。

過去 10 年以上にわたり、IFC は、利用可能な現地通貨建て資金を途上国で拡充す

る役割の先陣をきってきました。アルジェリア、インド、メキシコ、ロシア、サウジアラビア、タイでは、債券の国内発行に際し、初の部分的信用保証を行いました。また発行した通貨数は、他の多国間開発機関をしのぐ 50 通貨以上に及びました。

アフリカでの現地通貨建て融資や債券発行を一段と進めるため、IFC は、アフリカ開発銀行とマスター・アグリーメントを結び、クロスカレンシー・スワップ取引を行っています。これにより、IFC は双方の現地通貨建て債券から利益を受けることができるため、顧客の開発プロジェクトへの支援能力が高まります。このスワップ契約は、国際金融機関が初めて他の国際金融機関と結んだものです。

IFC はまた、中国の銀行が現地通貨建て融資を行えるよう、これらの銀行と現地スワップ契約を締結した最初の国際機関でもあります。中国開発銀行や中国輸出入銀行との契約のおかげで、民間セクター開発プロジェクト向けの長期融資を人民元建てで行うことが可能になります。

現地通貨建ての長期融資は、途上国の資本市場の強化に向けた IFC 戦略の礎石ともいえるべきものです。規制当局や地元の機関と協力して、資本市場の有効な規制を促すことが可能です。さらに現地通貨建て融資により、顧客は、雇用創出と事業拡大を行える形で通貨リスクを緩和することができます。

IFC が先陣を切って現地通貨建て融資を行ってきた年数

10 年以上



# フロンティア 市場

52

最貧国における  
経済成長と  
機会創出の促進

54


中所得国のフロンティア地域における  
生活向上

56

女性のための  
経済的機会  
の拡充

57

紛争や不安な情勢  
からの回復をはかる  
国々への支援



貧困と闘うには、貧しい人々が暮らしている場所を把握することが肝要です。これは 20 年前には単純な作業でした。貧しい人々の 90% が貧困国に住んでいたからです。今日、1 日 1.25 ドル未満で暮らす 13 億人のうち、低所得国に住んでいる人口はわずか 4 分の 1 に過ぎず、残りは中所得国で暮らしています。

このデータを見ると、貧困との闘い方にも調整が必要ながことが明らかになります。貧困は、最貧国で定着するきらいがあります。経済成長が堅調に進んでいても、アフリカのように貧困率がなかなか低下しない国もあります。また、紛争や政治不安によって弱体化した国では平常に戻るのはさらに困難です。このような国への支援は IFC の優先課題となっています。しかし、中所得国の最貧地域も重要です。そこでは多数の人々が助けを待ち望んでいます。



# 最貧国における経済成長と 機会創出の促進

ハイチの北方にある小都市、ウアナマントには仕事がほとんどなく、生活に困っている人は、ロランド・ペリクレスをはじめ大勢います。

これを一変させたのは、Grupo M（本社：ドミニカ共和国）が所有する工業団地 Codevi の開発です。IFC の支援により、Grupo M は工業団地の拡張が可能になりました。その結果、今では 6,500 人が、質の高いブランドものの輸出用衣料を生産しています。これらの労働者には医療保険や教育手当がつき、ハイチでは稀な活発な労働組合もあります。

「最初はミシンで衣服を縫っていましたが、その後、主任になり、今では調整役になりました。給料がもらえるので家族を養えます」とペリクレスは言います。

ハイチをはじめ世界の最貧国では、予防可能な疾病の撲滅、紛争解決、貧困削減に苦戦を余儀なくされています。こうした国々は、最貧国を対象にした世界銀行の基金、国際開発協会（IDA）の融資適格国となっています。これらの国で機会を創出し持続可能な経済発展を進めることは IFC の優先課題であり、投融資と助言を併合して、その実現に当たっています。

2005 年度以来、IDA 適格国向けの投融資は 6 倍に増え、2012 年度には、ほぼ 60 億ドルに達しました。IDA 適格国は、投融資プロジェクトの半数近く、さらに助言プログラムへの支出の 65% を占めています。これらの国々での IFC の実績は優れており、IFC が 1 ドル出資するごとに、2.45 ドルの見返りを達成しています。

これほどの財務パフォーマンスがあるからこそ、IFC は、IDA の増資の際に多額の拠出が可能になったのです。これまでの拠出合計は 22 億ドルに上ります。これは IFC の払込資本（24 億ドル）にほぼ等しい金額です。

右：  
IFC は、ハイチの工業団地 Codevi の衣料工場の拡張にあたる Grupo M 社を支援し、ロランド・ペリクレスのような何千人もの従業員の生計を助けています。

下：  
マミコン・イエブレミアンは、IFC の顧客である ACBA-Credit Agricole Bank からの借入金で 2011 年に酪農業を始めました。





IDA 適格国向け  
投融資は 2005 年  
以来 6 倍に増大

IDA 適格国では、機会創出と人々の生活向上を素早くしかも持続可能な形で進めるプロジェクトに的を絞って業務を推進してきました。例えば、2012 年度には、長年の内戦で事実上崩壊した経済の回復をはかるブルンジで、合計 138 室のヒルトン・ホテルの建設に 550 万ドルの融資パッケージを提供しました。

ブルンジは、経済の安定を取り戻し、基礎固めと近代化を進めるべく IDA と力を合わせてきました。その結果、すでに大きな改善が見られます。世銀の報告書「ビジネス環境の現状 2012」には、世界で最も改善された国の 7 位にランクされました。

国際基準を満たす快適な室内と質の高い会議施設が完備されたこの新ホテルの建設により、ビジネス客や海外旅行者を一段と惹きつけられるようになるでしょう。またこの建設で、155 人分の正規雇用が創出され、その 3 分の 1 は女性が占めるものと期待されています。

60 億ドル

IDA 適格国への  
投融資額









## 中所得国のフロンティア 地域における生活向上

携帯電話は生活を一変する可能性があります。それが動作しない過疎地に住む 16 億人にとっては無用の長物です。

大半の携帯電話会社は、ある国で商業的に見込みのある地域までしか手を広げないのが普通です。これらの企業にとり、必要な設備の設置費を正当化するには、距離が離れ過ぎていたり、住民の数が少な過ぎるのです。そのため、この通信革命から除外された人々が出ています。

一方、こうした遠隔地の人々に電話サービスを提供することを好機とみる起業家もいます。IFC は、経済ピラミッドの底辺で暮らす人々に、安価で生活の向上に役立つ、斬新でインクルーシブなビジネスモデルをもたらしている有望なリーダーを支援しています。IFC の業務はまた、中所得国のフロンティア地域に住む人々の暮らしの改善にも貢献しています。

「遠隔のコミュニティにだって見込みはあります」と、アイルランドの技術系会社 Altobridge のマイク・フィッツジェラルド最高経営責任者（CEO）は言います。「反対に、今では、遠隔のコミュニティは高い投資利益率を実現できないという神話を覆す証拠やケーススタディの実例が、アフリカ、アジア、中東の各地でたくさん見られます」

インクルーシブなビジネスモデルは、ここ 8 年間に、IFC の投融資契約の約 7～10% を占め、契約総額は 70 億ドル以上に達しています。80 カ国以上の国々でインクルーシブなビジネスに携わる企業 300 社余りと進めてきたこの業務を通じて、ピラミッドの底辺で暮らす 2 億 5,000 万人以上の人々が支援を受けました。


Altobridge 社の低コストの技術への投融資により、インドネシアの過疎地の村で携帯電話の利用が可能になりました。

IFC はまた、緊急の開発課題に斬新な解決策を導入する手助けを行うことで、中所得国のフロンティア地域における民間セクターの強化にも携わっています。例えば、クロアチアでは、シベニク近郊にある風力発電所に資金を提供し、気候変動に対応しながら、家庭や工場に安定した電力を供給しています。

インドネシアでは、Altobridge 社の中核商品である「ライト・サイト」と呼ばれる基地局が活躍しています。従来のシステムは過疎地の農村にはとても高価で手が届きませんが、この基地局はその 20% にあたる 5 万ドルで途上国の携帯電話会社に販売されています。独占的ソフトウェアと低コストの太陽光パネルで作動する同社のシステムは、人口 3,000 人のコミュニティでも効率的にサービスを提供することが可能です。

IFC は昨年、同社に対し、初期段階で 500 万ドルの出資を行いました。インドネシアで有数の携帯電話会社 Indosat は、一番近い空港から車で 15 時間かかるスラウェシ島の遠隔の村マンビで携帯電話の新規利用者を開拓するため Altobridge 社のシステムを使っています。

つい最近まで、この村の住民には通信手段がほとんどなく、電話をかけるのに 3 時間、近くの病院に行くために 5 時間もかかりました。今では、病院から医療の最新情報をテキストで受け取ったり、小企業は Indosat の電話を利用してビジネスの効率改善を図ることができます。



## 女性のための経済的 機会の拡充

化学業界での仕事は一般に高い給与を支払います。しかしインドでは、職場環境が危険であるという理由で、女性はこれまでこの市場から締め出されてきました。

IFC は顧客である Meghmani Organics 社と協力して、この観念を覆そうとしています。2008 年に、女性従業員を雇った初の化学工場の設立に際し同社を支援したのです。IFC の援助を受け、同社は、新工場 FineChem で、フレックス制や特別な医療・安全規定など、女性の従業員のニーズに適した方針を確立しました。また、別のロッカー室やシャワー施設も女性のために完備しました。

その結果は特筆に値します。インドの他の化学会社に模範を示したのです。現在、この工場で働く 45 人ほどの女性の多くはグラジャート州の港湾都市ダヘジに近い村々の出身者です。同社によると、女性は男性に匹敵する能力をもつ上、生産性が高く、安全基準に留意すると述べています。そして女性の方は、安定した仕事、収入向上、家庭や村での地位向上という恩恵に預かっています。

女性は経済発展と機会創出の大きな源泉となっています。途上国では、女性は中小企業の約 3 分の 1 を占めており、雇用創出のエンジンでもあります。さらに女性は世界の労働力の 40% を構成しています。起業家、従業員、消費者、ステークホルダーとしての立場で女性の機会を拡充すれば、現地市場と世界市場の両方の変革が可能になります。

IFC は、女性起業家による金融へのアクセスを拡充する一方、女性の前に立ちどかる事業上の障害も除去しています。顧客との協働により、女性の労働条件の改善にも努めています。また、現地の商工会議所や他のパートナーからの協力を得て、ビジネスや経営管理のスキルについての訓練を女性起業家に提供しています。

例えば、エジプトでは、Cairo Investment and Real Estate Development 社と共同で、コーポレート・ガバナンスの見直しを実施し、取締役会に女性を加えるよう同国最大の私立学校網を経営する企業に奨励しました。同社はこの推奨を受け入れ、取締役員の多様化を進めました。その結果、取締役会の有効性が大いに向上したと同社は述べています。

2010 年末に「バンキング・オン・ウィメン（女性の銀行活用）」を立ち上げて以来、IFC は、サブサハラ・アフリカでの経験を礎に、東欧や東アジアで女性が所有する小企業を支援するため 7,800 万ドル以上の投融資を行ってきました。IFC の顧客は 2011 年に、全体で約 76 万人の女性を雇いました。IFC はまた、新規の「グローバル SME 金融ファシリティ」に 2 億ドルを投じることで、10 年間の実施期間中に小企業 60 万社（その 4 分の 1 は女性保有企業）に資金を提供できる見通しです。

IFC の顧客であるマイクロファイナンス機関からの借入により、タジキスタンに住むマスツラ・アソエヴァは籠作りのビジネスの拡張が可能になりました。



## 紛争や不安な情勢からの 回復をはかる国々への支援

5 億  
3,700 万ドル

紛争の影響下にある  
地域への投融資額



紛争や不安な情勢下にあった国で暮らす 15 億もの人々にとって、一からやり直すのは容易ではありません。戦争や内戦により、安全な場所が減り、インフラや交易が被害を受け、規制枠組みが崩壊し、起業を志す人々は与信を受けることができません。

こうした地域の回復を助けるため、IFC は直近の支援と長期的支援を行っています。民間セクターの再建、起業精神の促進、人々の仕事復帰に力を貸しているのです。

20 年ほど前に人口の 5 分の 1 が大量虐殺の犠牲となったルワンダでは、経済成長と民間セクターへの投資が貧困緩和のカギを握っています。ですが、この国の起業家たちの行く手には長年にわたり手間のかかる法的・行政手続き、すなわち、事業登録や、商業上の紛争解決、クロスボーダー型貿易を困難にする官僚主義が立ちはだかってきました。

IFC は、「ルワンダ投資環境改革」プログラムを通して、複雑な規制の簡素化を進める政府を支援しました。その結果、新規雇用数は 1 万 6,000 人以上、新企業の設立数は 8,000 社に上りました。世銀グループの報告書「ビジネス環境の現状」によると、今や同国は世界有数の投資環境改革の推進国だと述べています。投資環境が改善されれば、起業家が事業を起こし、雇用を生み、国内で投資を行う可能性が高まります。

反政府運動「アラブの春」によって開発問題が深刻化した中東・北アフリカ地域では、IFC は、2011 年にこの運動が始まって以来、20 億ドル以上の資金を投じました。中小企業の金融アクセス拡充、若年層の失業対策と就職のためのスキル向上、重要なインフラ・イニシアティブへの資金増強を目的とする一連のプログラムを立ち上げたのです。

紛争後の地域では通常、最初のステップとしてアドバイザー・サービスを提供します。これは、投資を誘致すると同時に、個人レベルでは、事業を一から始めようとする起業家に大きな影響を与える可能性があります。

例えば、鉱物資源が豊富なコートジボワールでは、10 年に及ぶ政治的・軍事的混乱により、採掘産業はほぼ壊滅的な打撃を受けました。IFC は、ニッケルと銅の採掘プロジェクトを支援するため、West African Sama Resources を通じて約 120 万ドルの投融資を行いました。このプロジェクトは雇用創出と成長促進につながる一方、同国への将来の投資に備えた適切な環境・社会基準も設定することになるでしょう。

紛争の影響下にある脆弱国への IFC 投融資は、2012 年度に 5 億 3,700 万ドル、プロジェクト数にして 45 件に達し、実施したアドバイザー・サービス・プログラムは 3,100 万ドルに上りました。2 月には、ケニアのナイロビに「紛争・安全保障・開発に関する世界センター」が世銀により新設されました。同センターは、ぜひとも必要としていた財政支援と専門知識を受けることにより、戦火で荒廃した貧しいコミュニティの経済再建に役立つことでしょう。

45

紛争の影響下にある  
地域での投融資の  
プロジェクト数



世界経済の先行きが不透明な中、途上国への資本フローは大幅に減少しました。ここ2年間で民間資本フローは25%近く縮小し、途上国への援助も減少しました。

この資金不足の時期においても、IFCは途上国に多額の資金を投入し続けました。自己勘定からの投融資が増える中、それを補足するため、他の投資家を動員する機会がしだいに増えました。例えば、2012年度には、こうした投資家からの資金は50億ドル近くに達し、IFCの投融資契約全体のおよそ4分の1を占めました。

新たな資金源を見出すことはIFCのアプローチの中核をなしています。その例として、途上国同士の投資奨励、プライベート・エクイティ・ファンドの活用、そして資金を最も必要としている場での資金捻出のための様々な斬新な方策が挙げられます。



# 最大の成果を あげるための 資金動員

60

資金動員の威力

62

新興市場における  
開発資金の捻出

64

重要性が高まる  
南・南投資

65

貿易金融が開発に  
重要な理由



協調融資を通じて  
動員した資金

27  
億ドル



# 2,351キロ

ケニアとウガンダを  
結ぶ重要な鉄道の全長

## 資金動員の威力

インド洋に面したモンバサからビクトリア湖畔まで、乾燥低木地、高地、溪谷を抜けて走る全長 2,351 キロのケニア／ウガンダ鉄道は、アフリカ東部の輸送と交易の活路となっています。

何十年にもわたる資金不足とずさんな経営により、この鉄道網はつい最近まで老朽化が進んでいました。事故は頻繁に起き、運行時間は予測がつかない状態でした。

この歴史的な路線を軌道に乗せるには民間投資がぜひとも必要です。IFC は 2011 年に、一部の金融機関との協調により、この路線を買収した Africa Railways Ltd. に約 2 億 7,400 万ドルを提供しました。同社は、新規の設備投資を行い、より高速で安全な鉄道を建設するため技術者を招き入れました。

他の投資家から資金を動員し、IFC と共に投融資を行ってもらうことは、IFC 戦略の柱となっています。それにより、IFC が単独では成し得ない目標の達成が可能になります。また、資金だけでなく知識の結集も行えます。

このような効果的な資金動員が可能なのは、IFC が力強い利益を一貫して達成してきた実績があるからにほかなりません。2012 年度には、銀行、国際金融機関、政府系ファンド、財団などのパートナーから開発向け資金として 50 億ドル近くを動員しま

左：  
かつては運行の遅れや事故が絶えなかったケニア／ウガンダ鉄道は、IFC の支援を得て、今では民間企業として大規模な再建を進めています。

右：  
IFC はコロンビアの主要幹線道路の一つ、ルタデルソル・ハイウェイの建設資金 27 億ドルを調達する際に同国政府を助けました。

した。これは 2007 年度の水準を約 11 億ドル上回っています（25 ページの「業務結果の要約」参照）。

第三者からの資源動員は通常、多国間開発銀行の中で最も古く最大の規模を誇る、IFC の協調融資プログラムを通じて行われます。他の投資家は、IFC の各種の協調融資商品に参加する形で、困難な市場に投融資を行います。2012 年度の協調融資は 27 億ドルに達しました。

資金動員の活動の中でも急速に伸びているのが IFC アセット・マネージメント社です。IFC の全額出資子会社である同社は、堅実な投資収益率と開発成果を実現しつつ、投資家に専門知識も提供します。同社が動員した 2012 年度の契約済み資金は 4 億 3,700 万ドルに上りました。

今回の鉄道プロジェクトへの参加者は、オランダの開発金融公庫（FMO）、ドイツの投資開発銀行（DEG）、フランスの Proparco という 3 つの欧州開発金融機関と IFC アセット・マネージメント社の運用するファンドでした。また、エジプトに本拠を置くプライベート・エクイティ会社 Citadel Capital SAE も重要な役割を果たしました。

この鉄道の回復ぶりはすでに鮮明にみられます。積載貨物量は 8% 増えました。旅客列車の運行本数も倍増し、事故件数はほぼ半減しました。IFC だけではとうてい達成できなかったことです。



# 1,000万ドル 大地震の被害を受けた ハイチへの投融資額

## 新興市場における 開発資金の捻出

途上国の小企業にとり、今ですら困難な資金借入が、そのうちもっと難しくなるかもしれません。

近年の世界経済危機を受け、規制当局は、税金を使わずに銀行救済を行う方策を模索してきました。新規の国際銀行規制によると、銀行は、将来の損失に備えて総額6,000億ドル以上の資本を増強する必要があります。この規制が2013年に実施されると、銀行は困難な選択に迫られるでしょう。

その一つは貸付を減らすことです。自己資本規制が比較的厳しい新興国の中小企業はその打撃をものに受けるでしょう。

この問題を予期していたIFCは、銀行が資本規制に違反せずに新興市場の中小企業向け貸付を増やすことができるよう、斬新なファンドの設立を支援しました。今年、プライベート・エクイティ会社Christofferson, Robb & Companyが運用する新規の「キャピタル・リリース・リデプロイメント・ファンド（CRRF）」に1億ドルを拠出しました。

このファンドにより、銀行は、中小企業向け貸付のうち一部の信用リスクを第三者に移転することで、さらなる貸付資金を捻出することができます。またこのファンドは、他の投資家から3億ドルの追加資金を誘致できる見通しで、新興国の中小企業向け貸付が最高40億ドルに増大する可能性があります。

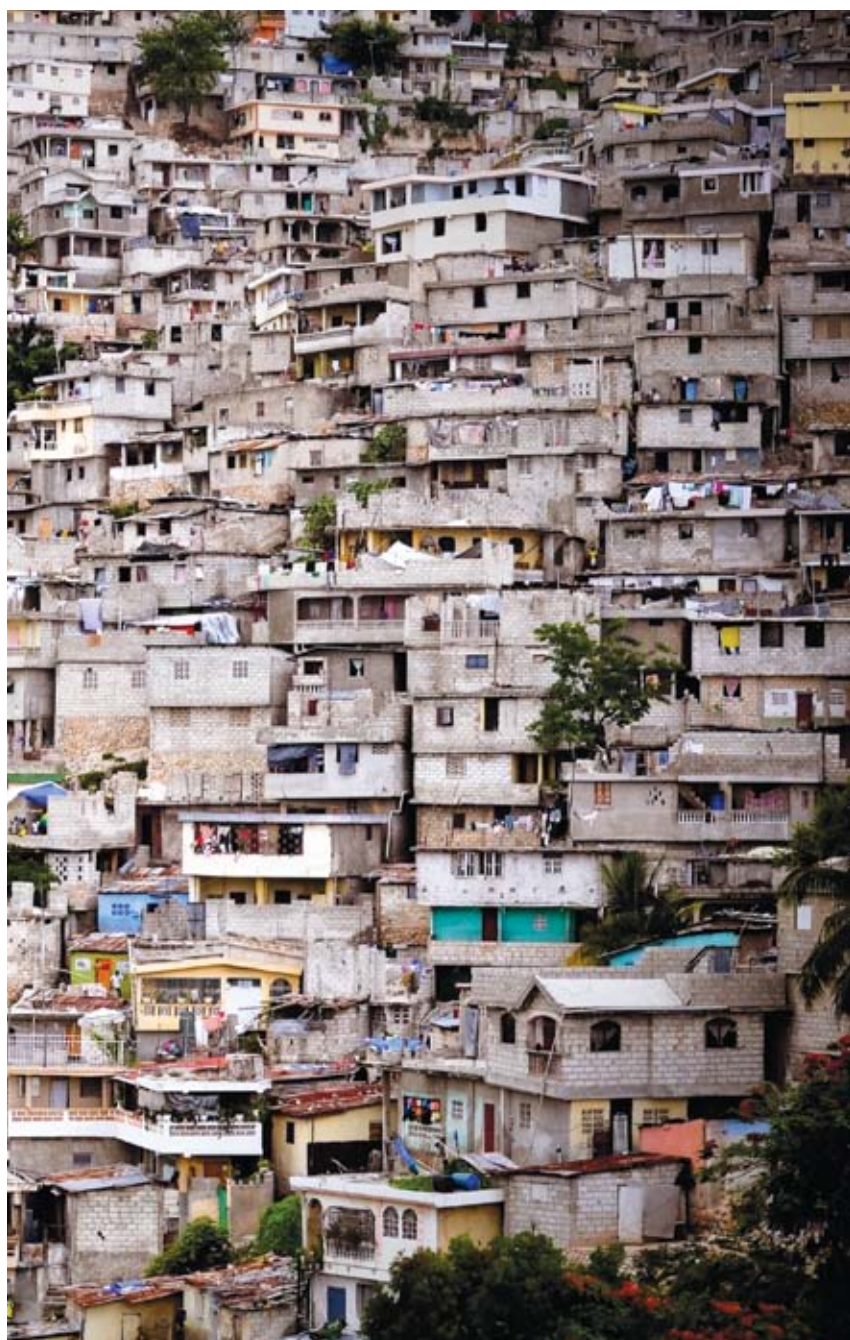
IFCには、特に危機や先行きが不透明な状況で、新興国の開発支援を目的とした新資金源を斬新な形で発掘できる長年の実績があります。IFCの経験が示すように、プライベート・エクイティ投資はここでも重要な役割を果たすことができます。

新興国での投資ファンドを力強く支援してきたIFCは、1980年代からこの方面に投資を行ってきました。このポートフォリオは現在30億ドルに達し、ファンド数は世界各地で約180件に上ります。これらのファンドに投資することで、IFCは、自己のパフォーマンス基準や方針要項を取り入れて、ファンドのプロジェクトの環境・社会パフォーマンス基準を高めることができます。

IFCがプライベート・エクイティ・ファンドを支援する理由は、それらが中小企業に資金と専門知識を提供するからです。このプライベート・エクイティ投資により、2011年には、顧客が創出した雇用全体の3分の1に近い約79万5,000人の雇用が支援されました。

一部の最貧国では、IFCがプライベート・エクイティへの最初の投資者である場合がよくあります。今年の最初の投資は、大地震の被害を受けたハイチのプライベート・エクイティ・ファンドに行われました。Leopard Capitalのハイチ・ファンドに投入された1,000万ドルが、同国の住宅、再生可能エネルギー、食糧生産を支援するものと期待されています。





IFC の 2012 年  
度の最初の  
プライベート・エクイ  
ティ投資は  
ハイチで行  
われました。





# 重要性が高まる 南・南投資

IFC の投融資は、パキスタンの慢性的な電力不足の緩和を目指す風力発電所の建設でトルコの Zorlu Energy 社を助けています。

新興経済国にも民間セクターが必要です。しかし、経済の見通しが不透明なため、銀行の与信が逼迫し、貸し渋りが出ている状況では、先進国からの民間投資を常に期待することはできません。

一つの途上国または中所得国から他の途上国への資本の移動、すなわち、南・南投資は、金融市場を深化し、成長を生み、新たな資源源を活用するための重要な手段となりつつあります。

それはまた IFC の戦略的優先課題でもあります。こうした投資は、過去 8 年間に、プロジェクト数と投融資契約額の最高 20% を占めるようになり、最貧国、アフリカ、中東への投資がしだいに増えています。独立評価グループによると、この投資は、力強い開発結果を生み、環境・社会基準の向上に役立っていると述べています。

中国の銀行や企業が世界各地で投資活動を増す中、IFC は、そうした投資が単に収益だけでなく持続可能であることを期するため、これらの銀行や企業と協力しています。こうしたプロジェクトは、強固な環境・社会基準を貫くことで、長い目で成功を収め、貧困層に直接利益をもたらすでしょう。

2012 年度に、IFC は、41 件の南・南プロジェクトに 15 億ドルを投じました。Ghana Vodafone 社に対する 1 億 1,500 万ドルの融資パッケージの取極めには、中国開発銀行と中国輸出入銀行からの 7,200 万ドルの並行融資が含まれました。この取極めは、中国の銀行が IFC のアフリカでの資金動員に初めて参加したもので、環境・社

会基準の促進役として銀行セクターを利用するという IFC 業務の新たな道が示されました。この取引の下で、通信サービスの信頼性と経済性が向上し、競争が高まることから、貧困層に成果がもたらされるでしょう。

南・南投資は中国発だけに限りません。IFC は、中国の貧困地域に民間セクターの資金を誘致する手助けも行っています。同国で最も貧しく遠隔の地方の一つ、新疆ウイグル地区では、小口貸付会社を設立するために、モンゴルで 4 番目の規模を誇る有力なマイクロファンダンス機関 XacBank や他の投資家と協力しています。このプロジェクトは、中小企業のために金融アクセスの拡充を図ることで、雇用創出と起業精神の促進につながります。

またアフリカの国々に対しても近隣諸国に投資を行うよう奨励しています。この傾向が定着すれば、長年の紛争からの経済回復と起業家を育む環境づくりに役立ちます。

IFC は 2012 年度に、ナイジェリアの Vitafoam 社がシエラレオネに進出する際に 280 万ドルを提供しました。この投融資は、IFC にとり、シエラレオネで 10 年前に紛争が終焉して以来初の製造向けプロジェクトとなったほか、アフリカの途上国同士の投資の重要性を示し、シエラレオネがビジネスを始める合図を送ることもありました。そして最も重要なのは、このプロジェクトが雇用を生み、政府の税収を増やし、輸入品への依存度を減らすことです。

## 20%

投融資全体に占める南・南プロジェクトの割合

25%

## 農家とアグリビジネスを支援する貿易金融への投融資契約の割合

## 貿易金融が開発に重要な理由

国際貿易は経済発展を促しますが、貿易は金融の有无に左右されます。しかし、途上国のビジネスにとって、貿易金融は、金融混乱が起きるとまず最初にアクセスできなくなるものでもあります。

今年、先進国での景気後退が、アジア、アフリカ、ラテンアメリカのビジネスに打撃を与えました。これまで貿易金融の主役だった欧州のいくつかの銀行は、多数の途上国向けの融資を削減しました。貿易金融の資金が逼迫するにつれ、その金利は大幅に上昇しました。

IFC は、多国間開発銀行の間で先導的な役割を果たすことで、この資金不足に対応しました。ここ数年間、途上国で貿易金融を拡大するため、各種の斬新なグローバル・イニシアティブを立ち上げるなどして、貿易金融のための投融資を大幅に増やしました。今年、IFC の貿易金融業務がもたらした開発成果を測定し始めた初の国際金融機関となりました。

IFC は、貿易金融が開発成果を拡大できる重要な分野であると考えています。それというのも、民間セクターは自分の力だけで必要資金を調達できないことが一部の理由です。貿易金融におけるこの「市場ギャップ」は少なくとも 250 億ドルに達するという推測もあります。しかし、もう一つの理由は、貿易金融は IFC の戦略的優先課題の全てを進展させることができ、援助を最も必要としている人々の生活の向上に役に立つことが分かったからでもあります。

IFC の「グローバル・トレード・ファイナンス・プログラム」は 2005 年以来、総額 190 億ドル、1 万 2,500 件余りの保証を発行し、その半分以上は最貧国を対象としてきました。この業務を通じて、紛争の影響下にある脆弱国 15 カ国以上との関わりを深める道が開かれました。同プログラムの下で発行された貿易金融向け保証の 80% 以上は中小企業に恩恵をもたらしました。このプログラムの下で結ばれた投融資契約の 25% 余りは農家やアグリビジネスを支援するものでした。

加えて、IFC の「世界貿易流動性プログラム」は 2009 年に設立されて以来、総額 210 億ドルに及ぶ貿易を支援しました。これらの 2 つのプログラムの下で行われた 2012 年度の投融資契約は、前年度を 23% 上回る合計 61 億ドルに達しました。

80%

貿易金融向け保証のうち中小企業に恩恵を与えている保証の割合



## 有益な情報源 インターネットおよびソーシャル・メディア

IFC のウェブサイト ([www.ifc.org](http://www.ifc.org)) には、IFC の活動のあらゆる面についての包括的情報が掲載されています。この中には、世界各地の事務所の連絡先、プレスリリースと特集、結果測定に関するデータ、投融資案件についての情報公開書、IFC とその顧客に影響を及ぼす主な方針とガイドラインなどが含まれています。

本報告書の英語のオンライン版と、各国語への翻訳が終了し、しだいその翻訳版の PDF ファイルは以下のウェブサイトでダウンロードが可能です ([www.ifc.org/annualreport](http://www.ifc.org/annualreport))。また、このサイトには、グローバル・レポーティング・イニシアティブ (GRI) の指標を含む持続可能性に関する詳細情報も掲載されています。

*Facebook*  
[www.facebook.com/IFCwbj](http://www.facebook.com/IFCwbj)

*Twitter*  
[www.twitter.com/IFC\\_org](http://www.twitter.com/IFC_org)  
#IFC and #IFCAR2012

*LinkedIn*  
<http://www.ifc.org/LinkedIn>

*Scribd*  
[www.scribd.com/IFCpublications](http://www.scribd.com/IFCpublications)

*YouTube*  
[www.youtube.com/IFCvideocasts](http://www.youtube.com/IFCvideocasts)

IFC ウェブサイト  
[www.ifc.org](http://www.ifc.org)

ソーシャル・メディア索引  
[www.ifc.org/SocialMediaIndex](http://www.ifc.org/SocialMediaIndex)

年次報告書  
[www.ifc.org/AnnualReport](http://www.ifc.org/AnnualReport)



[www.ifc.org/annualreport](http://www.ifc.org/annualreport)

一部の重要課題に関する詳細情報については以下のウェブサイトをご覧ください。

IFC/世界銀行の報告書「ビジネス環境の現状」  
[www.doingbusiness.org](http://www.doingbusiness.org)

IFC と世界銀行の女性、ビジネス、法規に関する共同プロジェクト  
<http://wbl.worldbank.org/>

IFC/世界銀行の企業調査  
[www.enterprisesurveys.org](http://www.enterprisesurveys.org)

IFC の分野別活動の要約  
[www.ifc.org/issuebriefs](http://www.ifc.org/issuebriefs)

IFC のプロジェクト検索地図  
[www.ifc.org/projectmappingtool](http://www.ifc.org/projectmappingtool)

アフリカ：民間セクターの威力  
[www.ifc.org/TOSAfrica](http://www.ifc.org/TOSAfrica)

気候変動：民間セクターを用いた解決策  
[www.ifc.org/TOSClimatechange](http://www.ifc.org/TOSClimatechange)

インフラ：民間セクターの貢献  
[www.ifc.org/TOSInfrastructure](http://www.ifc.org/TOSInfrastructure)





## クレジット

IFC コーポレート・リレーションズ  
製作

デザイン：Addison  
[www.addison.com](http://www.addison.com)

印刷：Sandy Alexander  
[www.sandyinc.com](http://www.sandyinc.com)

写真：

裏表紙：Mikkel Ostergaard/Panos

2 ページ：Deborah Campos/  
WB Photolab

3 ページ：Ray Rayburn/WB Photolab

4 ページ：Iwan Bagus

7 ページ：Dorling Kindersley/Getty

10 ページ：Dilip Banerjee

13 ページ：Great Lakes Communication  
and Media Center

14-15 ページ：Natalie Behring/Panos

17 ページ：John McNally

19 ページ：Sara King

21 ページ：Dieter Telemans/Panos

22 ページ：Julio Etchart/Panos

24 ページ：Tim Smith/Panos

29 ページ：Abdallah Awidi

30-31 ページ：Iwan Bagus

33 ページ：Shiho Fukada/Panos

34 ページ：Adi Setiadi

35 ページ：Mads Nissen/Panos

36 ページ：Belcorp

37 ページ：Truong Vu Minh Hieu

38 ページ：John McNally

39 ページ：Chris Jordan

40 ページ：Tim Smith/Panos

42 ページ：Alexander Charin

44 ページ：Sandro Moore ( 左 )

44 ページ：Zorlu Energy Group ( 右 )

46 ページ：Xaykham Manilasith

47 ページ：ASHA Philippines ( 左 )

47 ページ：Abbie Trayler-Smith/Panos ( 右 )

48 ページ：Sven Torfinn/Panos

49 ページ：Kesara Ratnavibhushana

51 ページ：Alfredo Caliz/Panos

52 ページ：Harutyun Poghosyan ( 上 )

52 ページ：William Daniels/Panos ( 下 )

53 ページ：Romel Simon

54 ページ：Altobridge

56 ページ：Chris Wright

57 ページ：Great Lakes Communication and  
Media Center

58 ページ：Crispin Hughes/Panos

60 ページ：Citadel Capital SAE

61 ページ：Constructora Noberto  
Odebrecht

63 ページ：josine/Getty ( 上 )

63 ページ：Thony Belizaire/Getty ( 下 )

64 ページ：Zorlu Energy Group

65 ページ：Sven Torfinn/Panos

67 ページ：Julio Etchart/Panos



IFC のビジョンの達成

IFC は、他では  
達成できない  
結果を上げる  
ことに尽力して  
います。

## スコアカード IFC のビジョンの達成

新興市場で持続可能な民間セクター開発を促進するため、IFC は、投融資とアドバイザー・サービスを独自の形で組み合わせて顧客に提供しています。IFC ではこの特典を「付加性」と呼び、これを利用して開発効果の最大化を図ることが IFC 戦略の礎となっています。IFC の活動は 5 つの戦略的優先課題を指針としています。それにより、IFC の援助を最も必要とし最大の利益をもたらせる場で支援を行うことができます。

### IFC の 戦略的な 重点分野

1

#### フロンティア市場への 焦点強化

IDA 適格国、紛争の影響  
下にある脆弱な情勢、  
中所得国のフロンティア  
地域が対象

2

#### 気候変動対応と環境・ 社会の持続可能性確保

新しいビジネスモデルと  
金融手段の開発、基準の  
設定と向上

3

#### インフラ、保健衛生・ 医療、教育、食糧サプ ライチェーンにおいて民間 セクターの妨げとなっ ている障害への取組み

基本的サービスへのアクセ  
ス拡充、アグリビジネスの  
バリューチェーン強化

4

#### 現地金融市場の育成

機構の構築、資金動員、  
革新的な金融商品の導入

5

#### 新興市場の顧客との長期 的関係の構築

顧客の開発活動の指針と  
なり、国境を越えた成長を  
支援するための IFC 商品・  
サービスの幅広い活用



# スコアカード

## 戦略的優先課題におけるIFCのパフォーマンス

指標	パフォーマンス	
	2012 年度	2011 年度
開発結果		
高い評価を受けた投融資プロジェクトの割合 (DOTS スコア) <sup>1</sup>	68%	67%
高い評価を受けたアドバイザー・プロジェクトの割合 <sup>2</sup>	68%	67%
重点分野		
フロンティア市場		
IDA 適格国での投融資プロジェクト数	283	251
IDA 適格国での契約額 (百万ドル)	\$5,864	\$4,867
IDA 適格国でのアドバイザー・サービス支出 (百万ドル) <sup>3</sup>	\$ 122	\$ 107
サブサハラ・アフリカ向け契約額 (百万ドル)	\$2,733	\$2,150
中東・北アフリカ向け契約額 (百万ドル)	\$2,210	\$1,603
顧客とのパートナーシップ		
「南・南」投資プロジェクト数	41	32
「南・南」投資プロジェクト契約額 (百万ドル)	\$1,515	\$1,034
気候変動		
気候関連の投融資 (百万ドル) <sup>4</sup>	\$1,621	\$1,671
インフラ、保健衛生・医療、教育、食糧		
インフラ、保健衛生・医療、教育、食糧向け契約額 (百万ドル) <sup>5</sup>	\$3,642	\$2,200
現地金融市場の育成		
金融市場向け契約額 (百万ドル) <sup>6</sup>	\$9,375	\$8,176
零細・中小企業セクター向け契約額 (百万ドル) <sup>7</sup>	\$6,077	\$6,020

注：

1 DOTS スコア：承認期間 6 年間（2012 年度の場合は 2003 ～ 2008 年）の移動平均値をもとに、各年度の 6 月 30 日現在で高い開発成果を上げた顧客企業の割合（％）。

2 2012 年度と 2011 年度の評価は、それぞれ 2011 年と 2010 年（共に暦年）に提出された完了報告書の審査結果に基づく。

3 IDA 適格国におけるアドバイザー・サービス支出の金額は、2011 年度と 2012 年度ともに、地域プロジェクトを取り入れた改善後の手法を反映。

4 省エネ (EE) および再生可能エネルギー (RE) 向け投融資を含む。

5 IFC のインフラストラクチャー、通信・情報技術、地方政府ファイナンス、保健衛生・医療・教育、アグリビジネスを担当する各局の契約額（食糧サプライチェーン全体を含まない）。

6 ファンドおよびプライベート・エクイティを除いた IFC 金融市場局の契約額。

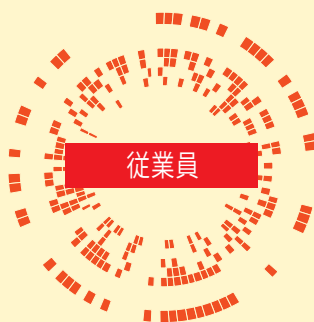
7 零細・中小企業 (MSME) の借入者、得意先の 50％以上が零細・中小企業である金融機関、さらに零細・中小企業を主たる受益者とする他の投融資を含む。

## 機会を最も必要とする場での機会創出 受益者

IFC とその顧客は、途上国で幅広く貢献しています。顧客が成功すれば、経済全体に波及効果を及ぼすことができ、貧困層をはじめ多数の人々の暮らしを向上するチャンスを与えます。

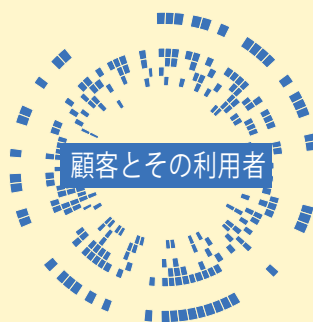
IFC は、顧客を通じて、従業員とその家族だけでなく、地元社会、サプライヤー、投資家、そして、顧客の商品の購買者や利用者のために機会を創出します。IFC の顧客は国家と地方の政府に多額の税収をもたらし、この税収を貧しい人への援助資金として利用できるようにします。さらに、これらの顧客は、自社設備の拡張や改善、環境面でのパフォーマンス向上、コーポレート・ガバナンス強化、経営管理システムの改善、産業基準の遵守に関し IFC の投融資と助言を利用することができます。

IFC の助言は投融資を補完し、効果を最大限に高めるために企業や政府を支援するものです。政府に対する助言業務は、投資環境の改革から、インフラなどの基本的サービスにおける官民パートナーシップの立案と実施まで幅広い分野に及びます。



IFC の投融資先の顧客は、プライベート・エクイティ投資ファンドを通して 80 万人弱、基本的インフラでほぼ 45 万人、アグリビジネス・林業で 38 万人近く、製造業でほぼ 37 万人など、合計 250 万人を雇用しました。

- インドでは、IFC の投資先であるプライベート・エクイティ・ファンドのポートフォリオに含まれる企業が、多数の女性を含め 1 万 2,000 人近くを雇用しました。



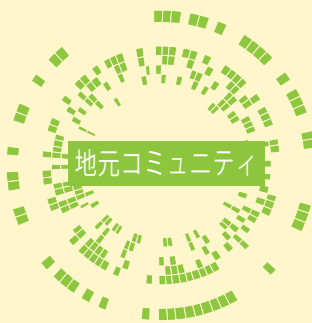
IFC の顧客は、合計 2,010 億ドル、2,300 万件もの貸付を零細・中小企業に行いました。加えて、電気、水道、ガスをほぼ 1 億 4,800 万人に供給し、1 億 7,200 万回線の電話を敷設しました。さらに医療サービスでは患者 1,200 万人、教育では 100 万人に近い生徒・学生が支援を受けました。

- 中国のある顧客は、2011 年に、260 万世帯に給水を、また 550 万世帯に下水サービスを提供しました。

- チュニジアのある顧客は、小口貸付ポートフォリオを 4,500 万ドル以上、さらに中小企業向け融資ポートフォリオを約 18 億ドルへと拡大しました。

- スリランカでは、IFC の一顧客が同国の電話利用者 1,830 万人の 40% 近くにサービスを提供しました。

- モルドバでは、IFC のアドバイザリー・サービスが放射線画像診断センターを支援し、年間 10 万人以上の患者のヘルスケア改善に貢献するでしょう。



IFC の方針、プロセス、そしてパフォーマンス基準は、顧客が地元社会に与える正の影響を高めつつ、負の影響を防止・緩和するための助けとなります。

- アゼルバイジャンのある顧客は 2011 年に、コミュニティ開発プログラムに 700 万ドルを投じました。

- ギニアでは、IFC のキャパシティ・ビルディング向けアドバイザー・サービスを地元のサプライヤーに行ったおかげで、国際的な資源採掘企業が地元の中小企業と 400 万ドル以上の新規調達契約を結びました。

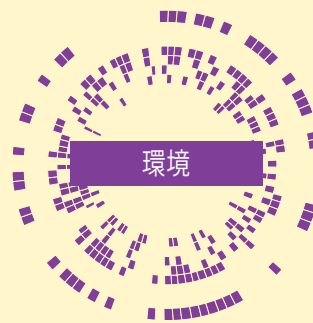


IFC の顧客は、地元のサプライヤーに多額の契約の機会を生み出しています。例えば、製造・サービス方面の顧客は 400 億ドル近くに相当する財やサービスの調達を行いました。アグリビジネスに携わる顧客は 330 万人の農民を支援しました。

- 南アフリカの資源採掘業界のある顧客は 2011 年に、地元サプライヤーから 6 億 4,000 万ドル余りの財やサービスを購入しました。

- インドでは、IFC の投融資先であるセメント会社が、最貧困州の一つで 300 人を雇用し、さらにその流通サプライチェーンを通じて 7,200 人の雇用を間接的に創出しました。

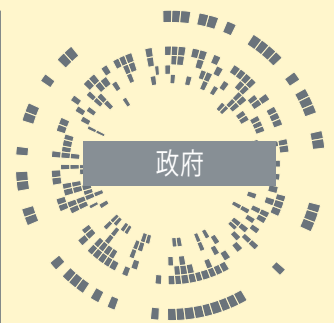
- バングラデシュでは、農産物の加工に携わるある顧客が、自社のサプライチェーンを通じて、1 万人以上の農民と 4 万 5,000 社余りの零細・中小企業を支援しました。



IFC のプロジェクトは、気候変動への取組み、環境・社会の持続可能性の促進に貢献しています。

- IFC の「ロシア持続可能なエネルギー金融プログラム」は、71 件ほどの省エネ・プロジェクトに対し 3,400 万ドル弱の資金援助を行いました。このプログラムは全体で、ロシアの企業のエネルギー費を年間 2,970 万ドル節減しています。

- バングラデシュの種子販売会社へのアドバイザー・サービスを通じて、IFC は、2 万 2,000 人以上の農民と 600 人の卸業者や小売業者を対象に、ストレス耐性型種子の利用と持続可能な生産慣行についての訓練を支援しました。同国の農務省は IFC の助けを受け、地元農家が利用できるストレス耐性型新種 7 種を導入しました。



昨年、IFC の顧客は、220 億ドル近くの収入を政府にもたしました。これには、石油・ガス・鉱業からの 60 億ドル強、基本的インフラからの 50 億ドルほど、そして製造・サービスからの 30 億ドル弱が含まれます。また、助言業務の半分は政府に直接行われました。

- ラテンアメリカの石油・ガス業界のある顧客は、法人税など、22 億ドル近くを政府に支払いました。

- イラクのある顧客は、法人税や他の支払いとして 5 億ドル以上を政府にもたしました。

- リベリアでは、助言業務を通じて、政府による国立事業登記所の設立を支援しました。これにより、事業設立に要する日数が以前の平均 20 日から 6 日に短縮されました。

- サントメ・プリンシペでも、政府への助言業務のおかげで、企業の登記手続きが簡素化され、事業設立に要する平均日数は 144 日から 10 日に短縮されました。





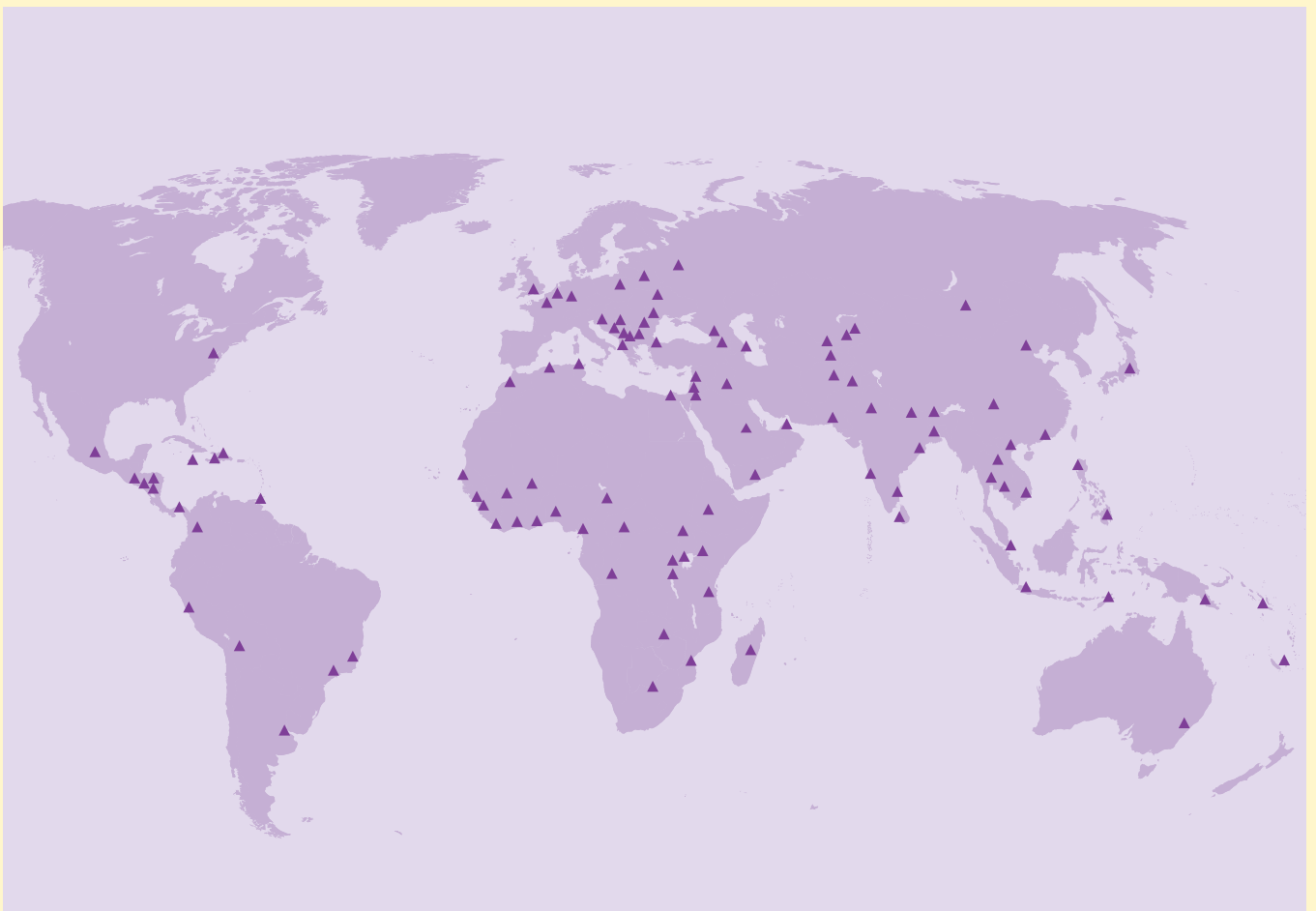
IFC の事業と専門知識

世界のあらゆる地域と  
ほぼ全ての産業から得  
られた IFC の経験は、  
様々な形で独自の  
メリットを顧客に与  
えています。

## 業務拠点

民間セクターに専念する国際開発機関としては最大の規模を誇る IFC は、100 カ国以上の途上国で業務を進めています。

IFC がある地域で学んだ教訓は、別の地域の問題解決に活用することが可能です。また、現地企業が自社の知識を利用して、他の途上国で好機を捉えるための手助けも行っています。



2012 年 6 月

## IFC の 3 つの業務

IFC の投融資サービス、アドバイザー・サービス、IFC アセット・マネージメント社という 3 種類の業務は、相互に補完しながら、途上国の顧客にグローバルな専門知識を提供しています。

これらの業務は、民間セクターが途上国で機会を創出するにあたり、IFC に一つの大きな優位性を与えています。それは、付加価値をもたらす斬新な方法を用いて、投融資と助言を顧客独自のニーズにカスタマイズできることです。さらに、IFC のプロジェクトに他の投資家を誘致することも大きな利点です。それにより、新たな資金源や一段と優れた事業の運営方法を顧客に伝えることができます。

### IFC の投融資サービス

IFC の投融資サービスは、民間投資家であっても、新興国で開発を進め、貧困削減を支援でき、同時に利益を上げられることを力強く示しています。

IFC の幅広い金融商品とサービスは、持続可能な事業の促進、起業精神の奨励、そして従来調達できなかった資金の動員を通じて、貧困緩和と長期的成長の促進を可能にします。IFC の金融商品は各プロジェクトの要件に合わせて提供されます。IFC は成長のための資金を供与しますが、資金の大半とそれに伴う指導や運営の責任は民間セクターの事業主が担っています。

2012 年度の IFC 投融資はおよそ 155 億ドル（プロジェクト数約 576 件）に達し、そのうち 60 億ドル近くは IDA 適格国でのプロジェクトが対象となりました。加えて、途上国の民間セクターへの支援として 50 億ドル弱の資金を動員しました。

### 商品ライン

#### 融資

IFC は、一般に償還期間 7 ～ 12 年の融資を自己勘定で行って、プロジェクトや企業に資金を提供します。また金融仲介役を務める銀行、リース会社、その他の金融機関に対し、オン・レンディング（転貸し）を目的とした融資も行います。

IFC は従来、主要先進国の通貨建てで融資を行ってきましたが、現地通貨建て商品の組成も優先させています。その例として、コロンビア・ペソ、インドネシア・ルピー、カザフスタン・テンゲ、モロッコ・ディルハム、ペルー・ヌエボソル、フィリピン・ペソ、ルワンダ・フラン、ザンビア・クワチャなど 50 を超えた通貨が含まれます。

2012 年度の新規融資契約額はほぼ 67 億ドルに達しました。

#### 出資

出資は、民間企業に必要な初期のサポートと、長期的成長に向けた資金を提供します。また、コーポレート・ガバナンスを支援し、社会的責任を高める機会も提供しています。

IFC は、企業への直接的出資のほか、プライベート・エクイティ・ファンドを通じた投資も行います。2012 年度の出資額は、IFC の自己勘定での契約額のうち、23 億ドル近くを占めました。

IFC の出資比率は通常、企業の株式資本の 5 ～ 20% となっています。出資先の企業に対しては、証券取引所への上場を通して株主の幅を広げるよう奨励しています。これは現地の資本市場の深化に役立ちます。また利益参加型融資、転換型融資、優先株式などへの出資も行っています。



## 貿易金融

IFCの「グローバル・トレード・ファイナンス・プログラム」は、認可金融機関の貿易関連の支払債務を保証するものです。このプログラムは、世界80カ国以上にある200行余りの銀行を対象に、取引ごとにリスク緩和を行うことで、貿易金融に携わる銀行の能力の強化と補完を行っています。

2012年度には貿易金融は約60億ドルに達し、IFCの自己勘定での契約額の3分の1以上を占めました。IFCの「世界貿易流動性プログラム(GTLP)」は2009年に設立されて以来、210億ドル以上を貿易の支援に注ぎました。

## 協調融資

多国間開発機関中、最も古く、最大の規模を誇るIFCの「協調融資プログラム」は、開発に必要な資金を動員する際の重要なツールとなっています。1957年に設立されて以来、このプログラムは、新興国110カ国以上で1,000件余りのプロジェクトを対象に、550行を超える金融機関から400億ドル以上を動員しました。

2012年度に動員した協調融資は27億ドルに上りました。これには、Bローンや並行融資も含まれ、その38%がIDA適格国とフロンティア市場での貸付に向けられました。協調融資の合計の41%はインフラ・セクターを対象としたものでした。また、投資家の幅も広がり、新興市場の銀行11行、開発金融機関3機関、西欧のファンド1件、中東の民間銀行1行が加わりました。IFCの2012年度の協調融資ポートフォリオの残高は112億ドルでした。

IFCは約580件のプロジェクトに

155 億ドル

の投融資を行いました。

IFCのGTLPは2009年以来

210 億ドル

もの貿易を支援しました。

IFCの協調融資は2012年度に

27 億ドル

に達しました。

## ストラクチャード・ファイナンス

IFCは、ストラクチャード商品や証券化商品を利用して、本来であれば直ちにアクセスしにくく、費用対効果の高い形態の金融を顧客に行っています。こうした商品には、部分的信用保証、流動性向上向けストラクチャード・ファシリティ、ポートフォリオ・リスク移転、証券化、イスラミック・ファイナンスなどが含まれます。IFCは、ストラクチャリングに関する専門知識と国際的に通用するトリプルAの格付けを活かして、顧客の資金調達筋の多様化、償還期間の延長、希望の通貨建てでの融資確保で顧客を助けています。

## 顧客のリスク管理サービス

IFCは、金利リスク、為替リスク、あるいは一次産品価格の変動リスクをヘッジするために、一連のデリバティブ商品を顧客に提供しています。その際、顧客がリスク管理市場の全商品にアクセスできるよう、途上国の顧客とデリバティブ市場のマーケットメーカーとの間で仲介役を務めます。

## ブレンド型金融

IFCは通常、ドナー・パートナーから供与される譲許的資金にIFCの自己資金を組み合わせ、様々なイニシアティブのための資金調達や、本来ならば不可能な開発成果を達成しようとしています。このアプローチは、気候変動、アグリビジネスおよび食糧安全保障、中小企業への金融というIFCの3分野の戦略的優先課題に適用されています。IFCは、譲許的資金と自己資金を併合する方法をすでに15年以上行ってきました。2007年度以来、ドナーから2億5,000万ドル以上を導入し、それを触媒にしてIFCや民間セクターから合計30億ドル余りを調達しました。

## IFC のアドバイザリー・サービス

民間セクター開発には、単なる金融以上のものがが必要です。アドバイザリー・サービスは、新たな投融資を開拓し、事業拡張や雇用創出を促す上で大きな役割を果たすことが経験から明らかになっています。

新興市場の民間セクターへの支援に向け、IFC は、企業、業界、政府に対し、助言、問題解決、研修などを行います。IFC の経験によると、企業の発展には金銭的な投資だけでは不十分なことが分かっています。そのためは、起業家を育成する規制環境の整備と、ビジネスのベストプラクティスについての助言が必要となります。この業務には、投資環境の向上や、基本的インフラの強化策を中央政府と地方政府に助言することが含まれます。さらに投融資先の顧客のコーポレート・ガバナンスや持続可能性の改善に向けた支援も行います。

IFC は 105 カ国で 630 件以上のプロジェクトを活発に実施しています。その資金はドナー・パートナー、IFC、顧客からの拠出金で賄われています。2012 年度のアドバイザリー・サービス・プログラムへの支出は、前年比約 8% 増の 2 億ドル近くに達しました。また、支出全体の 65% は IDA 適格国に、17% は紛争の影響下にある脆弱な地域に向けられました。

## 業務分野

### 金融へのアクセス

IFC は、個人と零細・中小企業による金融サービスの利用を拡大し、経済的にするための支援を行っています。その際の優先課題は、顧客が幅広い金融サービスを提供し、持続可能な成長と雇用に必要な金融のインフラを構築できるようにすることです。2012 年度末における金融アクセス向けプロジェクトの実施中のポートフォリオは 71 カ国で合計 245 件（2 億 9,570 万ドル）に上りました。また、2012 年度の助言プログラムへの支出は約 6,300 万ドルとなり、その 64% は IDA 適格国に、16% は紛争の影響下にある脆弱な地域に向けられました。

### 投資環境の整備

IFC は、各国政府が事業環境の改善のための改革を実施し、投融資を奨励・維持するための支援を行うことで、競争力のある市場、成長、雇用創出を促進しています。IFC の優先課題は、投融資を妨げている司法面・政策面の弱点を是正しつつ、事業や貿易を行いやすい環境を支える規制改革を策定し支援することにあります。2012 年度末における投資環境の整備向けプロジェクトの実施中のポートフォリオは 60 カ国で合計 129 件（2 億 2,670 万ドル）に上りました。また、2012 年度の助言プログラムへの支出合計は 5,700 万ドルで、その 77% は IDA 適格国に、25% は紛争の影響下にある脆弱な地域に向けられました。

IFC のアドバイザリー・サービスは

105 カ国

で 630 件以上のプロジェクトを実施中です。

2012 年度末における持続可能なビジネス向けプロジェクトの実施中のポートフォリオは

173 件

に上り 59 カ国で（総額 2 億 6,600 万ドル）実施されました。

アドバイザリー・サービス・プログラムの支出全体の

65%

は IDA 適格国に向けられました。

### 官民パートナーシップ

IFC は、インフラなどの基本的公共サービスで、政府が官民パートナーシップを立案し実施する際の支援を行います。IFC の助言は、電力、水道、保健衛生、医療、教育といった公共サービスの質と効率を高めながら、そうしたサービスへのアクセス向上で民間セクターの潜在力を解き放つことにより、政府が長期的な経済発展と生活水準の向上を実現できるようにします。2012 年度末における官民パートナーシップ・プロジェクトの実施中のポートフォリオは 46 カ国で合計 85 件（1 億 600 万ドル）に上りました。また、2012 年度の助言プログラムへの支出合計は 3,000 万ドルで、その 55% は IDA 適格国に、13% は紛争の影響下にある脆弱な地域に向けられました。

### 持続可能なビジネス

IFC は、企業が環境・社会・ガバナンスに関する慣行や競走上優位に立つための技術を導入するのを助けています。その際、市場の変革と人々の生活の向上につなげるため、こうした慣行が幅広く取り入れられるよう努めています。さらに、女性のビジネス促進や、小規模農家と小企業有能力強化を支援する一方、気候変動対策を見出すため民間セクターに働きかけています。2012 年度末における持続可能なビジネス向けプロジェクトの実施中のポートフォリオは 59 カ国で合計 173 件（2 億 6,580 万ドル）に上りました。また、2012 年度の助言プログラムへの支出合計は 4,800 万ドルで、その 59% は IDA 適格国に、10% は紛争の影響下にある脆弱な地域に向けられました。

## IFC アセット・マネージメント社

IFC の全額出資子会社である IFC アセット・マネージメント社 (AMC) は、途上国やフロンティア市場への投資を目的に第三者の資金を動員し運用しています。これらの市場で長期資本の供給拡大を図るために 2009 年に設立された同社は、IFC の開発目標を支援すると共に、投資家に代わって利潤の上がる投資を行っています。

AMC は IFC と共に投資を行います。その投資はすべて、IFC パフォーマンス基準に則って行われます。その資金は、新興市場への投資拡大を模索中であるか、IFC の取引パイプラインや、投資アプローチ、優れた収益率の実績を利用したいという機関投資家から調達します。IFC の株式投資の平均内部収益率は過去 20 年間にわたり年間 20% を超えています。

AMC は、途上国の生産性の高い民間企業への投資資金を一段と増やすことにより、IFC が中心的開発マンドートの一つを達成するのを助けています。また、IFC が行える投融資の規模と件数を拡大することにより、IFC の開発成果も高めています。

2012 年 6 月 30 日現在の同社の運用資産は約 45 億ドルに達しました。AMC は、政府系ファンド、年金基金、開発金融機関など、様々な機関投資家に代わって資金を運用しています。現在、同社の運用下にあるポートフォリオは以下の通りです。

### AMC が運用するファンド

#### IFC 資本増強ファンド

IFC の 30 億ドルの「資本増強ファンド」は、約 13 億ドルの株式ファンドと約 17 億ドルの劣後債ファンドで構成されています。2009 年に設立されたこのファンドは、新興市場でシステム上重要とみなされる銀行を強化し、金融情勢の悪化や景気後退局面に対応する能力を高めるためのものです。このファンドは、日本の国際協力銀行 (JBIC) から 20 億ドル、IFC から 10 億ドルの拠出を受けて共同で立ち上げられました。設立から 2012 年度末にいたるまで、バーレーン、ホンジュラス、マラウィ、モンゴル、オマーン、パプアニューギニア、パラグアイ、フィリピン、セルビア、ベトナムの民間銀行 11 行、そしてアフリカの地域銀行 1 行を対象に、総額 13 億ドルの投資契約を結びました。

#### IFC アフリカ・ラテンアメリカ・カリブ海ファンド

2010 年に立ち上げられた IFC の 10 億ドルの「アフリカ・ラテンアメリカ・カリブ海ファンド (ALAC)」は、IFC、オランダの年金基金運用機関 PGGM、韓国投資公社、アゼルバイジャン共和国国家石油基金、

IFC のエクイティ投資の平均内部収益率は年間

20%

を超えています。

AMC の 2012 年度末の運用資産は

45 億ドル

に上ります。

国連職員合同年金基金、アブダビ投資庁、サウジ政府基金から資金拠出のコミットメントを取り付けています。このファンドは、IFC と共同で、サブサハラ・アフリカ、ラテンアメリカ・カリブ海地域の様々なセクターで株式投資を行います。設立から 2012 年度末にいたるまで、合計 3 億 6,100 万ドルの投資契約を結びました。

#### アフリカ資本増強ファンド

「アフリカ資本増強ファンド」は、北アフリカおよびサブサハラ・アフリカでシステム上重要とみなされる商業銀行に投資するために 2011 年度に設立されました。このファンドには、アフリカ開発銀行、欧州投資銀行、OPEC 国際開発基金、アブダビ開発基金、三井住友銀行、英連邦開発公社などが投資を行っています。2012 年度末現在、ガーナとマラウィを対象に合計 1,150 万ドルの投資契約 2 件を結んでいます。

#### IFC ロシア銀行資本増強ファンド

総額 2 億 7,500 万ドルの「IFC ロシア銀行資本増強ファンド」は、ロシアでの認可商業銀行、銀行持株会社、その他銀行に関連した投資手段（いずれも民間所有であるか、あるいは民営化が予定された国営企業）に投資するために 2012 年 6 月に設立されました。現在、IFC、ロシア財務省、そして同国の Vnesheconombank から拠出コミットメントを取り付けています。



## 産業に関する専門知識

持続可能な民間セクター開発における IFC の主導的な役割には一つの大きな利点が存在します。それは、新興市場の企業の成功と成長への支援で 50 余年にわたり蓄積されてきた深遠で幅広い知識が反映されていることです。

IFC は、気候変動や失業、食糧と水の安全保障など、今後の重大な開発課題に取り組むにあたり、グローバルな産業知識を活かすことに乗り出しました。

### アグリビジネス・林業

アグリビジネスは貧困削減に重要な役割を果たします。農業セクターは、多数の途上国で GDP と雇用の半分を占めることがよくあります。アグリビジネスが IFC の戦略的優先課題であるのはまさにそのためです。

IFC は、環境面で持続可能であり社会的には貧困層に配慮した形で、民間セクターが食糧の需要増大と価格高騰に取り組めるよう支援を行っています。また、農産品の持続可能な生産というグローバル・イニシアティブもサポートしています。農家が在庫、種子、肥料、農薬、燃料の購入資金を借り入れられるよう、顧客に運転資金のファシリティも提供しています。貿易振興とコスト削減を促進するため倉庫や冷蔵施設といったインフラ向け投融資も行っています。さらに、持続的に作物を栽培できる土地とするため、技術移転や最善な資源利用を通して、生産性の向上も助けています。

IFC は業界のベストプラクティスに沿い、責任ある生産の基準（ベンチマーク）を設定する上でも企業を支援します。2012 年度のアグリビジネス・林業向け新規投融資契約は 10 億ドルをやや上回り、IFC の自己勘定による投融資契約の約 7% を占めました。

### 金融市場

健全な金融市場は、資源の効率的配分、雇用創出、経済成長促進を可能にするため、開発には不可欠な存在です。

近年の世界経済危機により、金融市場では、IFC の重要性が浮き彫りになりました。世界の雇用の半数以上を担う中小企業はクレジットラインの減額や解消に直面し、投資家は資本市場から遠のきました。そこで、IFC はその対応に乗り出しました。

IFC の主眼は中小企業、マイクロファイナンス、貿易、気候変動などにおかれています。マイクロファイナンスへの投融資では主導的な存在です。貧しい人々を助け、重要な開発課題に取り組むため、革新的な商品も開拓しています。また、世界金融危機に伴い、住宅金融方面の投融資の建て直しと資本市場の育成も進めています。2012 年度の金融市場向け投融資契約の合計は約 34 億ドルで、IFC の自己勘定による投融資契約の約 22% を占めました。

### 消費者・社会サービス

民間ヘルスケアと教育は人材育成と経済発展の基礎となります。ヘルスケアは生活の向上に重要な役割を担うほか、教育は貧困削減と人的資本の構築の強力な手段となります。

IFC はこれらのセクターへの投融資では世界最大の国際機関となっています。その際、観光、小売業、不動産など雇用を生み出すセクターの強化を助ける傍ら、質の高いヘルスケアと教育へのアクセス拡大にも努めています。また、質と効率の基準向上、ベストプラクティスの情報交換促進、経験豊富な技術者のための雇用創出も支援しています。IFC の重点課題は、顧客企業による開発成果の拡大を助けることです。

IFC の役割には、社会的責任を全うする企業への直接的投融資に加え、産業知識の共有、小企業への資金供与、医療・教育水準の向上、顧客による低所得層向けサービスの拡充などが含まれます。2012 年度の消費者・社会サービス向け新規投融資契約は約 14 億ドルに達し、IFC の自己勘定による投融資契約のほぼ 9% を占めました。

## インフラストラクチャー

近代的なインフラは、経済発展を促し、生活水準を高めるほか、急激な都市化や気候変動など、現在台頭しつつある開発課題に取り組む上で重要な役割を果たすことができます。

インフラはまた、民間セクターが大きく貢献できる領域でもあり、多数の利用者に基本的サービスを効率的かつ経済的に、しかも採算をとりながら提供することができます。IFCの主眼は、民間のインフラ・プロジェクトを支援することです。そのビジネスモデルは、斬新で、強い影響力をもつ上、幅広い普及が可能です。

IFCは、インフラ向けプロジェクトに投融資を行ったり、政府に官民パートナーシップに関する助言を行うことで、電力、輸送、水へのアクセス拡充に役立っています。また、困難な市場で斬新なプロジェクトや官民パートナーシップを立案することにより、付加価値も提供しています。さらに、リスクの緩和や、特殊な金融の組成といった能力の活用も行っています。2012年度のインフラ向け新規投融資契約は約14億ドルで、IFCの自己勘定による投融資契約の約9%を占めました。

## 製造

製造セクターは途上国での雇用創出と貧困削減に不可欠な役割を果たします。このセクターの顧客は、他のセクターより多くの雇用を生み、確保できる傾向にあります。

IFCはこのセクターでの活動を広げています。これには、建設資材、省エネ型機器、薬品、太陽光・風力発電が含まれます。また、新製品や新市場を開拓する企業や、国際的競争力をつけるためにリストラや近代化を進める企業に投融資を行います。

IFCは、国内市場の有力企業であるか、そうなる可能性を秘めた製造セクターの顧客に照準を絞っています。中所得国では、現地の二番手の企業やクロスボーダー型投融資への支援を増やしています。この産業には、炭素排出量が最も多い部門が含まれているため、排出量とエネルギー消費量の削減に役立つ投融資を策定し実施する面でも顧客を助けています。

2012年度の製造セクター向け新規投融資契約は10億ドルをやや上回り、IFCの自己勘定による投融資契約のほぼ7%を占めました。

## 石油・ガス・鉱業

世界の多くの最貧国にとって自然資源採取産業は不可欠な存在です。この産業は、雇用、エネルギー、政府歳入、さらに地元経済に様々な利益をもたらす重要な源泉となっています。特にアフリカでは、この産業に持続可能で大規模な投資を行えば、それに等しい規模の経済発展が可能になります。

石油・ガス・鉱業・化学セクターでのIFCの使命は、この発展を途上国で実現するための助力となることです。IFCは民間セクターの顧客に投融資と助言を提供しますが、政府に対しても、効果的な規制導入や、バリューチェーン全体でこの産業を管理するための能力強化についての支援を行っています。

IFCは、この産業への民間投資を助けたり、地元コミュニティが身のある恩恵を享受できるよう尽力しています。また、現地の小企業の育成、プロジェクトの長期的な開発利益を高めるためのコミュニティとの関わり、腐敗と闘うための透明性とガバナンス促進の面でも貢献しています。2012年度の同セクター向け新規投融資契約は4億9,100万ドルで、IFCの自己勘定による投融資契約の約3%を占めました。

## 通信・情報技術

近代的な情報・通信技術の発達により、貧しい人々もサービスやリソースに容易にアクセスできるようになりました。こうした技術は機会を拡大し、市場や機構を一段と効率化します。

IFCは、持続可能な経済発展、優れたガバナンス、貧困層を配慮した社会作り、貧困削減の促進のために、これらの技術の利用度を高めようとしています。それに伴い、近代的な通信インフラの構築、情報技術ビジネスの設立、温暖化防止技術の開発に力を入れる民間企業に資金を投入します。

IFCはまた、国境を越え他の途上国に進出する顧客への支援を一段と増しています。2012年度における同セクターでの新規投融資契約は約2億4,700万ドルでした。

## 基準の設定

### IFCのパフォーマンス基準

自然資源への需要増大。人口増加。貧富の差。気候変動。これらはどれも、民間セクターを交えた長期的かつ戦略的な対応が必要となる課題の一例です。

IFCは、急速に変化する世界で、成長とイノベーションの機会を見出そうとする企業を助ける傍ら、持続可能な形でビジネスを進めれば、プラスの開発効果をもたらすと確信しています。IFCのパフォーマンス基準は、顧客が持続可能な方法でプロジェクトを実施するうえでの役割と責任を定義したものです。

この基準は、企業がリスクと潜在的な効果を見極めるときに役に立ちます。さらに、ビジネス、投資家、環境、コミュニティのためになる良好な解決策を見出す際の助けとなります。これには、省エネによるコストの削減、環境と社会にとって健全な商品・サービスを通じた収益と市場シェアの向上、積極的な関わりを通じたステークホルダー同士の関係改善などが含まれます。

これらの基準は、安全な労働環境、清潔な水、コミュニティへの効果的な関与などを通して、途上国の人々の暮らしに貢献します。

IFCのポートフォリオを見ると、適切な環境・社会パフォーマンスと長期的な財務パフォーマンスとの間には相関関係が成り立つことが分かります。IFCの顧客もこれに同意し、この基準の利益を確認しています。最近の調査によると、IFCの環境・社会規定が長期的にビジネスのために役立ったと答えた顧客が93%に上りました。

IFCのパフォーマンス基準は、2006年に実施されて以来、民間セクターにおける環境・社会リスク管理の主要ベンチマークとして全世界で認められるようになりました。

加えて、欧州の15の開発金融機関と、経済協力開発機構(OECD)加盟国での32の輸出信用機関が、業務の推進においてIFCパフォーマンス基準を参照しています。バングラデシュ、カナダ、中国、ベトナムなどの政府は、金融業と資源採取産業を中心に、企業が持続可能な運営

へと移行する際の指針としてIFCの基準を活用しています。

IFCの8つのパフォーマンス基準は、IFCの「持続可能性枠組み」(36ページ参照)の一部となっています。この枠組みは、18カ月間にわたる協議プロセスを

経て改訂されました。この改訂版は2012年1月1日付で発効しました。これに関する詳細はウェブサイトをご覧ください(<http://www.ifc.org/performancestandards>)。

## IFCのパフォーマンス基準

1

環境・社会リスクとその影響の評価および管理

2

労働および労働条件

3

資源の効率および汚染防止

4

地域社会の保健衛生・医療および安全の確保

5

土地の取得と非自発的な再移住

6

生物多様性保全ならびに生物自然資源の持続可能な管理

7

先住民

8

文化遺産



## 持続可能な農業

企業が土地や水などの自然資源をどのように利用して、人口増加に見合うだけの雇用や食料を提供していくかは、未来の世代に甚大な影響を与える可能性があります。

IFC は顧客やパートナー機関と協力して持続可能な農業の促進に努めています。持続可能な生産に関する世界的なコンセンサスの構築、各種の製品の生産・加工・販売に適用する基準の向上は IFC の支援の一例です。

2004 年に設立された「持続可能なパーム油のための円卓会議」といった農産品に関する会議もサポートしています。2009 年 11 月には、インドネシアのパーム油生産者協会、Unilever、HSBC、世界自然保護基金 (WWF)、Oxfam などとの協働作業が実って、初の持続可能なパーム油の認証が可能になりました。それ以来、世界の供給量の約 11% に当たる 570 万トン以上のパーム油が認証を受けました。

IFC の環境・社会基準は、企業が責任をもって生産に携わりながら業績の改善に努める際に役に立ちます。例えば、エチオピアでは、コーヒーの栽培に当たる多数の農家がコーヒー豆の品質と生産量を改善して所得向上を図ることができるよう、非政府組織である TechnoServe と協働しました。

IFC の助けにより、エチオピアのコーヒー組合は水消費量を削減し、排水管理を改善しました。TechnoServe の支援を受けた 49 カ所のコーヒー組合は、全てが持続可能なコーヒーの認証を受け、Starbucks への納入が可能になりました。高い持続可能性基準を追求したおかげで、これらの組合は、新市場にアクセスでき、高価格でコーヒーを納入できるようになったのです。

IFC はまた、労働条件、安全性、生物多様性といった課題に関連したサプライチェーンの強化でも顧客と協働しています。これに伴い、150 種の産品を対象に、環境・社会面の国別リスクを示す世界地図を作成しています。

## コーポレート・ガバナンス

IFC の顧客や途上国の民間セクター全体でコーポレート・ガバナンスを改善させることは、IFC の優先課題です。

取締役の行動改善、株主の権利強化、リスク管理と情報開示の促進をめぐるベストプラクティスに関しては助言を提供しています。また、規制当局や証券取引所など、コーポレート・ガバナンスの改善に関心のある主体にも助言を行っています。特にアフリカ、ラテンアメリカ、南アジアなど支援が行き届いていない地域では、コーポレート・ガバナンス・プログラムの拡充を図っています。

IFC は、その豊かな経験により、途上国の民間セクターの現実に沿った形で国際的な原則を適用することができます。その結果、新興市場で業務を展開する開発銀行や他の投資家は今や、コーポレート・ガバナンスについての指導を IFC に求めるようになりました。

そのための対応法は様々です。リスクと機会を評価するシステム「IFC コーポレート・ガバナンス方法論」を通じた対応もその一例です。この種のシステムとしては開発金融機関中で最も進んだものといわれる、この方法は現在、困難な市場で業務を進める 29 の開発金融機関によって実施されており、コーポレート・ガバナンスに対する共通の対応の基盤となっています。

IFC はまた、マルチドナー型信託基金ファシリティ「グローバル・コーポレート・ガバナンス・フォーラム」と途上国の地域プロジェクトを通して、政策・規制担当者、主な企業経営者組織、ビジネス・メディアなどにコーポレート・ガバナンスの課題を普及する支援も行っています。そのほか、顧客のニーズに対応できるコーポレート・ガバナンスのツールや商品の開発も進めています。

## エクエーター原則

世界の金融機関 77 社によって導入されている環境・社会リスク管理の枠組み「エクエーター原則（赤道原則）」は、IFC の基準に基づくものです。



## IFC の職員と業務の進め方

途上世界で最も脆弱な立場にある人々の貧困を緩和し、機会を創出するという IFC のコミットメントは、組織の風土にも反映されています。

IFC が経験から教訓を学び、新たな課題に挑戦してきたことは過去の経歴が示しています。IFC の職員は、かつてなく開発成果の最大化という課題への取組みに適した立場にあります。職員の半数以上は顧客や地域社会に近い途上国の現地事務所で活動しています。さらに、職員の 3 分の 2 近くは途上国の出身者であり、文化的な背景もこれまでになく多様です。

## THE IFC WAY



健全な組織風土は、どの組織においても、成功し困難な新情勢に適応する能力育成の機軸となります。「The IFC Way」は、IFC の組織風土とブランド名の在り方を述べ、定義し、堅固なものとする方法であり、運営上の意思決定を伝える際に、全地域のあらゆるレベルの職員と積極的に関わるプロセスを指します。それには、IFC のビジョン、中心となる企業価値、目的、業務の推進方法が含まれます。

### IFC のビジョン

貧しい人々にも貧困から脱出し生活の向上を図るチャンスがあるべきです。

### IFC の価値観

優秀さ、コミットメント、倫理観、チームワーク

### IFC の目的

人々が貧困から脱却し生活向上を図るためのチャンスが与えられるよう、以下を通して貧困層を配慮した持続可能な成長を達成する手段を促すための触媒となります。

- 民間企業の発展を目的に他の資金を動員する。
- 競争的で開かれた市場を途上国で促進する。
- 不足が発生した時に企業や民間セクターのパートナーを支援する。
- 貧しい人々と脆弱な立場にある人々に生産性の高い雇用と基本的サービスを提供するための支援を行う。

この目的を達成するため、IFC は、企業への介入（直接投資、アドバイザリー・サービス、IFC アセット・マネージメント社）、世界的な集合的アクションの促進、ガバナンス強化と基準設定、事業環境整備業務を通じて、開発成果を高める解決策を提供します。

### 業務の推進方法

- 変化の激しい世界で顧客の成長を支援する。
- 良い事業は持続可能であり、持続可能性の確保は良い事業である。
- IFC は単一の組織であり、チームであり、その目標も一つである。
- 多様性は価値を作り出す。
- 機会創出にはパートナーシップを結ぶ必要がある。
- 世界的知識、現地のノウハウ。
- 革新性は危険を踏む価値がある。
- 経験から教訓を学ぶ。
- 業務は賢明に楽しく進める。
- 遠過ぎるフロンティア、難し過ぎるフロンティアなどは存在しない。

**exciteD**  
Excellence Commitment Integrity Teamwork Diversity

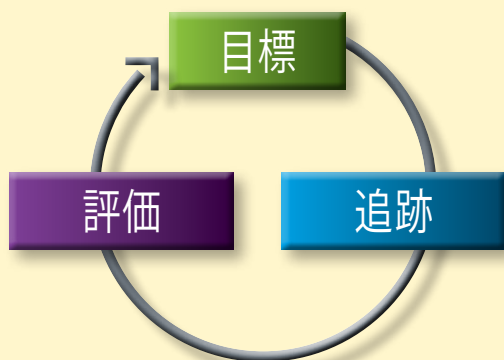


## 開発成果の測定方法

IFC の業務の結果を測定することは、その戦略が効を奏しているかどうか、そして援助を最も必要としている人々や市場に届いているかどうかを理解する上で極めて重要です。

IFC の結果測定システムは、その戦略と業務上の意思決定に方向性を与えることに役立ちます。これには、IFC の開発目標、開発結果の測定のための追跡システム、そして活動の結果および成果の評価システムという相互に補完する 3 つの要素があります。開発結果の測定のほかに、プロジェクトに与える独自の優位性と利点、すなわち IFC の「付加性」も追跡しています。

このような意識的かつ組織的なアプローチを用いることで、プロジェクト・サイクルの全体を通じた進捗状況の追跡が可能になる上、今後の目標設定とプロジェクトの設計を向上するために、そこから学んだ教訓を業務に取り入れることができます。このアプローチはまた、IFC の取り組み方を以前にも増して結果を重視するものとし、ステークホルダーへの透明性と説明責任を高めるためにも極めて重要となります。



### IFC の開発目標

IFC の開発目標 (IDG) は、IFC が署名または調印したプロジェクトの実施期間中に、支援を浸透させたり、アクセスを拡大したり、他の期待される具体的な開発結果を達成するための目標を指します。

これらの目標の中には試験段階のものもありますが、どれも戦略的な管理ツールとしてしだいに利用されつつあります。例えば、今年、2013～15 年度の戦略を策定する際、各局は単に投融資の契約高とか助言業務の目標を設定したのではなく、IDG の目標についても検討しました。

この目標はまた、職員同士が各自の部局やアドバイザー業務分野を超えて協力する励みとなり、IFC の開発成果を一段と高める横断型でプログラム・ベースのアプローチをとる上でも有効であることも分かりました。

IFC の開発目標はプロジェクト全体を包括しようとするものではありません。しかし、これが戦略的な管理ツールとして有用であるためには大部分の業務が含まれている必要があることも否めません。そのため、IFC は大半の活動を包括することを目指しています。IDG が随時、約束通りの結果を出したかどうかを確認する際

は、IFC の追跡および評価システムが利用されます。

昨年 9 月に開催されたアウトリーチ・イベントでは、この目標についての建設的なフィードバックを外部のステークホルダーから受け取りました。彼らの推薦に基づき、目標と指標にいくつかの修正を加えました。また 2 年間の試験中に学んだ教訓を反映させた変更も行いました。さらに目標をあまり複雑にせずに、投資環境の整備など IFC の他の優先分野をいかに取り入れるかという課題については、検討が続いています。

一方、この目標が設定されたために、浸透範囲の広い大型プロジェクトの方が、より困難な事業環境をもつ小国のプロジェクトより偏重されるのではないかと懸念に対処するため、小国や貧困国のプロジェクトに適切な加重値を適用するといった方策が現在テストされています。

さらに、顧客が達成した成果のうち、どの程度が IFC の業務に帰属するかを捉えるため、貢献度のルールが、IFC 開発目標の試験的实施と並行して、各局のスコアカードの中でモニターされています。これらのルールの一部は、IFC の投融資の相対的規模と、融資か出資かといった具体的な資金タイプに基づいています。

IFC は、保健衛生・医療・教育と金融サービスという 2 つの IDG 目標を 2013 年度に試験期間から本格的実施へと移行させました。加えて、経済成長についての具体的な IDG 目標も現在策定しています。その他の IDG は 2014 年度に実施される予定です。

## IFC の開発目標

### 1: アグリビジネス

持続可能な農業のための機会の増加または向上

### 2: 保健衛生・医療・教育

ヘルスサービスと教育サービスの向上

### 3: 金融サービス

個人、零細企業、中小企業の顧客による金融サービスへのアクセス向上

### 4: インフラストラクチャー

インフラサービスの増加または向上

### 5: 経済成長

IFC の顧客が自国経済にもたらす付加価値の向上

### 6: 気候変動

温室効果ガスの排出量の削減

## 結果のモニタリングと追跡

IFC は、投融資とアドバイザリー・サービスの開発結果をモニターするために「開発結果追跡調査システム (DOTS)」を使用しています。民間セクター開発を重視する国際金融機関の間では、DOTS は、開発結果の測定を行う代表的システムとなっています。

投融資サービスでは、特定の例外を除き、監督下の企業 1,535 社が追跡されています。本報告書では、2003 ～ 2008 年までに承認された、より最近で重要性の高い円熟期にある投融資およそ 720 件のうち 668 件に的が絞られました。2012 年度の評価には、顧客の 2011 年のデータと実績が反映されています。投融資の対象期間は毎年、1 年ずつシフトされます。また、IFC のポートフォリオにある実施中の投融資全体が、現在どのような形で浸透したか（開発成果の広がり）についても掲載しています。この広がりを出す指標は、IFC の投融資の規模を問わず、その顧客の支援が何人の人々に浸透したか、あるいは、特定のステークホルダーにどれほどの経済的利益をもたらしたかを測定するものです。

DOTS の追跡対象とならないプロジェクトには通常、既存プロジェクトの拡張版、分割されたプログラム、さらに売買権取引のような特定の金融商品が含まれます。

IFC は、ポートフォリオ全体の開発結果を報告し、その審査を外部企業に実施させた初の多国間開発銀行です。今年は、DOTS の枠組みを「グローバル・トレード・ファイナンス・プログラム」にも適用したことに伴い、IFC は、貿易金融の開発結果を、単にプログラム・レベルで

はなく、プロジェクト・レベルで測定し始めた最初の機関でもあります。

アドバイザリー・サービスでは、2006 年度までさかのぼり、完了済み、保留中、そして現在実施中のプロジェクトがすべて DOTS の対象となります。2012 年度の評価には、2011 年に完了報告書が提出された 166 件の審査結果に基づき、評価可能と判断された 133 件が対象となりました。また移動平均値は、2009 ～ 2011 年（暦年）の間に完了報告書が提出された 529 件の審査結果に基づき、評価可能と判断された 414 件に基づきました。開発効果の評価が不可能だったプロジェクトは、顧客以外の実施プロジェクトであったか、審査日までに開発の成果と結果を得られなかったものでした。

## 結果の評価

評価から学んだ教訓をプロジェクトや戦略に活かして、IFC の投融資とアドバイザリー・サービスの開発成果を一段と高めていくには、組織的に評価を進めることが不可欠となります。評価を行うと、成功や失敗の要因が明らかになるため、IFC の使命の達成の際に、もっとすべきことと避けるべきことを把握するのに役立ちます。

IFC の評価の対象はこれまで助言プロジェクトが中心でした。IFC は現在、学習の機会を最大限に追及することを目的に、投融資と助言プロジェクトの両方を網羅する新しい評価戦略を実施しています。この新戦略には主な目的が 4 つあります。(1) IFC の開発成果を信頼される形で明示する。(2) IFC の介入の効果を最大限に高める方法を学ぶ。(3) 顧客とパートナーに利用価値のあるビジネス情

## 結果の監視方法

DOTS は、プロジェクト・サイクルを通じて、リアルタイムで開発結果を追跡します。IFC の担当者は、プロジェクトの立ち上げの際に、適切な指標を定め、プロジェクトのベースラインと目標を設定します。監視期間中は終始、進捗状況を追跡します。そのため、プロジェクトの完了までフィードバックをリアルタイムで業務に反映させることができます。

本報告書には、IFC 全般、地域別、産業別、業務分野別で、高い評価（すなわち上位半分の評価）を受けたプロジェクトの割合（%）——DOTS スコア——が掲載されています。

投融資サービスでは、全体的な DOTS スコアは、4つのパフォーマンス領域（財務、経済、環境・社会パフォーマンス、および民間セクターによる幅広い開発成果）を総合したものです。また各パフォーマンスは、標準化された産業別指標に基づいて実際の結果を期待値と比較したものです。プロジェクトが高い評価を得るには、当該国の開発に貢献する必要があります。

アドバイザー・サービスにおける全体的な DOTS スコア、すなわち開発効果の評価は、全般的な戦略的重要性、効率、有効性（プロジェクトのアウトプット、成果、影響で測定）を総合したものです。当初に意図した結果は、プロジェクトの完了時に実際の結果と比較されます。中期的結果や長期的な成果などは、プロジェクトの完了時には不明である場合があり、そうした結果は完了後に検証することが可能です。

報を提供する。そして (4) 外部の活動家と知識の交換を図ることです。

特にこの新戦略は、IFC の業務が貧困削減に与えた効果の中でもモニタリングと追跡だけでは捉えることのできない効果を重視します。

IFC は 2005 年以来、業務全体の自己評価を正式に実施してきました。それ以来、評価作業に投じた費用は着実に増しています。この作業は、プロジェクト別、プログラム別、課題別のみならず、ドナー拠出型のファシリティ別、国別、地域別でも実施されています。

評価作業のほとんどは、IFC の評価担当者の監督の下で、外部の評価専門家の主導により、ベストプラクティスのアプローチに基づいて進められます。さらに評価の予定作成と実施は IFC の職員の協力の下で行われ、その結果は可能な限りプロジェクトやプログラムの初期段階で各々の設計の中に組み入れられます。

この新規の評価戦略は、独立評価グループ (IEG) の業務（30 ページ参照）を補完するものです。IFC の理事会に直属するこのグループは、それ自体でも評価を行い、経験から学んだ教訓を提供します。IEG の評価には、IFC 自身が行ったモニタリングや評価の結果も取り入れられています。IFC の評価担当者は、ワーク・プログラムの検討、知識の共有、そして可能な場合は業務の連携など、IEG と緊密に協働しています。

## 投融資の成果

IFC の投融資業務の開発成果は、主に世界金融危機や欧州の金融危機、中東・北アフリカでの情勢を受けて前年は評価が低下しましたが、2012 年度は基本的には安定したものでした。IFC 全体の開発成果のスコアは 68% で、IFC の長期的目標である 65% を引き続き上回りました。

地域別・セクター別の評価もほぼ順調に推移しました。IDA 適格国での評価は、主に中央アジアと中東・北アフリカで IDA プロジェクトが堅実な実績を上げたため、前年の 59% から本年度は 65% へと飛躍しました。IDA 諸国の事業環境は困難です。そのため IFC は助言業務を併用して投融資を行うことが多くあります。両者を組み合わせると、良好な開発成果を達成するチャンスが高まるという分析結果が出ています。

地域全体のスコアはわずかな変化しかみられませんでした。地域別の動きはまちまちでした。サブサハラ・アフリカと南アジアでは全域で金融市場の開発成果が向上しました。前者では、このセクターに一段と戦略的なプログラム型アプローチを用いたためといえます。製造面の評価は両方の地域で低下しました。南アジアの製造セクターは、インドでの景気後退の影響を受け、顧客の業績に打撃を与えました。

ヨーロッパ・中央アジアでは、中央アジアのプロジェクトのスコ



アが大幅に改善され 29 ポイントも増大し、IDA 適格国での成果を上げました。これは主に戦略的な重点課題に注力したためです。中東・北アフリカでも、主として製造、サービス、金融市場で良好な実績を上げたことで、評価が安定しました。しかし、この地域の政治的・経済的な不確実性により、特にエジプトとチュニジアでは、顧客の財務パフォーマンスに引き続き悪影響を及ぼしています。

東アジア・太平洋地域では、フィリピンの金融市場で新規プロジェクトの実績が伸びたことと、中国の製造、アグリビジネス、サービス分野で既存プロジェクトの実績が堅調だったことを受け、評価が向上しました。

ラテンアメリカ・カリブ海地域では、米国経済の回復に伴いメキシコで開発成果が改善されました。しかし、資源採掘産業と金融サービスでは、一部の初期段階にあるプロジェクトが独自の問題に直面したため、全体的なパフォーマンスがやや低下しました。

顧客は、引き続き支援の手を広げることで開発成果に大きく貢献しました。サブサハラ・アフリカでは、支援を受けた農民の数が 2011 年（暦年）に 50% 近く増え、IFC 全体の 20% にあたる 38 万人に達しました。ヨーロッパ・中央アジアでは、零細・中小企業向けの貸付が 110 万件から 260 万件に増大しました。さらにアジアでは、この貸付が 340 万件から 1,100 万件に飛躍しました。ラテンアメリカ・カリブ海地域では、水道の利用者数が前年より 37% 増加し 1,300 万人に達しました。また中東・北アフリカでは、IFC 全体の 20% にあたる 1,700 万件の電話が顧客により敷設されました。

セクター別の評価も基本的に安定して推移しました。一方、スコアの低下が最も激しかったのは、通信・メディア・テクノロジーと石油・ガス・鉱業の分野でした。

通信・メディア・テクノロジーのプロジェクトの評価は 8 ポイント低下し 56% となりました。また石油・ガス・鉱業のプロジェクトの評価は 14 ポイント落ち込み 69% となりました。

通信・メディア・テクノロジーのセクターでは、高リスクのベンチャーキャピタル型の IT（情報技術）投資が行われたことを反映し、東アジア・太平洋地域と南アジアでパフォーマンスが最も大きく低下しました。また、石油・ガス・鉱業セクターでは、サブサハラ・アフリカとラテンアメリカにおける新規プロジェクトが低迷した上、成功していたプロジェクトが評価の対象外となったため、パフォーマンスが落ち込みました。

しかし、これらのセクターでは、顧客が引き続き支援の手を広げています。石油・ガス・鉱業に携わる IFC 顧客は、前年比でほぼ 30% 増にあたる約 2,200 万人にガスを供給しました。これらの顧客は、他のセクターの顧客を上回る 60 億ドルもの税収を政府にもたらし、10 万人以上を雇用しました。

間接的に創出した仕事の数はさらに高い可能性があります。IFC が実施した数件の調査によると、サプライチェーンや流通ネットワークから生み出される間接的な仕事は、直接的な雇用の何倍にも及ぶことが多いという結果が出ています。また、ガーナの IFC 顧客が行った調査では、当該顧客が採掘業で 1 人を雇うと、経済全体で 28 人分の仕事が支援されたという結果が出ています。

金融市場とファンドでは、評価の対象となったポートフォリオ中の既存プロジェクトのパフォーマンスが向上したため、スコアが改善されました。これは、欧州危機を受け、少なくともヨーロッパで銀行の監督が強化されたためだともいえます。銀行の実績が伸びたことで、IFC 顧客が提供する中小企業向け貸付の件数が 2 倍以上に

## 雇用創出について知見の拡充

IFC では、民間セクターがいかにして仕事を生み出すかをより深く理解するために調査を実施しています。この調査結果は、IFC 戦略と民間セクター開発の立案のために利用されます。この結果はまた、世銀グループの報告書「世界開発報告 2013：仕事」にも伝えられます。

IFC には雇用の創出に関しある程度の知識がありますが、どの環境で何が最も効果を上げるのかという点では十分に分かっておりません。例えば、どのような活動（直接投資、サプライチェーンの強化、金融やインフラへのアクセス向上、投資環境の整備）が、仕事の創出に最大の効果を上げる可能性があるのか、そして異なる活動が、女性、若者、貧しい人々を含めた様々な社会グループにどう影響するのかといった点です。

この結果は 2012 年 12 月に発表される予定です。以下は当初の調査結果の一例です。

企業は雇用の創出にあたり主に 4 つの障害に直面します。

- **金融へのアクセス**：特に零細・中小企業にとって深刻です。
- **インフラへのアクセス**：ことに低所得国では安定した電力が不足しています。
- **投資環境**：複雑で費用のかかる法規により事業の設立と拡張が阻害されています。
- **教育とスキル**：労働者が十分な訓練を受けていないため雇用の妨げになっています。

IFC の顧客企業は間接的に重大な影響を及ぼす可能性があります、それを測定するのは困難です。

IFC の顧客は 2011 年に 250 万人を直接雇いました。

- しかし、間接的にも大きな影響を与える可能性があります。例えば、ガーナの IFC 顧客である金採掘企業では 1 人雇うたびに、幅広い経済で 28 人分の仕事が支援されたという結果が出ています。
- こうした間接的な恩恵は国と産業によってばらつきがあります。

この調査についての詳しい情報はウェブサイト ([www.ifc.org/jobcreation](http://www.ifc.org/jobcreation)) をご覧ください。

増え、430 万件に達しました。マイクロファイナンス・ローンの数も 80 億件から 200 億件以上に増大しました。

アグリビジネス・林業のプロジェクトは大半の地域で改善がみ

られました。製造セクターでは、主に東アジアのプロジェクトの貢献により、評価が向上しました。効果の広がりにおいては、製造、アグリビジネス、サービスの各セクターで、100 万人以上の雇用が

直接生み出され、その約 30% が女性でした。今年はまだ、前年比でほぼ 70% 増にあたる 1,200 万人の患者が顧客により支援されました。

## DOTS のパフォーマンス・カテゴリ：投融資サービス

パフォーマンス・カテゴリ	一般指標と基準	目標と対比するための具体的な指標例
財務パフォーマンス	出資者への見返り、例：平均調達コスト（加重後）以上の利益率	投資資本利益率、自己資本利益率、予定通り・予算通りに実施されたプロジェクト
経済パフォーマンス	社会への貢献：例：経済的リターン 10% 以上、加重後の平均資金コスト	投資資本収益率、基本的サービスの受益者数、小企業向けローン数、雇用者数、納税額
環境・社会パフォーマンス	プロジェクトが IFC のパフォーマンス基準を遵守	環境・社会面の管理向上、排出量または排気量、コミュニティ開発プログラム
民間セクター開発効果	プロジェクトの対象企業への影響を超えて、プロジェクトが民間セクター開発にどれほど貢献したか	デモンストレーション効果（他の企業が新しい方策、商品、またはサービスを見習った例）、他の民間企業へのリンク、コーポレート・ガバナンス改善

## DOTS のパフォーマンス・カテゴリ：アドバイザリー・サービス

パフォーマンス・カテゴリ	一般指標と基準	目標と対比するための具体的な指標例
戦略的重要性	地元、地方、国家経済に与える潜在的影響	国別戦略との整合性
効率	アドバイザリー業務の投資利益率	費用対利益率、予定通り・予算通りに実施されたプロジェクト
有効性	アウトプット、結果、成果。プロジェクトが顧客、受益者、さらに民間セクターの一般的向上に貢献	業務改善、実現した投融資、受益者の収益増大、政策改革によるコスト削減額

## アドバイザー・サービスの成果

IFC のアドバイザー・サービスの開発効果は、2011 年を含め 3 年連続で向上しました。2011 年にクローズされ開発効果の測定が可能なアドバイザー・サービス・プロジェクトのうち 72% が高い評価を受けました。これは、2010 ~ 2012 年度のパフォーマンスの移動平均値より 5 ポイントも飛躍したことになります。

業務分野全体を通じて評価が向上し、ヨーロッパ・中央アジア、サブサハラ・アフリカ、南アジアなど多数の地域で大幅な改善がみられました。一方、中東・北アフリカでは、主に政治的な混乱と経済危機を受け、評価が低下しました。IDA 適格国と紛争の影響下にある脆弱な状況では、3 年間の移動平均値と比較すると、前者は 68% から 74% に、後者は 73% から 77% へとそれぞれ向上しました。

こうした評価の背景には、IFC が触媒となり加速化に貢献した様々な市場の変革過程で、かつてない多数の人々がその恩恵を享受したことが挙げられます。IFC の「投資環境」の業務分野では、事業環境の向上や、投資の奨励・確保に向けた改革を実施して、競争力のある市場、成長、雇用創出を促進している政府を支援しています。これらのプロジェクトの多くは世銀グループの他の機関と協働で進められており、2011 年には

33 カ国で 56 件の改革（そのうち 33 件は IDA 適格国 20 カ国で、また 15 件は紛争の影響下にある脆弱な状況 9 カ所で実施）に支援を行いました。

「金融へのアクセス」の業務分野では、金融仲介機関との間で新たなビジネスモデルの設計や試行、リスク管理システムの強化を図るなどして、より多くの金融サービスを個人と零細・中小企業に安価に提供するための助力となりました。IFC のアドバイザー・サービスは投融资サービスと協力して、88 社の金融仲介機関を支援しました。その結果、これらの企業は、マイクロファイナンス・ローンと中小企業向けローンを 760 万件以上（そのうち IDA 適格国の占める割合は前年の 57% から 63% へと増大）、総額 319 億ドルを供与しました。また投融资と助言の共同業務により、住宅金融ローン 4 万件、合計 14 億ドルを提供した顧客 8 社もサポートしました。

「官民パートナーシップ」の業務分野では、インフラなどの基本的サービスで官民パートナーシップを策定し実施している政府を助けました。2011 年には、顧客が民間事業者（そのうち 60% は IDA 適格国の業者）との間で 5 件の委託契約を結ぶ際の支援を行いました。これにより、民間投資家から 50 億ドル近くの資金を動員し、1,600 万人以上の人々がインフラと医療サービスにアクセスできるようになると見込まれています。

「持続可能なビジネス」の業務分野では、環境・社会・ガバナンスについての慣行や競走上優位に立つための技術を導入しようとする企業と協力しています。2011 年には、農民、起業家、中小企業の幹部を含め 24 万 5,000 人余り（そのうち 77% は IDA 適格国の人々）を対象にキャパシティ・ビルディングを行いました。

## アドバイザー・サービスを通じた世界食糧危機への対応

IFC の世界食糧危機への対応ではアドバイザー・サービスが重要な一部となっています。その効果を高めるため、IFC は 4 つの業務部門全体からの支援を求めています。アグリビジネスと食品加工セクター、さらにそのバリューチェーン全体で、顧客や政府に直接援助を行ったり、中間業者（例えば、貿易業者や金融機関）を通じて間接的に支援しています。2011 年の主な例は以下の通りです。

- 「投資環境」の業務分野では、アルメニアで規制改革を支援し、それまでは企業の製造工程に国際食品安全基準の導入が規制されていたソ連時代の基準を排除しました。この改善により、地元で生産された農産品の競争力が高まり、国内の食糧安全保障が向上しました。モルドバとウクライナでも同様の改革を支援しました。この業務分野では現在、「アフリカ・アグリビジネス戦略」を策定しており、他の地域でも同じような戦略上の演習が展開されるでしょう。

- 「金融へのアクセス」の業務分野では、標準化された農業保険商品 9 件を開拓し、ウクライナの市場で導入する際の手助けを行いました。これにより、2,500 件以上の農業保険契約が結ばれ（想定価値約 8 億ドル）、農民は運転資金の借入の際に担保条件を満たすことが可能になり、金融へのアクセスが容易になりました。

- 「官民パートナーシップ」の業務分野では、インドのパンジャブ州政府が、貧困ライン以下の生活を送る人々の食料となる麦を貯蔵するため、容量 5 万トンの倉庫を民間企業に建設、所有、運営させる官民パートナーシップの策定と立ち上げを支援しました。これらの貯蔵施設により、インドの最貧層の人々 50 万人が毎年、栄養を改善できるものと期待されています。このプロジェクトが成功したおかげで、インドや他の地域で一段と大規模な実施が可能になる見込みです。

- 「持続可能なビジネス」の業務分野では、インドの北部にある精糖所で、農業研究員と農民を対象に、集中的な訓練とキャパシティ・ビルディングを行うことで、この顧客のサプライチェーンを強化するのに役立ちました。これに伴い、2,000 人余りの農民が新たな農耕慣行に関する訓練を受けました。その結果、平均収量は、2 年目に基準レベルの 70% 以上も増大しました。現在、この精糖所ではさらに多くの農民を訓練するため規模の拡充を進めています。一方、IFC は、生産性、節水などについて他の精糖会社に働きかけています。



## IFC の開発目標

目標	2012 年度 の IDG 目標値	2012 年度 の IDG 達成値	目標値 に対する 割合 (%)
高持続可能な農業の ための機会の 増加または向上	恩恵を受ける人： 36 万 5,000 人	103 万人	283%
ヘルスサービスと教育 サービスの向上	恩恵を受ける人： 168 万人	932 万人	555%
個人とマイクロファイ ナンス顧客による金融 サービスへのアクセス向上	恩恵を受ける人： 1,585 万人	3,284 万人	207%
中小企業顧客による金融 サービスへのアクセス向上	恩恵を受ける人： 117 万人	154 万人	132%
インフラサービスの 増加または向上	恩恵を受ける人： 1,925 万人	3,281 万人	170%
温室効果ガスの 排出量削減	二酸化炭素換算値 で年間 170 万トン削減	179 万トン	105%

注：本表の「IDG 達成値」のデータには、投融資と助言の両業務が反映されており、IFC 顧客の達成値に対する IFC の貢献度については特定のルールを用いて算出（18 ページ参照）。温室効果ガス排出量に関する IDG は、南アジア、東欧・中央アジアの両地域で試験的に実施されたもので、ここでのデータは両地域だけを指す。

## IFC 顧客が達成した開発効果の広がり

	2010 年暦年 ポートフォリオ	2011 年暦年 ポートフォリオ	2012 年度 新規事業
<b>投融資：</b>			
雇用数（百万人） <sup>1</sup>	2.4	2.5	0.2
<b>マイクロファイナンス・ローン<sup>2</sup></b>			
件数（百万件）	8.0	19.7	10.5
金額（十億ドル）	12.62	19.84	10.63
<b>中小企業（SME）向けローン<sup>2</sup></b>			
件数（百万件）	1.7	3.3	0.9
金額（十億ドル）	127.82	181.25	29.60
<b>サービス利用者数</b>			
電気（百万）	41.9	41.9	4.7
送電（百万） <sup>3</sup>	49.4	49.2	0.9
給水（百万）	20.1	34.3	6.4
ガス（百万） <sup>4</sup>	17.2	22.4	NA
電話回線架設（百万）	179.7	172.2	1.4
患者数（百万）	7.5	12.2	11.1
生徒・学生数（百万）	1.0	0.9	1.2
農家数（百万）	2.5	3.3	1.1
<b>サプライヤーと政府への支払い</b>			
財・サービスの現地購入（十億ドル）	39.51	49.84	4.18
政府収入（節約）への貢献（十億ドル）	20.28	21.73	5.71

2010 年と 2011 年（共に暦年）のデータは、それぞれ異なるポートフォリオに基づくため、厳密な対比は不可能。2012 年度の新規事業の値は、目標値からベースライン値を差し引いた増分を指す。IDG の数値とは異なり、IFC の貢献度に関するルールは未適用。

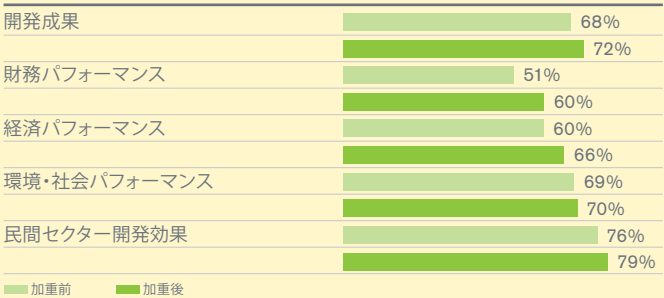
<sup>1</sup> 雇用数に関するデータには、ファンドによってもたらされた雇用数を含む。一方、新規事業の数値には、ファンドによって追加されると見込まれる雇用数を含む。

<sup>2</sup> IFC アドバイザリー・サービスからの貢献が反映されている場合が多い。この広がりデータは、IFC 顧客（零細・中小企業に的を絞る金融機関／プロジェクト）の 2010 年末と 2011 年末（共に暦年）における中小企業向けローン残高とマイクロファイナンス・ローン残高を示す。中小企業向けポートフォリオとマイクロファイナンス・ポートフォリオの年末報告が義務付けられた顧客数は、2010 年と 2011 年（共に暦年）にそれぞれ 222 社と 268 社だった。そのうち、2010 年と 2011 年（共に暦年）に報告を行った顧客数はそれぞれ 195 社と 252 社だった。欠測データは補外。

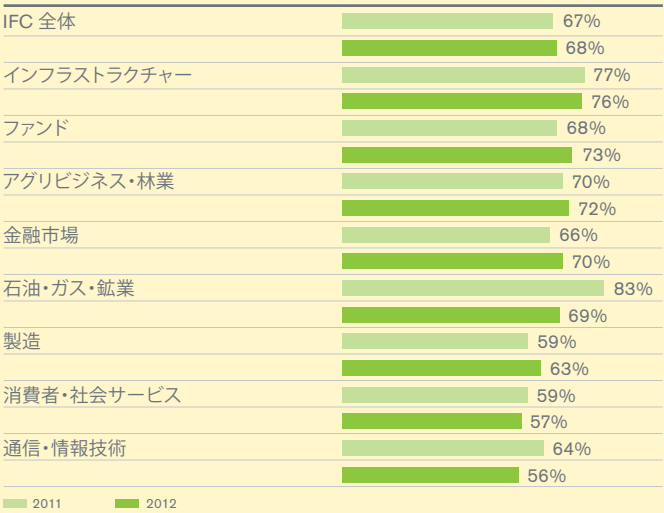
<sup>3</sup> IFC は、2012 年度に、このセクターにおける個人住宅への送電数をより正確に把握するため推定方法の調整を行った。

<sup>4</sup> 東アジア・太平洋地域のある顧客が 2011 年（暦年）に供給したガス利用者数は 2,040 万に達した。

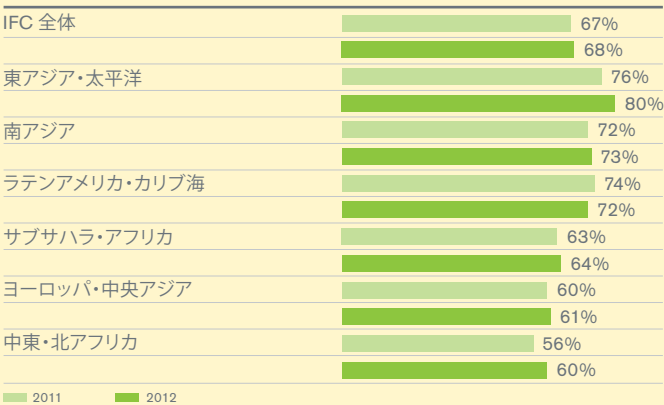
2012 年度の投融資サービスのパフォーマンス  
分野別 DOTS スコア 高い評価を受けた割合 (%)



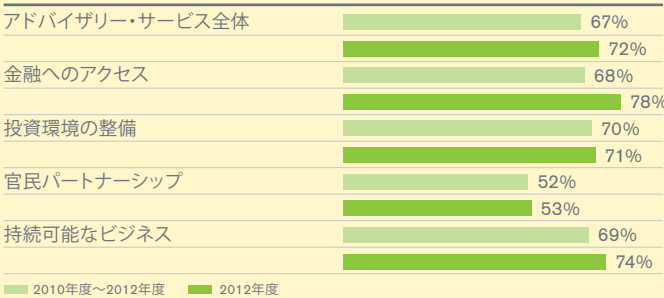
投融資サービスの産業別 DOTS スコア：  
2011 年度 VS. 2012 年度 高い評価を受けた割合 (%)



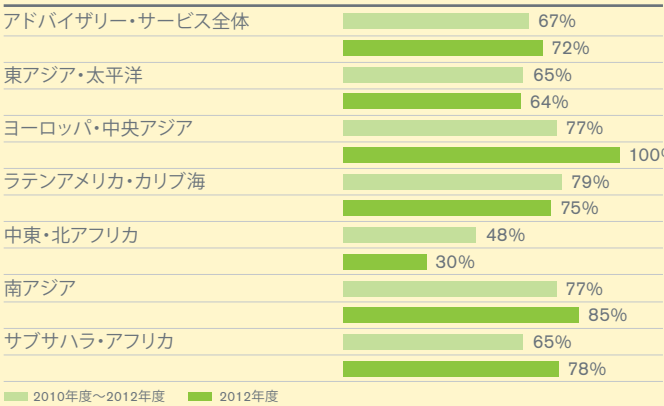
投融資サービスの地域別 DOTS スコア：  
2011 年度 VS. 2012 年度 高い評価を受けた割合 (%)



アドバイザリー・サービスの業務分野別  
DOTS スコア 高い評価を受けた割合 (%)



アドバイザリー・サービスの地域別 DOTS スコア  
高い評価を受けた割合 (%)



## 職員

IFC の職員は多様な背景をもっています。彼らは IFC にとって最も重要な資産です。IFC の職員の出身国は 140 カ国以上に及び、現地の顧客に革新的な解決策と国際的なベストプラクティスを提供しています。

IFC は、95 カ国に広がる 104 カ所の事務所で業務を展開しています。IFC 内の権限委譲に対するコミットメントを反映して、職員の半数以上 (56%) は現地事務所で活動しており、その割合は増え続けています。また職員の大半は途上国出身者 (65%) です。この多様な背景があるからこそ、IFC の視野を広げ、民間セクターの開発が最大の効果を上げる分野に力を注ぐことができるのです。

### 勤務地

拠点	2004 年度	2012 年度
ワシントン		
DC 本部	1,291 (57%)	1,670 (44%)
現地事務所	963 (43%)	2,093 (56%)
合計	2,254	3,763

### 出身国 (常勤職員)

出身国	2004 年度	2012 年度
先進国	963 (43%)	1,327 (35%)
途上国	1,291 (57%)	2,436 (65%)
合計	2,254	3,763

### 出身国 (上級職以上)

出身国	2004 年度	2012 年度
先進国	647 (53%)	1,040 (43%)
途上国	584 (47%)	1,381 (57%)
合計	1,231	2,421

### 男女比 (常勤職員)

性別	2004 年度	2012 年度
男性	1,121 (50%)	1,781 (47%)
女性	1,133 (50%)	1,982 (53%)
合計	2,254	3,763

### 男女比 (上級職以上)

性別	2004 年度	2012 年度
男性	844 (69%)	1,426 (59%)
女性	387 (31%)	995 (41%)
合計	1,231	2,421

IFC は 95 カ国に広がる

104 カ所

の事務所で業務を展開しています。

その職員の

65%

は途上国の出身者で、

56%

は現地事務所を拠点としています。



## 報酬

IFC の報酬に関する指針は、世銀グループの枠組みの一部となっています。様々な国で有能な職員を惹きつけ、堅持していくには、報酬が国際的に競合できるものでなければなりません。ワシントン DC の本部で採用される世銀グループ職員の給与体系は、国際的競争性で実績のある米国市場を参照にして決められます。また、米国以外の国々で採用される職員の給与は、現地の独立市場調査の結果に従い、当地の競争性に基づいて決定されます。さらに、世銀グループに与えられた多国間機関という地位により、職員の給与は税引き後の金額を基準にして決定されます。

## 変動型賞与プログラム

IFC の変動型賞与プログラムは、功績の認識や、各年および長期のパフォーマンスに関する各種の賞など、ハイパフォーマンスを重んずる IFC の風土を支える複数の要素で構成されています。これらの賞は、チームワークを奨励し、優れたパフォーマンスに報い、IFC の戦略的優先課題を支援することを目的としています。

## 福利厚生プログラム

IFC は、医療保険や年金プランなど、他の組織にひけをとらない福利厚生プログラムを提供しています。ワシントン本部の職員には、公開調達プロセスを通じて

契約した保険会社 Aetna 社の健康保険を、また、他の職員には、国際的な医療保険会社 Vanbreda の保険を利用しています。医療保険料は 75% を IFC が、残りの 25% を本人が負担します。

IFC の年金は世界銀行グループの年金プランの一部となっており、2 つの給付部分で構成されています。一方は就業年数、給与、定年退職年齢に基づくもの、他方は積立貯蓄プランで、給与の 5% が自動的に積み立てられ、それに IFC が年に 10% 補充するというものです。世銀グループの旧年金プラン (Legacy) で現在継続されている給付には、退職金や追加現金支払いも含まれます。

## 職員の給与体系 (ワシントン DC)

2011 年 7 月 1 日から 2012 年 6 月 30 日に至る、世銀グループ職員の給与体系 (税引き後) と平均給与、ならびに平均諸手当は以下に示される通りです。

職階	代表的な職位	最低額 (ドル)	市場の 基準額 (ドル)	最高額 (ドル)	職階別の 職員の 割合 (%)	職階別 平均給与	平均 諸手当 <sup>a</sup>
GA	事務アシスタント	25,100	32,600	42,400	0.0%	43,090	24,152
GB	チーム・アシスタント、情報技術者	31,700	41,200	57,700	0.6%	42,136	23,617
GC	プログラム・アシスタント、情報アシスタント	39,100	50,900	71,300	9.5%	53,698	30,098
GD	上級プログラム・アシスタント、情報スペシャリスト、 予算担当アシスタント	46,200	60,100	84,200	7.9%	67,671	37,929
GE	アナリスト	62,100	80,700	113,000	9.8%	76,179	42,698
GF	専門職	82,500	107,300	150,200	19.6%	98,249	55,069
GG	上級専門職	111,300	144,700	202,500	31.6%	135,238	75,801
GH	管理職、専門職主幹	151,700	197,200	245,900	17.7%	187,019	104,824
GI	局長、シニア・アドバイザー	202,200	264,500	303,300	2.8%	244,806	137,214
GJ	副総裁	271,800	304,500	340,900	0.4%	302,422	169,508
GK	専務理事、執行副総裁 (長官)	298,600	338,600	372,400	0.1%	292,656	177,705

注：米国民以外の方 (WBG) 職員の報酬は通常、非課税所得であるため、こうした職員に支払われる給与は税引き後の金額を基準に設定される。この税引き後の金額は一般に、WBG が給与算定の参照とする組織や企業の職員の税引き後の手取り額に相当する。

a. 年間有給休暇、医療保険、生命保険、就業不能所得補償保険、退職金、その他の給与以外の手当を含む。

## ガバナンス

### 世界銀行グループにおける IFC の位置づけ

世界銀行グループは、途上国に資金援助と技術支援を行う重要な存在です。1944 年に設立されて以来、その使命は、プロとしての精神と熱意をもって、貧困緩和に取り組み、末永く成果を上げることにあります。

IFC は、世銀グループを構成する 5 つの機関の 1 つですが、独自の設立協定、出資金、財務構造、運営陣、職員を有する別途の独立した法人です。IFC への加盟は、世界銀行の加盟国だけに限られています。2012 年 6 月 30 日現在の IFC の出資金およそ 24 億ドルは、加盟国 184 カ国によって保有されています。これらの加盟国は IFC のプログラムや活動に指針を与えます。

IFC は、援助を最も必要とする場での機会創出を民間セクターとの協働によって進めます。1956 年の設立以来、途上国の民間セクター向け投融资契約（自己勘定分）は総額 1,260 億ドル余りに達したほか、他機関からさらに多額の資金を誘引しました。

IFC は、貧困のない世界を目指し、世銀グループの他の 4 機関と密接に協働作業を展開しています。

- 国際復興開発銀行 (IBRD)：中所得国と信用度の高い低所得国の政府に対する貸付を供与。
- 国際開発協会 (IDA)：最貧国の政府を対象に「クレジット」と呼ばれる無利子の融資を提供。
- 多数国間投資保証機関 (MIGA)：途上国の投資家に対し、非商業的リスクに起因する損失を保証。
- 国際投資紛争解決センター (ICSID)：投資紛争の国際的な調停と仲裁の場を提供。

### 理事会

各加盟国は、総務と総務代理を 1 人ずつ任命します。IFC の組織としての権限は総務会に付与されており、総務会はその大半の権限を 25 名の理事で構成される理事会に委譲しています。また各理事に与えられた議決権数は、各々が代表する国の出資額に比例したものです。

理事は、米ワシントン DC にある世界銀行グループの本部で定期的に会合を開き、投融资の審査・決定のほか、運営陣に対し全般的戦略についての指導を行います。世界銀行グループの総裁は IFC の総裁も兼任しています。

### 総裁と長官の報酬

世銀グループの総裁の給与は理事会で決定されます。IFC 長官の給与は、米国で毎年実施される独立報酬市場調査の結果に従い、最高レベルの IFC 職員の給与と世銀グループ総裁の給与の中間点とされています。総裁と長官の報酬は一般に公開されています。ラース・チュネル長官の給与は 36 万 5,948 ドル（税引き後）でした。総裁と長官には報奨パッケージはありません。



起立（左から右）：Rogerio Studart（ブラジル）、Ingrid Hoven（ドイツ）、Agapito Mendes Dias（サントメ・プリンシペ）、Merza Hasan（クウェート）、Piero Cipollone（イタリア）、Jorg Frieden（スイス）、Vadim Grishin（ロシア）、Marie-Lucie Morin（カナダ）、Shaolin Yang（中国）、Marta Garcia Jauregui（スペイン）、Hekinus Manao（インドネシア）、Sid Ahmed Dib（理事代理、アルジェリア）、Ruud Treffers（オランダ）、Konstantin Huber（オーストリア）、In-Kang Cho（理事代理、韓国）、Hassan Ahmed Taha（スーダン）、Mukesh N. Prasad（インド）。

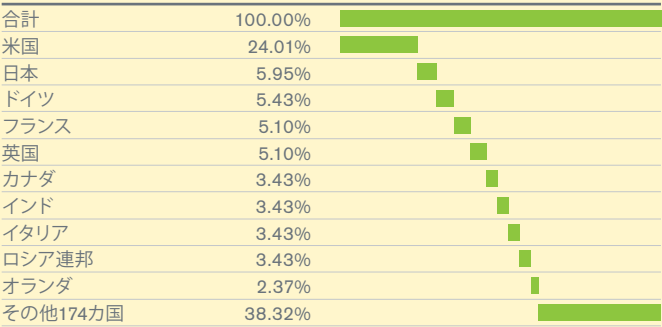
着席（左から右）：Ian Solomon（米国）、Felix Camarasa（アルゼンチン）、Ambroise Fayolle（フランス）、Susanna Moorehead（英国）、Abdulrahman Almotadhi（サウジアラビア）、Anna Brandt（スウェーデン）Renosi Mokate（南アフリカ）、林信光（日本）。

撮影：Frank Vincent/WB Photolab

理事	（理事代理）
Abdulrahman M. Almotadhi	Ibrahim Alturki
Anna Brandt	Jens Haarlov
Felix Alberto Camarasa	Varinia Cecilia Daza Foronda
Piero Cipollone	Nuno Mota Pinto
Agapito Mendes Dias	Mohamed Siekiah Kayad
Ambroise Fayolle	Anne Touret-Blondy
Jorg Frieden	Wieslaw Leonard Szczuka
Marta Garcia-Jauregui	Juan Jose Bravo Moises
Vadim Grishin	Eugene Miagkov
Merza H. Hasan	Ayman Alkaffas
林信光	高村泰夫
Ingrid G. Hoven	Wilhelm Michael Rissmann
Konstantin F. Huber	Gino Alzeta
Hekinus Manao	Dyng Sadiyah Binti Abg Bohan
Renosi Mokate	Muhtar Mansur
Susanna Moorehead	Stewart James
Marie-Lucie Morin	Kelvin Dalrymple
Mukesh N. Prasad	Kazi M. Aminul Islam
Ian H. Solomon	Sara Aviel
Rogerio Studart	Vishnu Dhanpaul
Hassan Ahmed Taha	Denny Kalyalya
Javed Talat	Sid Ahmed Dib
Rudolf Treffers	Stefan Nanu
John Henry Whitehead	In-Kang Cho
Shaolin Yang	Bin Han

出資加盟国による力強い支援

応募資本金の国別比率





## 説明責任

### 独立評価グループ

独立評価グループ (IEG) は、IFC の学習という課題に貢献するため、評価結果から教訓を引き出します。IFC の運営陣とは独立し、IFC の理事会に直属する IEG は、IFC の業務パフォーマンスを強化し、戦略と将来の方向性に関する情報を提供することを目指します。

IEG の評価システムは、投融資業務、技術支援、アドバイザリー・サービス業務を幅広く包括するよう設定されています。IEG は、IFC の評価方針、慣行、手段の質を継続的に評価し向上しています。こうすることで、一段と変わりつつある成功の基準や学習の必要性について、企業やステークホルダーと常に関わることができます。また IFC による自己評価の結果を独立した立場で認証します。

IEG は 2012 年度に、評価対象となる IFC の投融資プロジェクト 45%、同様の助言プロジェクトの 78% を認証しました。最終的な評価結果は、IFC の職員に伝えられるほか、世銀グループの結果とパフォーマンスに関する年次評価報告書の中にも盛り込まれます。それには IFC の投融資や助言プロジェクトの事例も含まれます。

2012 年度の報告書「世界銀行グループの結果とパフォーマンス」には、IFC が世銀グループの国別援助戦略の枠組みを通じて民間セクターのニーズに取り組む際の、独自の強みと制約が指摘されています。また、世銀グループによる世界経済危機への対応についての IEG の第 2 フェーズの評価では、IFC が投融資と対応イニシアティブを概ね一貫したレベルで堅持してきたと結論付けています。さらに、IFC は危機の潜在的な悪影響を若干、過大評価したと述べ、今後の危機でその戦略を最も効果的に進められるよう IFC のストレステストの測定方法を見直すよう勧告しました。

今年のもう一つの重要な評価対象は、若年層の失業についてでした。IFC は受益者の年齢とは無関係に雇用の創出に注力します。そこで、IEG は、若者の雇用問題が指摘された国において、若者を対象とした総括的な戦略を策定し、年齢別のデータ・カテゴリを設定するよう IFC と世銀グループに推奨しました。それにより若者に与えた具体的な効果を把握することができます。

IEG は、評価結果をまとめた覚書を数件作成しました。これには、

IEG は 2012 年度に、IFC による評価結果を審査し、対象となる投融資プロジェクトの

45%

同様の助言プロジェクトの

78%

を認証しました。

IFC の支援を受けたプロジェクト中の資源採掘産業に関するものと、南・南投資についての教訓が含まれています。加えて、民間投資を中心とした数件のプレゼンテーションを欧州の開発機関に行いました。世銀の透明性に関する手順に従い、IEG の報告書はウェブサイト上で一般に公開されています (<http://ieg.worldbankgroup.org>)。

### コンプライアンス・アドバイザリー / オンブズマン

コンプライアンス・アドバイザリー / オンブズマン (CAO) 室は、IFC と多数国間投資保証機関 (MIGA) に対する独立した求償のメカニズムとなっています。世銀グループ総裁の直下に置かれた CAO は、社会・環境面の成果を高め、IFC と MIGA の公共への説明責任を強化することを目的に、これらプロジェクトの影響を受けた人々からの苦情に対処します。

CAO は、相互に補完する 3 つの役割——影響を受けたコミュニティと IFC の顧客との間の紛争解決、重要な環境・社会基準に対する IFC の遵守状況の確認、そして世銀総裁と IFC の上層幹部に対する独立した助言の提供——を果た

します。また、それを通じて、IFCの活動をめぐる一般の問題意識に迅速かつ効果的に対応し、IFCのプロジェクトにシステム上重大な欠陥があることが分かった場合は、その適切な対応を一般に確約することが可能になります。

1999年に設立されて以来、CAOは、IFCのプロジェクト68件（35カ国）に関連した苦情103件に対応しました。今年は、合計33件という、これまでにない多数の苦情と監査の依頼を受けました。これは、CAOが一段と近づきやすくなったためと、近年に大きな結果を上げたことが一因となっています。

CAOは、IFCの金融セクター向け投融資188件（顧客数63社）のコンプライアンスに関する調査を終了しつつあります。これらは2006～2011年の投融資844件の中からサンプルとして選ばれたものです。この作業は、IFCが第三の事業体を通して投融資を行う場合に、IFCの環境・社会パフォーマンスが守られていることを保証するのが目的です。2013年度の第1四半期に発表されるCAOの報告書では、金融セクターを通じてIFCの支援を受けた事業活動が、社会・環境面の健全性を保つとい

1999年以来  
CAOは35カ  
国で68件の  
IFCプロジェ  
クトに関連  
した苦情

103件

に対処しま  
した。

うIFCの価値観と整合しているかどうか評価されます。

また、IFCのパフォーマンスの監査が必要かどうかを判断するため、今年は、10件のIFCプロジェクトを評価しました。その結果、コンボでの電力発電所の民営化プロジェクト1件がCAOの監査を受けました。また、アグリビジネス・セクターで実施された2件の監査については現在、IFCの対応状況がモニターされています。

紛争解決という業務では、BTCパイプラインの建設中に、影響を受けたグルジアの地主からの苦情を6カ月以内に和解したほか、トルコの製造業界での労使関係に関するケースをクローズし、インドネシアのパーム油のケースに関連した契約の実施状況をモニターしています。CAOはまた、カンボジア、カメルーン、インドネシア、ニカラグア、パプアニューギニア、ウガンダで10件の協同的な紛争解決プロセスも進めています。

CAOについての詳しい情報はウェブ사이트 ([www.cao-ombudsman.org](http://www.cao-ombudsman.org)) をご覧ください。

## パートナーシップ

### 生産性の高いパートナーシップの形成

IFC は、貧困削減と人々の生活向上を図るため、各国政府や財団、他の多国間機関と協力して革新的なパートナーシップの育成に努めています。経済が混乱し、予算が限られ、新たな開発問題が台頭する中で、この作業はかつてない重要性をもっています。

IFC のパートナーは、発想のリーダーであり、他者を招集する力をもち、開発成果の確かな実例を示すことのできる IFC に協力を求めています。そして、IFC は業務のあらゆる面でこれを実行しています。2012 年度に、IFC と援助パートナーは、食糧安全保障、中小企業、インフラ、紛争の影響下にある脆弱国、気候変動、ジェンダー、インクルーシブなビジネスなど、世界でも喫緊の開発課題に力を合わせて取り組みました。

また、援助パートナーとの二国間協議を定期的実施し、特定のパートナーやドナー・コミュニティとの協力を最大限に高めるために他のイベントも主催します。こうしたイベントの一例として、毎年秋に開催される「IFC ドナー・ブレックファースト」や、春季の「世界銀行グループ・ドナー・フォーラム」が挙げられます。

援助パートナーは、IFC の 3 つの業務の全般で一丸となって取り組んでいます。この協調的なアプローチは、長期的なパートナーシップの力を強調し、結果測定と効率向上という焦点を堅持し、援助パートナーが適切な認識を受けられるようにします。

### 援助パートナーとの協働

IFC は、特にアドバイザリー・サービスにおいて、援助パートナーと長年にわたり生産的な関係を楽しんできました。これらのパートナーは、公的資金の効用を高める

ため、ドナー拠出型の投融資を通じて、民間セクターからの投資機会をいかに追求するようになりました。

IFC のアドバイザリー・サービスは、2012 年度に、政府や、財団、他の多国間機関から 3 億ドル以上の拠出契約を取り付けました。新規のドナーには、MasterCard 財団やドイツの連邦経済協力開発省 (BMZ) などが含まれます。

加えて、2012 年度には、ドナー拠出型の投融資に対し 4 億 6,000 万ドルの拠出契約も取り付けました。これらの資金は、「世界農業・食糧安全保障プログラム」といった IFC の一連の特別イニシアティブに貢献しています。

以下は、2012 年度中の援助パートナーとの協働作業の一例です。

- 英国の国際開発省 (DFID) は IFC の 3 つの業務に 2 億 1,000 万ドル以上を拠出しました。この資金は、投資環境整備や金融へのアクセスの分野における助言業務を支援しました。また、中小企業向け IFC 投融資や、気候に関連した IFC アセット・マネジメント社の投資もサポートしました。
- スイスの経済省経済事務局 (SECO) は、2012 年度に IFC のアドバイザリー・サービスに 5,700 万ドル以上を拠出し、有力な支援国となりました。同国からの拠出の大半は、投資環境、金融へのアクセス、気候変動面の IFC 業務を支援しました。
- オランダの外務省と IFC は、紛争の影響下にある脆弱国、気候変動、インクルーシブ・ビジネス、食糧安全保障といった共通の優先課題への取り組みで相互の協力を刷新しました。同国と IFC はここ 10 年近くにわたり、「オランダ・IFC パートナーシップ・プログラム」の下で協働し成功を収めてきました。
- オーストリアと IFC は、東欧と中央アジアで、投資環境、金融へのアクセス、再生可能エネルギー、

2012 年度に  
援助パート  
ナーは

3 億ドル

以上をアドバイザリー・サービスに拠出し、さらにドナー拠出型の投融資に 4 億 6,000 万ドルを追加しました。

気候変動を重点として、協働作業を強化する姿勢を新たにしました。IFC は、同国の財務省とオーストリア開発銀行 (OeEB) と密接に協力しています。

- 日本の財務省は、IFC のインクルーシブ・ビジネスモデル担当グループへの資金拠出をコミットしたほか、引き続き、東アジア・太平洋地域の業務に資金を投じています。これにより、IFC は、経済ピラミッドの底辺で暮らす人々に支援の手を伸ばす新たな方策を見出すことができるでしょう。
- カナダの財務省、オランダの外務省、米国国際開発庁 (USAID) は、「世界農業・食糧安全保障プログラム」における IFC の業務を支援したほか、DFID は「世界中小企業ファシリティ」をサポートしました。この業務は、世界的な開発課題への対応で、IFC が先導しているマルチドナー・イニシアティブの一例を示すものです。
- 韓国の企画財政部は、IFC が主催する「グローバル SME 金融フォーラム」の運営資金を拠出しました。このフォーラムは協力的な環境で知識の共有を図るものです。この韓国と IFC の取極めは、韓国政府と世銀グループ間の関係の深まりを反映しています。以前は IDA の融資適格国であり、IFC の被援助国であった韓国は、今や IFC の正式なドナー国となり、2010 年に開催されたソウル・サミット以来、G20 の推進で主導的な役割を果たしています。
- MasterCard 財団は、サブサハラ・アフリカでの「インクルーシブな金融に関するグローバル・パートナーシップ」への資金としてアドバイザリー・サービスに 3,750 万ドルを拠出することをコミットしました。このパートナーシップは、新規のマイクロファイナンス機関の成長を支援し、モバイル・テクノロジーを利用し、インクルーシブな金融に効果を上げる知識の拡大を通して、銀行口座



をもたない 500 万人余りの人々に金融サービスを提供することを目指しています。

・ビル＆メリンダ・ゲイツ財団と IFC は、インドで最も人口の多い最貧困州、ビハール州で革新的な支払いシステムを開拓しています。このシステムにより、人々は、銀行口座や他の支払いサービスプロバイダーを利用して、政府から医療給付金を受け取ることが可能になります。ゲイツ財団は、当初に必要な資金を IFC に提供し、その後、システムの原型の拡大を図るためさらに 260 万ドルを拠出しました。

今年、IFC は、オーストラリア、オランダ、英国によって実施された多国間援助の評価でもよい成績を上げました。これらの国は、多国間機関のパフォーマンスと、開発に与えた成果を評価して、将来の拠出の決定に役立てています。

#### IFC アドバイザリー・サービスへの拠出契約額 (米ドル換算値：百万ドル)

[ 未監査値 ]

政府	2011 年度	2012 年度
オーストラリア	8.02	1.57
オーストリア	22.98	25.55
カナダ	33.27	5.63
デンマーク	4.47	0.96
フィンランド	2.27	0.13
フランス	0.20	0.03
ドイツ	0.00	0.60
アイルランド	1.10	1.51
イタリア	10.00	0.00
日本	8.95	9.48
韓国	2.00	1.00
ルクセンブルグ	2.25	0.00
オランダ	25.62	42.37
ノルウェー	6.08	4.85
南アフリカ	0.78	0.00
スペイン	2.68	0.00
スウェーデン	10.59	12.38
スイス	7.15	57.15
英国	16.20	69.94
米国	6.83	14.14
合計	171.42	247.28

機関・民間ドナー	2011 年度	2012 年度
BNDESPAR		3.00
CTF		0.80
Disney Worldwide Services, Inc.		0.05
欧州委員会	10.32	8.90
ゲイツ財団	0.33	2.57
地球環境ファシリティ (GEF)	2.99	
米州開発銀行		1.00
イスラム開発銀行	3.00	
Kauffman 財団	0.37	0.05
MasterCard 財団		37.45
TMEA	9.42	
国連機関	0.05	0.25
合計	26.47	54.08

#### IFC アドバイザリー・サービスへのドナー別拠出契約額 (米ドル換算値：百万ドル)

要約	2011 年度	2012 年度
政府	171.42	247.28
機関・多国間パートナー	31.64	10.95
民間パートナー・財団	0.70	43.13
合計	203.76	301.36

#### 他の開発機関との協働

開発機関は、民間セクターが人々の生活向上と貧困削減を促進する上で重大な役割を果たします。

これらの機関は困難な環境で成功を収めてきた実績があります。また民間市場がリスク回避的になると資金を注入します。さらに市場強化のための助言を行ったり、貧困層を配慮した持続可能な民間セクター開発を進めることに貢献します。民間資本が後退する危機や不確実な状況では、こうした機関の作業は不可欠となります。

過去 10 年間で、IFC などの機関は、途上国の民間セクター向け資金を総額 400 億ドル以上へと 4 倍に拡大しました。これらの機関が 1 ドルを投入すると共に、他者から 12 ドルの投資を引き出すことが可能です。

こうした理由により、IFC は、民間セクター開発に携わる多数の多国間・二国間機関とチームを組んで、開発効果を広げ最大限に高めるための資金の結集に努

めています。また、協働することにより、知識の共有や効率的なプログラムの立案が可能になります。一方、パートナー側は、IFC の主導者としての地位から恩恵を受けます。

他者との協働は、世界的な経済混乱への IFC の対応でも決定的な役割を果たしました。これにより、貿易金融の拡大、銀行資本の増強、インフラ投資の促進に向けた新規イニシアティブの迅速な立ち上げが可能になりました。最近では、「民間セクターを通じた国際金融と開発」と題する調査の実施で、開発機関 30 機関に加わりました。この調査は、官民両セクターの緊密な協力の必要性を訴えようというものです。

IFC は、いくつかの開発機関との協力により、中小企業向け資金の増強を目指す「グローバル SME 金融イニシアティブ」を策定しました。このイニシアティブは、主要先進・途上国グループ (G20) の優先課題でもあります。中東・北アフリカでは、この地域の最も深刻な課題の一部に対応するため、イスラム開発銀行、欧州投資銀行、ドイツの開発機関 KfW をはじめとする数件の開発機関と協働しています。

IFC はまた「基本協力協定」を通して、協調融資の正式な取極めを最高 15 の開発金融機関に拡大しました。この協定は、IFC 主導型のプロジェクトで協調融資を行う際に、これらの金融機関との協力の仕組みを規定したもので、危機で逼迫した民間投融資を補充するものです。IFC はまた、29 の開発金融機関によって実施されてきた共通の指針「コーポレート・ガバナンス育成の枠組み」の策定でも支援を提供しました。

開発銀行同士の協力は、気候ファイナンスといった新たな分野で特に重要となります。IFC は、温室効果ガスの会計処理や、気候関連の投融資のカテゴリの定義を IFC のアプローチと調和させるために多数の銀行と協働作業を展開しています。

## リスク管理

### ポートフォリオ運用

ポートフォリオ運用は、IFC 投融資が民間セクターの企業の成功と持続可能性を確保する上で重要な役割を果たします。

IFC は、投融資を行う前に、プロジェクトが、社会・環境基準、腐敗防止、コーポレート・ガバナンス、税務の透明性など多数の分野で IFC の全ての基準に合致したものとなるよう、倫理面をはじめとする幅広いデューデリジェンスを実施します。また、オフショア金融センターが関与するプロジェクトについては周到な審査を行います。IFC プロジェクトには、こうした広域なデューデリジェンスが長期にわたり標準的に適用されてきました。

IFC は、投融資契約書の遵守状況の監視、プロジェクトの進捗状況の検査を目的とした現場視察、さらに問題の起きそうなプロジェクトの解決策の探求でも支援を行っています。また、プロジェクトの環境・社会パフォーマンスに関連した開発成果も追跡しています。こうした監督過程の大半は現地事務所を設置されたポートフォリオ担当ユニットによって進められます。さらに、IFC の運営陣が、四半期ごとに投融資ポートフォリオ全体の審査を行うことで、この過程を監督しています。信用リスク評価システムは、こうしたポートフォリオの運用プロセスをサポートするものです。IFC 融資へ

2012 年度末の  
IFC の負債比率は

2.7:1

で、財務方針で規定された範囲に十分収まっています。

の参加銀行にはプロジェクトの進展状況を定期的に知らせ、IFC は状況に応じ、協議を行ったり、同意を求めたりします。

困難な財務状況が生じると、IFC 運営陣は、ポートフォリオ運用ユニットからの審査と推薦に基づき、さらに IFC の外部監査会社が認めた方針と方法に従って、貸倒引当金の具体的水準を決定します。深刻な問題を抱えたプロジェクトに対しては、特別業務局が適切な救済策を決定します。その際、同局は、プロジェクトの業務を継続しつつ問題解決が可能となるよう、債権者と株主全員の間でプロジェクト再建の負担を共有するための話し合いを進め合意を求めます。

### 財務運用

IFC は、国際資本市場で債券を発行することにより融資の原資を調達しています。また新興市場で現地通貨建て債券を発行した初の多国間機関であることもよくあります。IFC 融資の大半は米ドル建てですが、調達筋の多様化、調達コストの削減、現地の資本市場の育成を支援するため、様々な通貨建てで借入を行っています。IFC の資金調達活動は融資活動の歩調に合わせて継続的に行われます。2012 年度の国際市場での新規借入は合計 115 億ドル以上に達しました。

### 流動性管理

貸借対照表上の流動資産は、前年度末に 245 億ドルだったのに対し、2012 年 6 月 30 日付では合計 297 億ドルでした。流動資産の大半は米ドル建てで保有されています。米ドル以外の通貨建て資産につきもののエクスポージャーは、為替リスクを管理するため、米ドルでヘッジされます。流動資産の水準は、市場にストレスが生じたときでも契約額を支払えるだけの資金を確保するという視点に立って決められます。

### 2012 年度の国際市場での 債券発行による資金調達

通貨	金額 (米ドル 換算値)	%
米ドル	7795,454,541	68.1%
オーストラリア・ドル	2,089,827,167	18.2%
日本円	376,547,000	3.3%
トルコ・リラ	334,829,244	2.9%
ノルウェー・クローネ	290,788,182	2.5%
ニュージーランド・ドル	266,000,000	2.3%

### 自己資本比率と財務能力

IFC は、成長に必要な資金と、現在および将来予期される投融資のリスク・プロファイルを、規定の最低自己資本比率と照らして測定することで、自己資本比率の評価

を行います。最低自己資本は、IFC のリスクベースの経済資本方式を用いて決定されます。これは、統計的なリスク測定値に基づいて資産に必要な資本を区別する方法です。

この経済資本の枠組みに基づく、IFC は、利用可能な総資本（払込資本、用途指定項目や特定の未実現利益を控除した後の留保利益、一般貸倒引当金など）を少なくとも、バランスシート上とバランスシート外のあらゆる項目の潜在的損失の合計と同等の水準で維持していく必要があります。これは、IFC がトリプル A の格付けを維持する上で必要と考える水準の推定値でもあります。

IFC の自己資本比率の算出方法は、業界のベストプラクティスに匹敵するだけでなく、トリプル A の格付けを裏打ちできる適切な資本を備えるように設定されています。

IFC の自己資本比率の基準値は、トリプル A 格付けに必要な値より厳しいものとなっています。それでも、IFC 資本はこれまで常に最低自己資本をはるかに上回ってきました。

2012 年度末における自己資本の所要額合計は 155 億ドルであったのに対し、利用可能な資本の合計は 192 億ドルでした。また IFC の負債比率は 2.7:1 で、財務方針で規定された 4:1 の範囲に十分収まっています。

IFC の利用可能な資本合計は、払込資本、用途指定項目と特定の

未実現利益を控除した後の留保利益、そして一般貸倒引当金で構成されています。この財務能力こそが、現行業務を支え、中期的成長の機会や戦略的計画を取り入れ、さらに一部の顧客国を襲ったショックや危機、あるいは、世界市場の一般的景気後退に耐えられるだけの余裕を与えている一方、トリプル A の格付けを維持し、カウンターシクリカルな役割を果たす上での基盤となっているのです。

## IFC と企業倫理

企業倫理の奨励は、持続可能な民間セクター開発の促進という IFC の活動の基本要素となっています。IFC 顧客が堅固な企業倫理と優れたガバナンスを進めれば、投融資の長期的な利益達成が可能になり、それにより、IFC が持株を有利に売却して投資を終了させるチャンスが高まります。また、IFC の投融資とアドバイザー・サービスを支援する全ての活動で企業倫理を徹底させることは、金融リスクや名声を傷つけるリスクを抑えるのにも役立ちます。

腐敗は、開かれた市場で一般の信頼を裏切り、法に背くばかりか、大半の途上国で事業コストを増大させます。開放性と競争の強化、コーポレート・ガバナンスと倫理体系の向上促進を目指す IFC のイニシアティブは、腐敗との闘いに有効な手段であることが実証されています。

IFC のデューデリジェンスの手順と手続きは、プロジェクトの腐敗に対する最初の防御線だといえます。IFC では、後援者、幹部、事業主など、将来のパートナーとそのステークホルダーの経歴を調査するなどして、情報収集能力や分析力を継続的に向上させています。

腐敗防止に対する IFC の姿勢は、投融資を司る法的枠組みにも取り入れられています。IFC のプロジェクトにおいて、個人や法人が、汚職、詐欺、強制行為、共謀、妨害の行為に関与したことが判明した場合、世銀グループの制裁プロセスに基づき、一般に公開されたウェブサイトでその個人名や法人名を公表したり、世銀グループとの取引を禁じたりすることがあります。

世銀グループの調査部門である「倫理担当副総裁室」は、IFC プロジェクトをめぐる詐欺や不正の申し立てを調査する責任を負っています。同副総裁室が発表する年次報告については、世銀のウェブサイトをご覧ください。

IFC は、世銀グループと他の大手多国間銀行の間で交わされた不正の相互締め出しに関する覚書にも参加しています。この覚書は、参加開発銀行 1 行から制裁を受けた事業体は、同様の不正行為のことで他の参加銀行からも締め出されるというものです。これは、あらゆる企業が公正な環境下で多国間開発銀行プロジェクトを競い合うのに役立ちます。



## 責任ある業務活動

### 持続可能性に対する IFC のアプローチ

持続可能性は、10 年以上にわたり IFC の戦略の支柱となってきました。リスク管理、効率向上、そして世界市場や地域市場での競争力の堅持といった面で支援を行えば、顧客は持続可能性の真の価値を享受することができます。

IFC は、投融資、業務、アドバイザー・サービスの世界的活動において、財務、経済、環境、そして社会の 4 つの側面から持続可能性に配慮しています。

IFC と顧客が「財務の持続可能性」の確保に協力すれば、長期にわたり開発に資することができます。また「経済的持続可能性」とは、IFC の支援するプロジェクトや企業が受入国の経済に貢献することを意味します。

IFC 顧客の業務とサプライチェーンで「環境の持続可能性」を確保すれば、自然資源の保護・保全、環境悪化の緩和、そして気候変動をめぐる世界的問題への取り組みに役立ちます。さらに、生活水準と労働基準の改善、地域社会の福祉重視、先住民との話し合い、そして企業権利と人権に関連した重要課題の尊重により「社会の持続可能性」を支援することができます。

IFC は、経済開発の恩恵が貧しい人々や弱い立場にある人々にも及び、しかも開発が持続可能な方法で進められるよう、全力を注いでいます。さらに IFC は、持続可能性とは、市場変革、イノベーション促進、そして顧客企業の事業パフォーマンス向上を通じた付加価値拡大のための機会であると捉えています。

### IFC の持続可能性枠組み

IFC の持続可能性枠組みは、持続可能な開発に対する IFC の長年のコミットメントを反映するものです。この枠組みは、人々と環境を守り、開発成果を広げ、説明責任を促進します。

この枠組みは、以下の要素で構成されています。「環境・社会持続可能性に関する方針」は、顧客との協力で推進されているプロジェクトのパフォーマンスを支援する責任は IFC にあると定義してい

### IFC の持続可能性枠組み



ます。「パフォーマンス基準」(14 ページ参照)は、環境と社会のリスクを管理する責任は顧客側にあると定義しています。さらに「情報アクセスに関する方針」は、透明性に対する IFC のコミットメントについて明示しています。

IFC は、18 カ月にわたる世界的な協議プロセスを経た後、この枠組みを改訂しました。2012 年 1 月 1 日付で発効した改訂版には、企業レベルで対応すべき環境・社会リスク管理についてのグッドプラクティスの変遷と IFC のビジネスモデルの動向が反映されています。また、この中では、気候変動、ジェンダー、企業権利および人権、顧客のキャパシティ・ビルディングといった重要課題に対する IFC のコミットメントが強調されています。さらに環境・社会カテゴリの分類も、世銀や他の開発金融機関との整合性を高め、金融仲介機関の業務に伴うリスクを一段と幅広く捉えるために修正されました。

IFC は、経験に基づき、様々な種類のプロジェクトや事業活動にパフォーマンス基準を適用する際の、分かりやすい指針も顧客に提供してきました。この新規の「情報アクセスに関する方針」(41 ページ参照)は、2006 年の「情報開示に関する方針」からの大きな転換であり、世銀の「情報アクセスに関する方針」との整合を図るものです。これに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください (<http://www.ifc.org/sustainability>)。

## 環境・社会リスク管理

IFC は、持続可能性に対するコミットメントの一部として、IFC プロジェクトに内在する環境・社会リスクとその影響を回避したり、最小限に抑えたり、補償したりするために、顧客と協力しています。また、投融資期間を通じて顧客の環境・社会パフォーマンスをモニターし、それを向上させる機会を見出せるよう支援しています。

投融資プロジェクトが提案されると、IFC は、全体的なデューデリジェンスの一環として、社会・環境面の審査を行います。その際、プロジェクトの効果に関

する顧客の評価、ならびにプロジェクト管理に対する顧客のコミットメントとその管理能力が考慮されます。この審査では、プロジェクトが IFC パフォーマンス基準 (14 ページ参照) を満たしているかどうかについても評価されます。

また、基準にギャップが見られる場合には、パフォーマンス基準が随時満たされるよう、IFC と顧客の間で「環境・社会行動計画」に合意します。IFC は、その持続可能性枠組みに従い、A、B、C など、環境・社会に与える影響をカテゴリ別に表示することで、直接的な投融資案件に付随するリスクの程度を評価します。金融仲介機関が関与するプロジェクトの場合は、これらの金融機関のポートフォリオに内在するリスクのレベルに応じて、FI-1、FI-2、または FI-3 に区分されます。

中程のリスクから深刻なリスクを有するプロジェクトに対する環境・社会リスクの評価は、通常年に 1 度、顧客が提出する報告書や現地の視察結果に基づいて、IFC の環境・社会担当者によって行われ、更新されます。また、IFC 投融資契約が調印され実行された後に現地視察が行われます。このリスク評価は、IFC の運営陣にとっての重要な情報源です。また、IFC 担当者が監督中に、業務の優先順位を決定する上でも役立ちます。視察の頻度は、投融資の環境・社会リスク評価と、合意された環境・社会行動計画の実施状況によって異なります。

環境・社会リスク管理を強化するため、IFC は、顧客への監督を強めることにより、IFC ポートフォリオの環境・社会面の情報格差 (ナレッジ・ギャップ) を縮小することに力を注いでいます。この格差とは、IFC ポートフォリオの中で、過去 2 年間にわたり環境・社会パフォーマンスについての最新情報を提供していない企業の割合を指します。2012 年度のナレッジ・ギャップは 5.6% で、目標の 6% を下回りました。

## IFC の投融資案件のカテゴリ

A:	環境・社会面において、深刻なリスクが予想されるか、あるいは、多様で、非可逆的、または前例のない深刻な悪影響を与えると予測される事業活動。
B:	環境・社会面において、限定的なリスクが予想されるか、あるいは、少数で、一般に事業サイトに限られ、概ね可逆的で、緩和策を通じて速やかに対応できる限定的な悪影響を与えると予測される事業活動。
C:	環境・社会面において最小限のリスクまたは影響しか与えないか、全く与えない事業活動。
FI:	金融仲介機関 (FI) が関与しているか、あるいは、金融仲介業務に関連した実施メカニズムを通じた事業活動。このカテゴリは以下の項目に分類される。
	FI-1: 金融仲介機関の既存または提案中のポートフォリオの中に、環境・社会面において、深刻なリスクが予想されるか、あるいは、多様で、非可逆的、または前例のない深刻な悪影響を与えると予測される事業活動があり、そのために財政的なエクスポージャーに多分にさらされているか、もしくは、さらされると予想される場合。
	FI-2: 金融仲介機関の既存または提案中のポートフォリオが、環境・社会面において、限定的なリスクが予想されるか、あるいは、少数で、一般に事業サイトに限られ、概ね可逆的で、緩和策を通じて速やかに対応できる限定的な悪影響が予測される事業活動で構成されているか、構成されると予想される場合、もしくは、環境・社会面において、深刻なリスクが予想されるか、あるいは、多様で、非可逆的、または前例のない深刻な悪影響を与えると予測される事業活動がわずかに含まれている場合。
	FI-3: 金融仲介機関が有する既存または提案中のポートフォリオの中に含まれている事業活動が、環境・社会面において最小限のリスクまたは影響しか与えないか、全く与えないために、財政的なエクスポージャーにさらされていない場合。

## IFC 投融資プロジェクトのサイクル

以下のサイクルは、一つのビジネス案が IFC 投融資プロジェクトとなり、様々な段階を経ていく過程を示すものです。

1

### 案件開拓

IFC の戦略的目標に従って、投融資担当オフィサーと事業開拓担当オフィサーが適切なプロジェクトを特定します。顧客との最初の面談は、そのニーズを把握し、IFC が一翼を担えるかどうかを判断する上で極めて重要となります。

2

### 予備審査

投融資担当オフィサーは、プロジェクトの内容、IFC の役割、期待される開発への貢献、ステークホルダーへの利益、そして、取引を破綻させる要因などを含めたプロジェクト記述書を作成します。以前のプロジェクトから学んだ教訓が配慮され、場合によっては、審査前の視察を行って、予め問題を把握します。その後、IFC 上層幹部がプロジェクトの審査を承認するかどうかを決定します。

3

### 審査（デューデリジェンス）

投融資チームは、顧客との面談やプロジェクトの現地視察を通して、対象となる投融資の、ビジネスとしての潜在性、リスク、機会を評価します。その際、以下のような質問が問われます。投融資案件は財務的、経済的に健全か？ 環境・社会面の IFC のパフォーマンス基準を遵守できるものか？ 以前の投融資から学んだ教訓が配慮されているか？ 情報公開や協議の所要条件が満たされているか？ プロジェクトまたは事業の持続可能性をさらに高めるため顧客にいかなる支援を提供できるか？

7

### 理事会の審査と承認

プロジェクトが IFC 理事会に提出されると、通常の手続きが簡素化された手続きを経て、承認のための審議が行われます。「簡素化された」手続きとは、理事会が会合を開いて検討するのではなく、書類のみを審査するものです。この方法は低リスクのプロジェクトに利用可能です。また、特定の小規模なプロジェクトについては、理事会からの権限委任により、IFC 運営陣が承認することもできます。ただし、デューデリジェンス過程や公示はいずれの場合も行われます。理事会は、各投融資案件が、経済、財務、開発面で価値があり、持続可能性に対する IFC のコミットメントが反映されていることを要求します。

8

### 契約調印

IFC と企業が投融資契約書に調印します。これには、IFC 持続可能性枠組みの規定の遵守をはじめ、重大な事故や死者が発生した場合に直ちに報告する義務、定期的監視報告書の提出に顧客が同意することなどが含まれます。また、この契約書には、顧客の環境・社会行動計画も正式に盛り込まれます。

9

### 資金実行

資金の払込みは、通常、段階的に行われるか、契約書に規定された所定のステップを完了した後に行われます。



## 4

## 投融資審査

プロジェクト・チームは、IFC 担当局の幹部に推薦書を提出し、それを受けた幹部はプロジェクトを承認するかどうかを決定します。これは、投融資サイクルの重要な段階です。プロジェクト・チームと担当局幹部は、顧客には、IFC の諸基準を満たし、事業の持続可能性改善に向け IFC と協働する能力と意志があることに確信がなければなりません。

## 5

## 交渉

プロジェクト・チームは、IFC のプロジェクト参加条件について交渉し始めます。これには、実行条件、パフォーマンスとモニタリング規定、行動計画合意、未解決問題の解決などが含まれます。

## 6

## 公示

環境・社会面 (E&S) のデューデリジェンスが終了すると、審査の要約と行動計画が発行されます。これらの文書には、審査で判明した主要課題をはじめ、重大な未遵守項目がある場合には顧客の取るべき行動のリストが記述されています。これらの文書は、理事会審査に提出される前に、「投融資要綱」とともに、IFC ウェブサイトで公開されます。公示期間は、プロジェクトのカテゴリ別に決定されます。

## 10

## プロジェクトの監督と開発結果の追跡

IFC は、融資契約書の条件が守られるよう投融資を監視します。企業は、財務、社会、環境面のパフォーマンス報告書や、事業に重大な影響を与える要因についての情報を定期的に提出します。プロジェクトの現場視察は、環境・社会規定の遵守状況を確認するために予定されます。顧客との継続的対話は、問題解決と新たな機会の把握面で顧客を支援するのに役立ちます。また、投融資サイクルの初めに指定された主な指標に基づき、プロジェクトの開発への貢献度が追跡されます。

## 11

## 評価

IFC 業務のパフォーマンス向上を図るため、毎年、円熟期の初めに達したプロジェクトのサンプルを無作為に抽出して評価を行います。

## 12

## 完了処理

投融資が全額返済されたとき、または、IFC が持株を売却して投資を終了したとき、IFC はプロジェクトの帳簿をクローズします。場合によっては、債権償却を決定することもあります。IFC の目標は、顧客が、プロジェクトの持続性を確保し、IFC 投融資が終了した後も長期間にわたり維持していける慣行と管理システムを確立できるよう手助けを行うことです。

## IFC が対象としない投融資

IFC は、以下の分野の一つ以上で相当量の活動を行うプロジェクトに対しては投融資を行いません。

- ・ 医薬品、殺虫剤／除草剤、オゾン層破壊物質、ポリ塩化ビフェニル、「絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」の規制対象である野生生物や製品など、当該国の法令もしくは国際協定・合意書に基づき違法とみなされるか、国際的な禁止措置の対象である製品の製造、取引、または活動。
- ・ 武器および軍需物資の製造または取引。
- ・ タバコの製造または取引。
- ・ 賭博、カジノ、それに匹敵する事業。
- ・ 放射性物質の製造または取引。ただし、これには、医療機器、品質管理（測定）装置、ならびに、放射線量がわずかであるか、適切に遮蔽されているか、あるいはその両方であると IFC により判断された機器の購入には適用されません。
- ・ 非接着アスベスト繊維の製造または取引。ただし、これには、アスベストの含有量が 20% 未満の接着アスベストセメントシートの購入には適用されません。
- ・ 長さ 2.5 キロメートルを超える網を使用する流し網漁。

IFC の除外リストや、金融仲介機関、マイクロファイナンス機関、貿易金融プロジェクトの取り扱いについての詳しい情報は、<http://www.ifc.org/ifcext/disclosure.nsf/Content/IFCExclusionList> をご覧ください。

## カーボン・フットプリントに対するコミットメント

IFC では、環境・社会持続可能性において顧客に求める行動に矛盾しない形で、業務を推進しています。IFC の事務所のある場所では、コミュニティに利益をもたらすように努めながら、日常業務が環境に及ぼす影響を削減することを目指します。これが、IFC のカーボン・フットプリントに対するコミットメントです。

天然資源の有効な利用は、このコミットメントの重要な部分を占めています。ワシントン DC にある IFC 本部での電気の利用率は、IFC の内部業務から生み出される炭素排出量の世界合計の約 20% を占めています。また、目標を設定したことで、ワークステーション当たりの電力消費量もここ数年間で着実に削減し、現在、ワークステーション当たり 5,646 キロワット時に低下しました。これは 2008 年比で 20% の減少を示しており、目標を予定より 3 年も早く達成したことになります。

また、業務から生ずる廃棄物の削減にも取り組んでいます。2012 年度中に埋立地に送られた本部の廃棄物はいっさいありません。それに代わり、139,223 キロもの紙、金属、ダンボール、電球、電池はすべてリサイクルされ、19,603

キロの事務用品や家具は地元慈善団体に寄付されました。加えて、269,692 キロの廃棄物は地元のごみ焼却施設で処理され、地元コミュニティへの給電に役立ちました。

IFC の世界的なカーボン・フットプリントの半分以上は航空機を利用した出張によるものです。IFC の新規のテレプレゼンス・センターは、このような出張を減らし、IFC の持続可能性の目的達成に貢献しています。今年は、前年比で 20% 増の、4,400 回以上のビデオ会議が開かれました。これらのツールにより、環境に及ぼす出張の悪影響を回避しながら、IFC 業務の重要な機能を履行することができます。

IFC は、企業の持続可能性におけるリーダーとなり、環境への炭素排出を削減するよう他の企業に奨励することに最善の努力を注いでいます。2011 年度には、IFC の内部業務から生み出された炭素排出量の世界的合計は、二酸化炭素に換算すると 44,650 トン分に相当しました。2007 年度以降、IFC は、自己の世界的カーボン・フットプリントに関するデータを収集して報告しています。

IFC は、世界中の業務を「カーボン・ニュートラル」とする努力も続けています。カーボン・フットプリントを相殺するため、IFC

## IFC 内部業務から生み出される炭素排出量の 2012 年度の世界合計

二酸化炭素換算値（トン）

合計 44,649.55 (100%)	
航空機による出張 29,918.00 (67.0%)	
電力 11,992.90 (26.9%)	
購入した蒸気 44.43 (0.1%)	
冷水機用電力 209.44 (0.5%)	
冷却剤 1,300.65 (2.9%)	
車両などの移動機器 759.33 (1.7%)	
固定燃焼装置 424.81 (1.0%)	

IFC の 2011 年度の炭素排出量は、二酸化炭素、メタン、窒素酸化物などを二酸化炭素に換算した結果、合計およそ 44,650 トン (tCO<sub>2</sub>e) に上りました。

は、インドの10メガワットのバイオマス発電プロジェクトからカーボン・クレジットを購入しました。ここでは主に綿花の生産から出る茎、赤グラム、大豆、コメの粉殻を利用しています。IFCの顧客 Shalivahana Green Energy Limited が所有する Rake Power VCS プロジェクトは、農民がより良い価格で農産物を売り、さらに農村の人々がバイオマスの収集と輸送に携わる機会を作り出しています。

### 情報アクセスに関する新たな方針

様々な地域やセクターで国際的な業務を展開する多国間金融機関として、IFCは、多種多様なステークホルダーに影響を与えます。その際、透明性と説明責任は、開発マニフェストを全うするための基礎となります。透明な組織は、名声を傷つけるリスクを上手に管理でき、強固な事業を進める可能性を高めます。

今年発効した IFC の新しい「情報アクセスに関する方針」は、開発成果の伝達能力を高め、環境・社会リスクの管理方法を改善することに役立つでしょう。IFC のプロジェクトと投融資についての透明性が向上すれば、情報を得た上での対話やフィードバックの交換が可能になります。

この方針の下で、IFC は、プロジェクトの全段階で、一段と多くのプロジェクト・レベルの情報を

公開します。環境、社会、開発面の成果に関する情報の新たな開示規定は、IFC ポートフォリオにおける重要な成長分野である、金融仲介機関を通じた投融資にも適用されます。この方針の転換により、世銀グループの目標と整合した結果報告にさらに重点が置かれることとなります。

IFC は、商業上繊細な情報、考慮中の情報、機密情報を保護する規定をそのまま維持していますが、ステークホルダーは今や、特定の情報の公開決定について抗議したい場合は、独立した2段階の請願メカニズムを利用することが可能になりました。

IFC は、透明性を高めることにより、事業パフォーマンスの向上と、良好なガバナンスの促進が可能になると確信しています。さらに、この変革が将来、プロジェクトの成果を向上させ、影響を受けるコミュニティの意識を高め、ステークホルダーとの関係を強化できるよう望んでいます。詳細についてはウェブサイトをご覧ください ([www.ifc.org/disclosure](http://www.ifc.org/disclosure))。

### 市民社会との関わり

IFC は、組織的な形でステークホルダーからのフィードバックを求めます。IFC が結果を達成するためには、フィードバックを受けることが極めて重要となります。

18 カ月にわたるプロセスを経て昨年終了させた「持続可能性枠

組み」の見直しでも、16 カ国余りの市民社会団体を含め、様々なステークホルダーと関わりました。その際に受けたインプットは、新規の「情報アクセスに関する方針」の策定に貢献しました。

IFC は3年前に、年次報告書に関連した話し合いをステークホルダーとの間で開始しました。このプロセスにより、年次報告書に掲載する重要課題に関し、実際のフィードバックを受けることができました。このステークホルダー・パネルは、市民社会、民間セクター、財団などの代表者で構成されています。このパネルを導入して以来、パネルのフィードバックを年次報告書の作成過程にできるだけ反映できるよう、パネルとの関わりが年々早まりました。

IFC は、世銀グループのシビルソサイエティ担当チームと連携して、定常的に市民社会の協力を求めています。コンプライアンス・アドバイザー／オンブズマンもまた、IFC のプロジェクト・チームとの協同により、地元コミュニティ、市民社会団体、その他のステークホルダーと緊密に連絡を保っています。

こうした継続的な関わりを拡大することにより、IFC は、ステークホルダーとの間でフィードバックのループを保ち続けることができるのです。



## 持続可能な開発に関する一部情報の独立した保証報告書

我々は、IFC の要請に従い、2012 年 6 月 30 日に終了する年度の報告書に係り、持続可能な開発に関する一部の情報のレビューを実施した。これには定量的指標（以下「指標」と称す）と定性的な表明（以下「表明」と称す）が含まれる。その際、我々は、企業責任の管理とパフォーマンスについての表明に加え、義務的と見られる表明、特定のステークホルダーの利害にかかわるとみられる表明、そして IFC の名声にリスクを及ぼしそうな表明を選別した。これらの指標および表明は、以下の重要な分野に関連している。

重要分野	表明	指標																											
IFC の方針	「IFC の開発目標」（18 ページ） 「IFC の持続可能性枠組み」（36 ～ 37 ページ）																												
投融資と アドバイザー・ サービスの 開発効果	「アドバイザー・サービスの成果」（23 ページ）	高い評価を受けた投融資プロジェクトの割合（3 ページ）： 68%、詳細については業種別（25 ページおよび本書 29 ページの内側）、地域別（25 ページおよび本書 29 ページの内側）、 パフォーマンス分野別（25 ページ）、加重スコアおよび加重前スコア（本書 29 ページの内側）を参照  高い評価を受けたアドバイザー・プロジェクトの割合 （3 ページ）：72%、詳細については業務分野別（25 ページ）、 地域別（25 ページ）の表を参照																											
環境・社会評価	「IFC パフォーマンス基準」（14 ページ） 「環境・社会リスク管理」（37 ページ）	2012 年度の環境・社会カテゴリ別にみた契約額（本報告書 28 ページの内側）：  <table> <tr> <th>カテゴリ</th><th>契約額（百万ドル）</th><th>プロジェクト数</th></tr> <tr> <td>A</td><td>931</td><td>17</td></tr> <tr> <td>B</td><td>3,629</td><td>153</td></tr> <tr> <td>C</td><td>6,975</td><td>267</td></tr> <tr> <td>FI</td><td>3,340</td><td>120</td></tr> <tr> <td>FI-1</td><td>140</td><td>2</td></tr> <tr> <td>FI-2</td><td>410</td><td>11</td></tr> <tr> <td>FI-3</td><td>37</td><td>6</td></tr> <tr> <td></td><td><b>15,462</b></td><td><b>576</b></td></tr> </table>	カテゴリ	契約額（百万ドル）	プロジェクト数	A	931	17	B	3,629	153	C	6,975	267	FI	3,340	120	FI-1	140	2	FI-2	410	11	FI-3	37	6		<b>15,462</b>	<b>576</b>
カテゴリ	契約額（百万ドル）	プロジェクト数																											
A	931	17																											
B	3,629	153																											
C	6,975	267																											
FI	3,340	120																											
FI-1	140	2																											
FI-2	410	11																											
FI-3	37	6																											
	<b>15,462</b>	<b>576</b>																											
最貧国での関与	「世界的な結果」（本報告書 26 ページの内側）  「最貧国における経済成長と機会創出の促進」の項、これには 「2005 年以来、IDA 適格国向けの投融資は 6 倍に増え [...] 550 万 ドルの融資パッケージを提供しました」という記述を含む（本書 52 ～ 53 ページ内側）  「重要性が高まる南・南投資」の項、これには「それはまた IFC の戦略的優先課題 [...] 役立つと述べています」という記述を含 む（本書 64 ページの内側）																												
気候変動	「気候変動への対応：喫緊の優先課題」の項、これには「IFC の 気候関連の投融資は [...] 約 30% は気候に関連したものでした」 という記述を含む（本書 43 ページの内側）	2012 年度の気候関連の契約額（3 ページ）：16 億 2,100 万 ドル																											
ファイナンシャル・ インクルージョン	「現地通貨建て融資のパイオニア」の項、これには「先進・途 上 20 カ国グループ [...] 10 億ドル以上発行することが可能にな ります」という記述を含む（本書 49 ページの内側）  「貿易金融が開発に重要な理由」の項、これには「IFC は、貿易 金融が開発成果を [...] 合計 61 億ドルに達しました」という記 述を含む（本書 65 ページの内側）  「新興市場における開発資金の捻出」の項、これには「新興国 での投融資ファンドを力強く支援してきた IFC は [...] 約 79 万 5,000 人の雇用が支援されました」という記述を含む（本書 62 ページの内側）	2011 年（暦年）のマイクロファイナンス・ローンおよび中 小企業向けローンの件数と金額（24 ページ）  <table> <tr> <th>ローン・タイプ</th><th>ローン数（百万件）</th><th>金額（十億ドル）</th></tr> <tr> <td>マイクロファイナンス</td><td>19.7</td><td>19.84</td></tr> <tr> <td>中小企業</td><td>3.3</td><td>181.25</td></tr> </table>	ローン・タイプ	ローン数（百万件）	金額（十億ドル）	マイクロファイナンス	19.7	19.84	中小企業	3.3	181.25																		
ローン・タイプ	ローン数（百万件）	金額（十億ドル）																											
マイクロファイナンス	19.7	19.84																											
中小企業	3.3	181.25																											
IFC の活動の評価	「独立評価グループ」（30 ページ）																												

重要分野	表明	指標
食糧安全保障	「途上国における食糧安全保障の強化」（本書 46 ページの内側）	
医療と教育へのアクセス	「貧困層の教育・医療の改善のための支援」（本書 47 ページの内側）	
責任あるビジネス	「女性のための経済的機会の拡充」の項、これには「女性は経済発展と機会創出の大きな源泉 [...] に資金を提供できる見通しです」という記述を含む（本書 56 ページの内側）  「受益者」の項、これには「IFC のプロジェクトは、気候変動への取組み [...] ストレス耐性型新種 7 種を導入しました」という記述を含む（4 ～ 5 ページ）  「持続可能なビジネス」（10 ページ）	
資金動員	「資金動員の威力」の項、これには「このような効果的な資金動員が可能なのは、IFC が力強い利益を一貫して [...] 協調融資は 27 億ドルに達しました」という記述を含む（本書 61 ページの内側）	
ガバナンス	「IFC と企業倫理」（35 ページ）	
コーポレート・フットプリント	「カーボン・フットプリントに対するコミットメント」（40 ～ 41 ページ）	炭素排出量（40 ページ）：2012 年度には 44,650 tCO <sub>2</sub> に相当する炭素排出

このレビューは以下の項目について限定保証<sup>1</sup>を行うことを目指した。

指標は、特定の指標に関する IFC の指示書、手続き、ガイドラインから成る、2012 年の報告書作成基準（以下「報告書作成基準」と称す）に基づいて作成された。こうした指標は、「環境・社会カテゴリー別契約額」（本書 28 ページの内側）および「投融資とアドバイザー・サービスの開発効果」（25 ページ）に関するものであり、IFC のウェブサイトに掲載されている。これらの指標の要約は本年次報告書に掲載されている。

表明は、IFC のウェブサイト<sup>2</sup>に掲載された「情報開示に関する IFC の方針」と、国際基準<sup>3</sup>で定義された重要性、完全性、中立性、明確性、および信頼性の原則に基づいて作成された。

これらの指標や表明の作成、報告書作成基準についての情報提供、そして年次報告書の編集の責任は IFC に帰属する。

一方、我々の責任は、レビューに基づき、これらの指標と表明についての結論を述べることにある。我々のレビューは、国際会計士連盟 (IFAC) の国際保証業務基準

(ISAE) 3000 に準拠して実施された<sup>4</sup>。また、我々の独立性は、IFAC の職業人倫理規範により定義されたものである。

レビューの種類と範囲

我々は、結論の記述が可能となるよう、以下のレビューを実施した。

- 報告書作成基準、方針ならびに原則を、その重要性、完全性、中立性、信頼性の観点から評価した。
- 上記の表に記述されたような持続可能性に関する重要な表明を特定するため、本年次報告書の内容のレビューを行った。
- 報告書作成基準の適用状況、あるいは表明の適正を評価するため、コーポレート・レベルで 25 名を超える報告上の責任者とのインタビューを実施した。
- コーポレート・レベルで分析手続きを実施し、試査により指標の算出と併合過程を確認した。
- 指標または表明の裏づけとなる書類、例えば、理事会や他の会合に提出された

報告書、融資契約書、内外でのプレゼンテーションや報告、調査結果などを収集した。

- 本年次報告書に掲載された情報および指標、そしてそれに関連した方法の付記などの提示についてレビューを行った。

レビューの限界

このレビューは、上記の表に記述された表明と指標だけに限られ、本年次報告書中で公表された他の情報は対象としなかった。

また、我々が行った試査は、IFC のワシントン DC 本部での文書のレビューとインタビューのみに限られた。本表明の対象となった作業に関する限り、外部のステークホルダー、顧客、あるいは IFC の現地事務所での活動には参加しなかったほか、個々のプロジェクトに関する情報の妥当性を確認するための試査やインタビューも実施しなかった。

1 より高水準の保証には、さらに徹底した業務が必要となる。

2 [http://www.ifc.org/ifcext/disclosure.nsf/content/disclosure\\_policy](http://www.ifc.org/ifcext/disclosure.nsf/content/disclosure_policy)

3 国際会計士連盟 (IFAC) の国際保証業務基準 (ISAE) 3000、グローバル・レポートング・イニシアティブ (GRI)、または AA1000 説明責任に関する基本原則を指す。

4 国際保証業務基準 (ISAE) 3000：「過去の財務データのレビュー以外の保証業務」、国際会計士連盟、国際監査・保証基準審議会、2003 年 3 月。

## 報告書作成基準と表明の作成プロセスに関する情報

報告書作成基準および表明作成に関する方針と原則については、以下のコメントを記しておきたい。

### 重要性

IFC は、自己が持続可能性に与えた影響、環境・社会に対するリスク、影響、そして、IFC 資金を受けたプロジェクトが直接もたらした成果、あるいは、金融仲介機関を通して達成した成果といった、持続可能性に関する情報を提供している。このレベルの情報公開は、他の多国間開発銀行の公開水準と合致したものである。IFC はまた、開発成果の評価、中でも「開発結果追跡調査システム (DOTS)」を通じた開発成果の評価と、「IFC の開発目標」(18 ページ参照) の作成と試験的実施に特別の努力を注いでいる。

### 完全性

指標の報告範囲には、IFC の重要な活動の大半が含まれている。本年次報告書では、各指標が実際に包括する範囲を、当該データへの脚注として示している。一方、DOTS の評価に関する限り、IFC の貿易金融向け投融資の開発結果についての評価は現在、報告されていない。貿易金融業務は、IFC のポートフォリオの中でしだいに重要性を増しているため、IFC は、将来の情報公開に備え、DOTS の枠組みを用いて、貿易金融の開発成果の測定を開始した。

### 中立性と明確性

IFC は、指標の設定に際し、採用した方法についての情報を、公表データへの脚注として、あるいは関連セクションにおいて提供し、さらに IFC のウェブサイトでも公開している(リンクは本書 66 ページの内側に掲載)

## 信頼性

我々は、IFC が「アドバイザリー・サービスの開発効果」および「カーボン・フットプリント」に関連した内部統制の強化において進展を遂げたことを特筆しておきたい。反面、「気候関連の投融資」と投融資サービスの開発結果の環境・社会面 (E&S) の指標については、報告ツールと内部統制の強化と、さらなる定式化を進めることが IFC にとって有益である点を指摘しておく。特に、E&S のリスク評価を更新するプロセスでは、あらゆる事例で最も最新の情報を用いて、プロジェクトの E&S パフォーマンスを評価できるよう、定式化をいっそう進めるべきである。

## 結論

我々のレビューに基づく、以下の内容を確信させるような、注意を引く事項は何も見つからなかった。

- あらゆる重要な側面において、指標が報告書作成基準に基づいて作成されなかった。
- あらゆる重大な側面において、表明が「情報開示に関する IFC の方針」と、国際基準によって定義された重要性、完全性、中立性、明確性、および信頼性の原則に基づいて提示されなかった。

Paris-La Défense、フランス、  
2012 年 8 月 20 日

独立監査人  
ERNST & YOUNG et Associés

 **ERNST & YOUNG**  
Quality In Everything We Do

エリック・デュヴォー  
クリーンテクノロジー・  
持続可能性担当パートナー

## 総務会への書簡

IFC 理事会は、国際金融公社の定款に基づいて、本年次報告書の作成に当たらせました。ジム・ヨン・キムは、IFC 総裁・理事会議長として、監査済み財務諸表と共に本報告書を総務会に提出するしだいです。2012 年 6 月 30 日に終了する本年度中、民間セクターへの投融資とアドバイザリー・サービスを通じて、持続可能な開発成果を一段と拡大できましたことは誠に喜ばしく、理事会一同、ここに謹んでご報告いたします。



## 2012 年度年次報告書に関するステークホルダー審査パネル

IFC は 3 年前に、2010 年度の年次報告書で初のステークホルダー審査パネルを試験的に導入しました。このパネルとの関わりを通じて、外部のステークホルダーが抱えている関心事を見極め、IFC とパネルメンバーが互いに学習し理解を深めることができました。現在、このパネルは 8 名の専門家で構成されています。これらの専門家は、IFC が抱えるジレンマから、機会、結果にいたる、複雑な業務に関する報告内容を改善するために、様々な客観的な視点を提供しました。

### 背景

今年は、パネルからの昨年のフィードバックに基づき、いくつかの重要な点でパネルとの関わりを深めました。(1) パネルは、新しい重要課題を特定するのではなく、IFC と理事会によって作成された重要課題の内容の向上を図りました。(2) IFC の局長 2 名 (IFC 環境・社会・ガバナンス局長 Bill Bulmer および開発成果局長 Nigel Twose) と副総裁 1 名 (財務・協調融資・情報技術担当副総裁 Jingdong Hua) との間で、数件の重要課題に関連した各氏の業務内容について話し合いました。(3) 報告書の草案の概要段階で審査を始めるなど IFC との協議を早めに開始しました。加えて、IFC は、将来のパネル審査の価値を高める方策についてパネルからのフィードバックを求めました。

IFC では、このプロセスの舵取りに当たる中立の進行役を立てました。パネルメンバーの任期は 1 年で、その後 1 年間の延長が可能です。メンバーは 2 度にわたる電話会議と、重要課題の内容を精化するための 1 日会議に参加し、概要段階の草案と第一草案の改善点について提案し、さらにほぼ完全に近い報告書の審査を行い、それに対する IFC の対応を評価しました。パネルは、2012 年度年次報告書の承認や支持は行っておりませんが、ステークホルダー・パネルによる本声明については承認しています。パネルメンバーの大半は、この作業の返礼として、少額の謝礼を受けました。一部のパネルメンバーには旅費の払い戻しが行われましたが、それ以外の費用の払い戻しはいっさい行われませんでした。

### パネルメンバー

審査パネルは以下の専門家で構成されています。

- Arvind Ganesan, Director, Business and Human Rights, Human Rights Watch
- Marina Gorbis, Executive Director, Institute for the Future
- Daniel Kress, Deputy Director, Health Economics, Bill & Melinda Gates Foundation
- Sabine Miltner, Managing Director, Sustainability, Deutsche Bank AG
- Shalini Nataraj, Vice President, Programs, Global Fund for Women
- Ruth Rosenbaum, Executive Director, Center for Reflection, Education and Action (CREA)
- Faiza Shaheen, Senior Researcher, New Economics Foundation
- Ken Wilson, Executive Director, The Christensen Fund

### 重要課題：

以下は、IFC によって特定され、パネルによって鋭化された重要課題です。

- 貧困層を配慮した成長と人材育成の促進
- 仕事・雇用
- 南・南投資と貿易金融
- 気候変動
- IFC アセット・マネジメント社と協調融資業務を通じた資金の動員

### 全般的なフィードバック

パネルは、IFC チームの冷静な語調と実直さに感謝しました。特に、各自の業務と知見について語った局長や副総裁、そして本報告書の制作担当局長 Bruce Moats に対し謝意を表しました。数年にわたって参加したパネルメンバーは、IFC について大いに学んだとし、微妙なヒントや重点的なフィードバックを提供することができたと述べました。また審査パネルが今後も IFC に付加価値をもたらせるよう、このステークホルダーとのプロセスを向上させていきたいと述べました。

パネルメンバーは、IFC による結果の追跡ならびに測定業務、とりわけ開発成

果の測定という現行の努力を評価しながらも、この業務を一段と加速するよう推薦しました。また、民間セクターの持続可能性を高め、企業倫理を徹底させ、透明性を改善するための助言とガイダンスの提供という IFC の業務とアプローチを支援しました。こうした慣行は、学んだ教訓を総合し、フィードバックや助言を求め、業務慣行とプロセスをさらに鋭化しつつ、試行を通して革新的な方策を見出すという IFC の業務の進め方の一例でもあります。パネルはまた、プロジェクトに関連した業務に加えて、本報告書に掲載されているようなストーリーを今後も含めるよう奨励しました。

パネルは、本報告書の冒頭に新たなセクションを設けて、ラース・チュネル長官の指導の下で過去 5 年間に達成した実績を掲載したことで、IFC の戦略、役割、業績が、これまでの報告書より明確に示されたと述べました。さらに、IFC は、当期の活動を長期的な視点に立って検討し、重要な結果の要約だけでなく、IFC の戦略的計画と相容するビジネスモデルから学んだ教訓を含める習慣を今後も続けるべきだと述べました。

### 具体的な提案：

- 重要課題は、もっと長期的な視野に広げる必要があり、IFC の 1 年間の業務内容を鮮明にするため、学んだ教訓と結果の両方に結びつけるべきである。
- 学んだ教訓から知見を得、それらを動向や成果と併せて、他者と共有するためには、1 年以上のデータに基づいて結果を出すべきである。
- IFC のポートフォリオには、低炭素型成長、女性や最貧困層も含めたインクルーシブな成長、資本集約度の高い雇用といった課題をめぐり多数の矛盾する力が作用している。IFC は、こうした課題の関連性について述べ、直面するジレンマにいかに対応しているかを具体的に述べるべきである。
- 本年度の報告書には、アドバイザリー・サービスを中心とする主な業務内容が一段と包括的に記述されている。IFC はこのアプローチを今後も続けるよう提案する。

## 財務の概要

### 財務パフォーマンスの概要

IFC の純利益は年々、多数の要因の影響を受けており、その結果、財務パフォーマンスが激しく変化する可能性があります。全般的な市場環境も IFC の財務パフォーマンスに多大な影響を及ぼします。

以下は、IFC の純利益と包括利益を構成する主要要素と、これらの利益の水準と変化に年ごとに影響を与える要因について述べたものです。

構成要素	大きな影響を与える要因
<b>純利益</b>	
利付き資産の利回り	スプレッド・レベルや競争の程度などを含めた市場の状況。遅延債権、遅延債権からの利息回収、個人債権の参加型ノートの受取利息も貸出金収益に含まれる。
流動資産収益	流動資産ポートフォリオの実現・未実現利益（損失）（これらは、金利の環境といった外部の要因に左右される）、および流動資産ポートフォリオ中の特定の資産クラス。
エクイティ投資ポートフォリオ収益	エクイティ・ポートフォリオのパフォーマンス（元本価格の変動による実現利益、配当、有価証券減損処理、非貨幣資産の交換益、株式投資の未実現利益／損失など）。
貸倒れ引当金および債務保証損失引当金	借入者のリスク管理、倒産の確率、および倒産した場合の損失。
その他の収益および費用	IFC が顧客に提供するアドバイザー・サービスの水準、職員の退職年金および他の給付プランの費用、管理費用などの承認済み予算。
その他の非トレーディング金融商品（公正価額で評価）の利益／損失	基本的には、借入金の公正評価額の変化の差額を指す。これには、IFC の信用スプレッド、関連するデリバティブ商品、さらに、プット・オプション、ワラント、株式オプションを含む投資ポートフォリオの未実現利益（これらは新興市場に対する世界的な投資環境に一部左右される）などが含まれる。これらの有価証券は、内部で開拓されたモデルや方法を用いて評価される。そうしたモデルや方法に投入するインプットは判別可能である場合とそうでない場合がある。
IDA 拠出金	理事会によって承認された IDA 拠出額の水準。
<b>その他の包括利益</b>	
上場株式投資および売買可能（AFS）債務証券の未実現利益／損失	新興市場の株式に対する世界的な投資環境、特定銘柄のパフォーマンス。これらの株式投資は未調整の時価で評価され、債務証券は、内部で開拓されたモデルや方法を用いて評価される。そうしたモデルや方法に投入するインプットは判別可能である場合とそうでない場合がある。
未認識数理計算上の差異および給付プランの未確認過去勤務費用	年金資産のリターン、給付金債務の予想に用いられた主な仮定（これには、金融市場の金利、過去の経験、将来の給付コストへの影響および経済状況に対する運営陣の最善の予測などが含まれる）。

IFC の 2012 年度の収益（IDA 拠出金差引き前）は 16 億 5,800 万ドルでした。これに対し、2011 年 6 月 30 日に終了した 2011 年度の収益は 21 億 7,900 万ドル、また 2010 年 6 月 30 日に終了した 2010 年度の収益は 19 億 4,600 万ドルでした。

2011 年度に比べ、2012 年度の収益（IDA 拠出金差引き前）が減少した理由は、基本的には、(i) 非トレーディング金融商品への投融資とその他の非トレーディング金融商品（公正価額で評価）の未実現利益の減少、(ii) 株式および債務証券の非一時的な減損額の増大、(iii) 流動資産からの収益低下、(iv) 貸倒れ引当金および債務保証損失引当金の増大、(v) 管理費用の増大に由来したのですが、その一部は、(i) エクイティ投資実現利益および非貨幣資産の交換益の増大、(ii) アドバイザリー・サービスの費用低下（アドバイザリー・サービスの収益差引き後の純額）、(iii) 非トレーディング金融商品の為替取引からの差益増大により相殺されました。

2012 年度の IDA 拠出金は合計 3 億 3,000 万ドルでした。これに対し、2011 年度は 6 億ドル、2010 年度は 2 億ドルでした。従って、2012 年度の純利益は 13 億 2,800 万ドルでした。これに対し、2011 年度は 15 億 7,900 万ドル、2010 年度は 17 億 4,600 万ドルでした。

#### 各年 6 月 30 日に終了する過去 5 年間の IFC 純利益（損失） （百万米ドル）

2012	\$1,328
2011	\$1,579
2010	\$1,746
2009	\$(151)
2008	\$1,547



下記の表は過去 5 年の会計年度における財務データの一部を示したものです (単位: 別段の記述がない限り百万米ドル)。

一部の財務データ 各年 6 月 30 日現在および 6 月 30 日終了年度	2012	2011	2010	2009	2008
<b>収益の要約:</b>					
貸出および保証からの収益	\$ 938	\$ 877	\$ 801	\$ 871	\$ 1,065
貸倒引当金および債務保証損失引当金の取崩し (繰入額)	(117)	40	(155)	(438)	(38)
エクイティ投資からの収益 (損失)	1,457	1,464	1,638	(42)	1,688
内訳:					
エクイティ投資実現利益	2,00	737	1,290	990	1,219
非貨幣資産の交換益	3	217	28	14	177
エクイティ投資未実現利益 (損失) (公正価額で評価)	(128)	454	240	(299)	12
配当および利益参加	274	280	285	311	428
非一時的な減損額	(692)	(218)	(203)	(1,058)	(140)
手数料、その他	–	(6)	(2)	–	(8)
債務証券からの収益	81	46	108	71	163
流動資産のトレーディング活動からの収益	313	529	815	474	473
借入手数料	(181)	(140)	(163)	(488)	(782)
その他の収益					
サービス手数料	60	88	70	39	58
アドバイザー・サービスからの収益	269	–	–	–	–
その他	119	134	106	114	55
その他の費用					
管理費用	(798)	(700)	(664)	(582)	(549)
アドバイザー・サービス費用	(290)	(153)	(108)	(134)	(150)
年金および他の退職後給付費用	(96)	(109)	(69)	(34)	(3)
その他	(23)	(19)	(12)	(14)	(3)
非トレーディング活動の為替取引利益 (損失)	145	(33)	(82)	10	(39)
その他の非トレーディング金融商品 (公正価額で評価) の損益および IDA 拠出金控除前の収益 (損失)	1,877	2,024	2,285	(153)	1,938
その他の非トレーディング金融商品の純利益 (損失)	(219)	155	(339)	452	109
内訳:					
実現益	11	63	5	–	–
非貨幣資産の交換益	10	22	6	45	–
未実現利益 (損失)	(240)	70	(350)	407	109
IDA 拠出前利益	1,658	2,179	1,946	299	2,047
IDA 拠出金	(330)	(600)	(200)	(450)	(500)
純利益 (損失)	\$ 1,328	\$ 1,579	\$ 1,746	\$ (151)	\$ 1,547
<b>連結貸借対照表の要約:</b>					
資産合計	\$75,761	\$68,490	\$61,075	\$51,483	\$49,471
流動資産 (関連デリバティブ控除後)	29,721	24,517	21,001	17,864	14,622
投融資	31,438	29,934	25,944	22,214	23,319
借入金残高 (公正価額調整を含む)	44,665	38,211	31,106	25,711	20,261
資本合計	\$20,580	\$20,279	\$18,359	\$16,122	\$18,261
内訳:					
用途未指定留保利益	\$17,373	\$16,032	\$14,307	\$12,251	\$12,366
用途指定留保利益	322	335	481	791	826
資本金	2,372	2,369	2,369	2,369	2,366
その他の包括利益累積額 (AOCI)	513	1,543	1,202	711	2,703

	2012	2011	2010	2009	2008
各年 6 月 30 日現在および 6 月 30 日終了年度					
<b>財務比率:<sup>1</sup></b>					
平均資産利益率 (GAAP ベース) <sup>2</sup>	1.8%	2.4%	3.1%	(0.3)%	3.4%
平均資産利益率 (非 GAAP ベース) <sup>3</sup>	2.8%	1.8%	3.8%	(1.1)%	3.7%
平均自己資本利益率 (GAAP ベース) <sup>4</sup>	6.5%	8.2%	10.1%	(0.9)%	9.6%
平均自己資本利益率 (非 GAAP ベース) <sup>5</sup>	9.9%	6.0%	11.8%	(3.0)%	9.0%
翌 3 年間の純現金推定所要額に対する現金および短期投資の比率	77%	83%	71%	75%	62%
外部調達資金の流動性レベル <sup>6</sup>	327%	266%	190%	163%	96%
負債比率 <sup>7</sup>	2.7:1	2.6:1	2.2:1	2.1:1	1.6:1
実行済み貸出金残高合計に対する貸倒引当金比率 <sup>8</sup>	6.6%	6.6%	7.4%	7.4%	5.5%
<b>資本測定値:</b>					
リスク加重後の自己資本比率 <sup>9</sup>	n/a	n/a	n/a	44%	48%
所要額合計 (十億ドル) <sup>10</sup>	15.5	14.4	12.8	10.9	10.4
利用可能額合計 (十億ドル) <sup>11</sup>	19.2	17.9	16.8	14.8	15.0
戦略資本金 <sup>12</sup>	3.7	3.6	4.0	3.9	4.6
展開可能な戦略資本金 <sup>13</sup>	1.8	1.8	2.3	2.3	3.1
利用可能額合計に対する展開可能な戦略資本金の比率	9%	10%	14%	16%	21%

1 以下に掲載された特定の財務比率は、投融資や他の非トレーディング金融商品の未実現損益、AOCl、および変動持分事業体 (VIE) の連結からの影響を排除して算出。

2 当年度末と前年度末の資産合計の平均に対する当年度の純利益の比率 (%) を指す。

3 実行済み貸出金・エクイティ投資 (引当金控除後、簿価)、買戻条件付取引控除後の流動資産、さらに当年度と前年度の他の資産合計の平均の合計額に対する、純利益 (ただし特定の投融資の未実現損益 (公正価値で評価)、連結後の変動持分事業体からの収益、非トレーディング金融商品 (公正価値で評価) の損益は除外) の比率 (%) を指す。

4 当年度末と前年度末の資本合計 (応募手続中払込金は除外) の平均に対する当年度の純利益の比率 (%) を指す。

5 当年度と前年度の払込資本および留保利益 (ただし特定の未実現損益控除前、費用として未計上の用途指定項目累積額は除外) の平均に対する、純利益 (ただし特定の投融資の未実現損益 (公正価値で評価)、連結後の変動持分事業体からの収益、非トレーディング金融商品 (公正価値で評価) の損益は除外) の比率 (%) を指す。

6 流動性に関する IFC の目的は、外部調達資金が (i) 契約済み未実行無担保優先貸付の 100%、(ii) 契約済み保証の 30%、および (iii) 契約済み顧客リスク管理商品の 30%を合計した金額の少なくとも 65%をカバーする水準を最低限として維持することにある。

7 年度末の払込資本金および用途未指定の留保利益 (ただし融資、出資、ならびに純利益に含まれる他の非トレーディング金融商品 (公正価値で評価) の未実現累積損益を差引後) の合計に対する借入金残高と保証残高の合計の比率を指す。

8 実行済み貸出金残高合計に対する貸倒引当金比率とは、年度末の実行済み貸出金残高合計に対する貸倒引当金合計の比率 (%) を指す。

9 リスクウェイトを乗じた資産 (オフバランスの資産も含む) に対する資本勘定 (払込資本金、留保利益、ポートフォリオ (一般) 貸倒引当金を含む) の比率を指す。この比率には、IFC の連結貸借対照表の資本合計に計上された「特定用途に指定された留保利益」は含まれない。IFC 理事会は、2008 年 6 月 30 日に終了する年度 (2008 年度) からリスクベース経済資本の枠組みの使用を承認した。そのため、リスク加重後の自己資本比率を並行して利用することは中止された。

10 IFC のトリプル A の格付を維持する上で必要な最低資本金。この金額は、IFC が保有する各資産クラスのリスクベース経済資本所要額を総合して算出。

11 払込資本と留保利益 (ただし用途の指定された留保利益と一般および特定の貸倒引当金控除後) の合計を指す。これは、IFC のリスクベース経済資本の枠組みのもとで利用可能となる資金水準を示す。

12 利用可能額合計から所要額合計を差し引いた金額。

13 利用可能額合計から所要額合計を差し引いた金額の 90%。

## 投融資プログラム

### 契約額

2012 年度の契約合計は、2011 年度の 186 億 6,000 万ドルから 9%増大し、203 億 5,800 万ドルに達しました。そのうち、IFC の契約額は 154 億 6,200 万ドル(2011 年度は 121 億 8,600 万ドル)、また中心的な資金動員額は 48 億 9,600 万ドル(2011 年度は 64 億 7,400 万ドル)でした。

2012 年度と 2011 年度の契約額と中心的な資金動員額は以下に示す通りです(百万米ドル)。

	2012 年度	2011 年度
契約合計 <sup>1</sup>	\$20,358	\$18,660
<b>IFC 契約額</b>		
融資	\$ 6,668	\$ 4,991
エクイティ投資	2,282	1,968
保証:		
グローバル・トレード・ファイナンス・プログラム	6,004	4,638
その他	398	529
顧客リスク管理	110	60
<b>IFC 契約額合計</b>	<b>\$15,462</b>	<b>\$12,186</b>
<b>中心的な資金動員</b>		
融資参加、並行融資、他の資金動員		
融資参加	\$ 1,764	\$ 3,457
並行融資	927	1,127
他の資金動員	814	134
<b>融資参加、並行融資、他の資金動員合計</b>	<b>\$ 3,505</b>	<b>\$ 4,718</b>
<b>AMC</b>		
準債務増強ファンド	\$ 215	\$ 252
株式資本増強ファンド	24	113
ALAC ファンド	190	85
アフリカ資本増強ファンド	8	4
<b>AMC 合計</b>	<b>\$ 437</b>	<b>\$ 454</b>
<b>他のイニシアティブ</b>		
世界貿易流動性プログラムおよびクリティカル・コモディティ・ファイナンス・プログラム	\$ 850	\$ 1,050
インフラストラクチャー危機ファシリティ	63	252
官民パートナーシップ (PPP)を通じた資金動員	41	–
<b>他のイニシアティブ合計</b>	<b>\$ 954</b>	<b>\$ 1,302</b>
<b>中心的な資金動員合計</b>	<b>\$ 4,896</b>	<b>\$ 6,474</b>

<sup>1</sup> 債務証券は、それぞれの特性に基づき、融資ならびにエクイティ投資の中に含まれている。

### 中心的な資金動員の比率

中心的な資金動員の比率とは以下のように定義されます。

融資参加 + 並行融資 + 他の資金動員 + 中心的な資金動員の基準を満たすストラクチャード・ファイナンスのうちの IFC 以外の部分 + イニシアティブ中の IFC 以外の契約額 + AMC が運用するファンド中の IFC 以外の投資契約額 + PPP を通じた資金動員

契約額 (IFC 投融資 + ストラクチャード・ファイナンス中の IFC の部分 + イニシアティブ中の IFC 契約額 + AMC が運用するファンド中の IFC の投資契約額)

2012 年度中、IFC が 1 ドルの拠出契約を行うごとに、0.32 ドルの資金(これには、融資参加、並行融資、他の資金動員、ストラクチャード・ファイナンスの IFC 以外の部分、イニシアティブ中の IFC 以外の契約、および AMC が運用するファンド中の IFC 以外の投資契約という形態が含まれる)を動員しました(2011 年度は 0.53 ドル)。



## アセット・マネージメント社 (AMC)

AMC が運用するファンドの 2012 年 6 月 30 日現在、および 2011 年 6 月 30 日現在の活動は以下に示す通りです (単位: 別段の記述がない限り百万米ドル)。

	株式資本 増強ファンド	準債務 増強ファンド	ALAC ファンド	アフリカ資本 増強ファンド	ロシア銀行資本 増強ファンド	合計
2012 年 6 月 30 日現在の運用資産:	\$1,275	\$1,725	\$1,000	\$182	\$275	\$4,457
IFC からの抛却	775	225	200	—	125	1,325
他の投資家からの抛却	500	1,500	800	182	150	3,132
2012 年 6 月 30 日現在:						
被投資家への契約額						
IFC	36	32	48	—	—	116
他の投資家	24	215	190	8	—	437
投資家からファンドへの実行額:						
IFC	62	28	52	—	—	142
他の投資家	40	186	208	14	—	448
ファンドによる実行額	97	208	174	11	—	490
ファンドによる実行件数	6	2	8	3	—	19

	株式資本 増強ファンド	準債務 増強ファンド	ALAC ファンド	アフリカ資本 増強ファンド	ロシア銀行資本 増強ファンド	合計
2011 年 6 月 30 日現在の運用資産:						
IFC からの抛却	775	225	200	—	—	1,200
他の投資家からの抛却	500	1,500	800	55	—	2,855
2011 年 6 月 30 日現在:						
被投資家への契約額						
IFC	168	38	21	—	—	227
他の投資家	109	252	85	4	—	450
投資家からファンドへの実行額:						
IFC	214	47	17	—	—	278
他の投資家	138	316	64	1	—	519
ファンドによる実行額	344	359	78	—	—	781
ファンドによる実行件数	4	3	4	—	—	11

## アドバイザリー・サービス

2012 年 6 月 30 日現在の IFC アドバイザリー・サービス・ポートフォリオは 8 億 9,400 万ドルでした。これに対し、2011 年 6 月 30 日現在では 8 億 2,200 万ドルでした。2012 年 6 月 30 日現在、および 2011 年 6 月 30 日現在のアドバイザリー・サービス・ポートフォリオの内訳は以下に示す通りです (百万米ドル)。

	金融へのアクセス	投資環境 の整備	官民パート ナーシップ	持続可能なビジ ネスへの助言
2012 年 6 月 30 日現在の実施中ポートフォリオ	\$296	\$226	\$106	\$266
2011 年 6 月 30 日現在の実施中ポートフォリオ	\$293	\$204	\$91	\$234

ВОЗДЕЙСТВИЕ  
 ИННОВАЦИИ  
 ВЛИЯНИЕ  
 ДЕМОНСТРАЦИЯ  
 IMPACTO  
 INNOVACIÓN  
 INFLUENCIA  
 DEMOSTRACIÓN  
 الأثر الإيجابي  
 الابتكار  
 التأثير  
 الإيضاح والبرهان  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 效益  
 创新  
 影响  
 示范  
 インパクト  
 イノベーション  
 影響力  
 デモンストレーション  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 IMPACTO  
 INOVAÇÃO  
 INFLUÊNCIA  
 DEMONSTRAÇÃO  
 ВОЗДЕЙСТВИЕ  
 ИННОВАЦИИ  
 ВЛИЯНИЕ  
 ДЕМОНСТРАЦИЯ  
 IMPACTO  
 INNOVACIÓN  
 INFLUENCIA  
 DEMOSTRACIÓN  
 الأثر الإيجابي  
 الابتكار  
 التأثير  
 الإيضاح والبرهان  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 效益  
 创新  
 影响  
 示范  
 イノベーション  
 影響力  
 デモンストレーション  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 IMPACTO  
 INOVAÇÃO  
 INFLUÊNCIA  
 DEMONSTRAÇÃO  
 ВОЗДЕЙСТВИЕ  
 ИННОВАЦИИ  
 ВЛИЯНИЕ  
 ДЕМОНСТРАЦИЯ  
 IMPACTO  
 INNOVACIÓN  
 INFLUENCIA  
 DEMOSTRACIÓN  
 الأثر الإيجابي  
 الابتكار  
 التأثير  
 الإيضاح والبرهان  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 效益  
 创新  
 影响  
 示范  
 インパクト  
 イノベーション  
 影響力  
 デモンストレーション  
 IMPACT  
 INNOVATION  
 INFLUENCE  
 DEMONSTRATION  
 IMPACTO  
 INOVAÇÃO  
 INFLUÊNCIA  
 DEMONSTRAÇÃO

# 結果

# 結果

民間セクターの顧客が機会を創出し、世界の最貧地域で暮らす人々の生活を向上してきた根底には、IFCの強固な財務基盤と、好況か不況かを問わずに達成してきた優れた実績が存在します。

## 目次

### 1-5

#### IFCのビジョンの達成

- 2 スコアカード
- 4 機会を最も必要とする場での機会創出

### 6-15

#### IFCの事業と専門知識

- 7 業務拠点
- 8 IFCの3つの業務
- 12 産業に関する専門知識
- 14 基準の設定

### 16-51

#### IFCの職員と業務の進め方

- 17 The IFC Way
- 18 開発結果の測定方法
- 26 職員
- 28 ガバナンス
- 30 説明責任
- 32 パートナーシップ
- 34 リスク管理
- 36 責任ある業務活動
- 38 投融資プロジェクトのサイクル
- 42 独立保証報告書
- 45 ステークホルダー審査パネル
- 46 財務の概要